

府中市インフラマネジメント白書
2017年度版（案）

平成29年〇〇月

府 中 市

目 次

1.	インフラマネジメント白書とは.....	1
1.1.	目 的.....	2
1.2.	位置づけ.....	3
1.2.1	国の動向.....	3
1.2.2.	計画の体系.....	4
2.	管理数量・人口について.....	5
2.1.	管理数量.....	6
2.2.	人口.....	8
2.3.	財政運営の考え方.....	10
3.	インフラの現状について.....	11
3.1.	インフラ充足度（近隣市との比較）.....	12
3.2.	インフラの整備状況.....	14
3.2.1.	地域の区分.....	14
3.2.2.	整備状況一覧.....	15
3.2.3.	車道舗装.....	16
3.2.3.1.	全体数量.....	16
3.2.3.2.	道路位置.....	18
3.2.3.3.	車道舗装の状況.....	19
3.2.3.4	地域別集計.....	35
3.2.4.	歩道・植樹ます.....	51
3.2.4.1.	全体数量.....	51
3.2.4.2	歩道・植樹ます位置.....	51
3.2.4.3.	歩道・植樹ますの整備状況.....	53
3.2.5.	案内標識.....	61
3.2.5.1.	全体数量.....	61
3.2.5.2	案内標識位置.....	62
3.2.5.3.	案内標識の整備状況.....	64
3.2.5.4.	地域別集計.....	64
3.2.6.	警戒標識・その他標識.....	66
3.2.6.1.	全体数量.....	66
3.2.6.2	警戒標識・その他標識位置.....	68
3.2.6.3.	警戒標識・その他標識の整備状況.....	69
3.2.6.4.	地域別集計.....	69
3.2.7.	街路灯.....	70
3.2.7.1.	全体数量.....	70
3.2.7.2.	維持管理の状況.....	74
3.2.7.3.	維持管理の整備状況.....	75
3.2.7.4.	地域別集計.....	80

3.2.8.	道路反射鏡	87
3.2.8.1.	全体数量.....	87
3.2.8.2.	道路反射鏡位置.....	88
3.2.8.3.	道路反射鏡の整備状況.....	89
3.2.8.4.	地域別集計.....	90
3.2.9.	街路樹	91
3.2.9.1.	全体数量.....	91
3.2.9.2.	街路樹位置.....	93
3.2.9.3.	街路樹の整備状況.....	94
3.2.9.4.	地域別集計.....	95
3.2.10.	橋りょう	98
3.2.10.1.	全体数量.....	98
3.2.10.2.	橋りょう位置.....	101
3.2.10.3.	橋りょうの整備状況.....	106
3.2.10.4.	橋りょうの劣化状況.....	110
3.2.10.5.	地域別集計.....	113
3.2.11.	立体横断施設等	115
3.2.11.1.	全体数量.....	115
3.2.11.2.	立体横断施設等位置.....	116
3.2.11.3.	立体横断施設等の整備状況.....	117
3.2.12.	大型構造物	118
3.2.12.1.	全体数量.....	118
3.2.12.2.	大型構造物位置.....	119
3.2.12.3.	大型構造物の整備状況.....	120
3.2.13.	公園緑地等	121
3.2.13.1.	全体数量.....	121
3.2.13.2.	公園緑地等位置.....	132
3.2.13.3.	公園緑地等の現況.....	135
3.2.13.4.	公園緑地等の整備状況.....	149
3.2.13.5.	地域別集計.....	163
3.2.14.	法定外公共物	199
3.2.14.1.	全体数量.....	199
3.2.14.2.	法定外公共物の整備状況.....	199
3.2.15.	下水道	200
3.2.15.1.	下水道の全体数量.....	200
3.2.15.2.	下水道設置の位置.....	203
3.2.15.3.	下水道の現況.....	204
3.2.15.4.	下水道の整備状況.....	208
3.3.	維持管理の現況	209
3.4.	管理ボランティア制度の推移	212
3.4.1.	管理ボランティア制度の推移.....	212

3.5.	インフラに係る決算の推移	213
3.5.1.	管理費用位置づけ	213
3.5.2.	維持管理費及び補修更新費の推移	214
3.5.2.1.	インフラ決算の推移.....	214
3.5.2.2.	道路/道路付属物/橋りょう/公園緑地等/立体横断施設等/大型構造物/法定外公共物	214
3.5.2.3.	下水道	216
3.5.3.	維持管理に係る経費	220
3.5.3.1.	道路/橋りょう/公園緑地等.....	220
3.5.3.2.	街路灯	221
3.5.3.3.	街路樹	222
3.5.3.4.	道路反射鏡.....	222
3.5.3.5.	立体横断施設等.....	223
3.5.3.6.	大型構造物.....	223
3.5.3.7.	法定外公共物	224
3.5.3.8.	下水道	224
3.5.4.	補修更新に係る経費	225
3.5.4.1.	道路/道路付属物/橋りょう/公園緑地等/立体横断施設等/大型構造物/法定外公共物	225
3.5.5.	人件費.....	226
3.5.6.	歳入の推移	227
3.5.6.1.	市歳入	227
3.5.6.2.	地方譲与税.....	227
3.5.6.3.	下水道	228
3.5.6.4.	歳入と歳出の比較	229
4.	将来の管理費用の予測について.....	230
4.1.	経費予測の条件.....	231
4.2.	将来経費の予測額	235
4.2.1.	将来経費の予測額の内訳（維持管理）	235
4.2.1.1.	道路.....	235
4.2.1.2.	歩道・植樹ます.....	335
4.2.1.3.	標識（施設案内・警戒・その他）	235
4.2.1.4.	街路灯	325
4.2.1.5.	道路反射鏡.....	235
4.2.1.6.	街路樹	325
4.2.1.7.	橋りょう	236
4.2.1.8.	立体横断施設等.....	236
4.2.1.9.	大型構造物.....	236
4.2.1.10.	公園緑地等.....	236
4.2.1.11.	法定外公共物	237
4.2.1.12.	下水道	237
4.2.1.13.	維持管理費の将来経費の予測.....	238
4.2.2.	将来経費の予測額の内訳（補修更新）	239

4.2.2.1.	車道舗装.....	239
4.2.2.2.	歩道・植樹ます.....	243
4.2.2.3.	標識（施設案内・警戒・その他）.....	243
4.2.2.4.	街路灯.....	244
4.2.2.5.	道路反射鏡.....	244
4.2.2.6.	橋りょう.....	245
4.2.2.7.	立体横断施設等.....	246
4.2.2.8.	大型構造物.....	246
4.2.2.9.	公園緑地等.....	246
4.2.2.10.	法定外公共物.....	251
4.2.2.11.	下水道.....	251
4.2.2.12.	補修更新費の将来経費の予測.....	253
4.2.3.	将来経費の予測額の内訳（人件費）.....	254
4.2.4.	将来経費の予測額全体.....	255
4.2.5.	歳入の予測.....	257
4.2.6.	現行白書と次期白書の経費比較.....	261
4.3.	予測結果の評価.....	262
4.3.1.	全体.....	262
4.3.2.	車道.....	262
4.3.3.	歩道・植樹ます.....	262
4.3.4.	標識.....	262
4.3.5.	街路灯.....	263
4.3.6.	道路反射鏡.....	263
4.3.7.	街路樹.....	263
4.3.8.	橋りょう.....	263
4.3.9.	立体横断施設等.....	264
4.3.10.	大型構造物.....	264
4.3.11.	公園緑地等.....	264
4.3.12.	法定外公共物.....	264
4.3.13.	下水道.....	265
4.3.14.	人件費.....	265
4.3.15.	歳入.....	265
5.	インフラマネジメントの関心.....	266
5.1.	インフラマネジメントの関心.....	267
5.2.	アンケート結果及び評価.....	274
6.	参考資料（用語の解説）.....	275

※ 作成における前提

【金額】

数値の端数処理を行っているため、合計と内訳が一致しない場合があります。

1. インフラマネジメント白書とは

1. インフラマネジメント白書とは

1.1. 目的

府中市では、昭和 30 年代～昭和 40 年代の高度経済成長期に、道路、橋りょう、公園緑地等、下水道などの、多くの都市基盤施設（以下、「インフラ」という。）を整備しました。これらのインフラは、市民生活の根幹を担うものとして、安全性を欠くことなく管理をしてきました。しかし、これらのインフラの多くが整備後 35 年以上を経過しており、同時期に老朽化が進行しています。そのため、今後の管理に係る費用は膨大なものとなり、現状の市の財政事情では、全てのインフラや公共施設等をこれまでと同様に管理し続けていくことができないことが「府中市インフラマネジメント白書（平成 24 年 10 月）」（以下、「前白書」という。）で明らかになりました。このことから、市の現状を踏まえてインフラにおける計画的な管理及び適切なコスト管理を進めるために、「府中市インフラマネジメント計画（平成 25 年 1 月）」（以下、「前計画」という。）を策定しています。

引き続きインフラマネジメントを進めていくためには、インフラ管理に係る現状や課題の把握などを的確に行った上で取組む必要があります。そのため、府中市インフラマネジメント白書 2017 年度版（以下、「本白書」）は、現状の劣化状況や経費等を改めて整理することで、インフラ管理に係る方向性を示す「府中市インフラマネジメント計画 2017 年度版」（以下、「計画」という。）の根拠資料とすることを目的とします。

1.2. 位置付け

1.2.1. 国の動向

平成 24 年 12 月の中央自動車道笹子トンネル天井板落下事故以降、インフラの老朽化対策は国の取組みとしても推進されており、平成 25 年 10 月には、内閣官房による「インフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議」が設置されました。

平成 25 年 11 月には、インフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議により、国民生活やあらゆる社会経済活動を支える各種施設をインフラとして幅広く対象とし、戦略的な維持管理・更新等の方向性を示す基本的な計画として、「インフラ長寿命化基本計画」がまとめられました。この計画においては、国と地方自治体それぞれにおいて、あらゆるインフラの安全性の向上と効率的な維持管理を実現することとされています。国においては、各省庁で行動計画を策定し、取組みを進めています。

地方自治体に対しては、平成 26 年 4 月に総務省から、「公共施設等の総合的かつ計画的な管理の推進について」が通知され、「公共施設等総合管理計画」の策定が求められています。

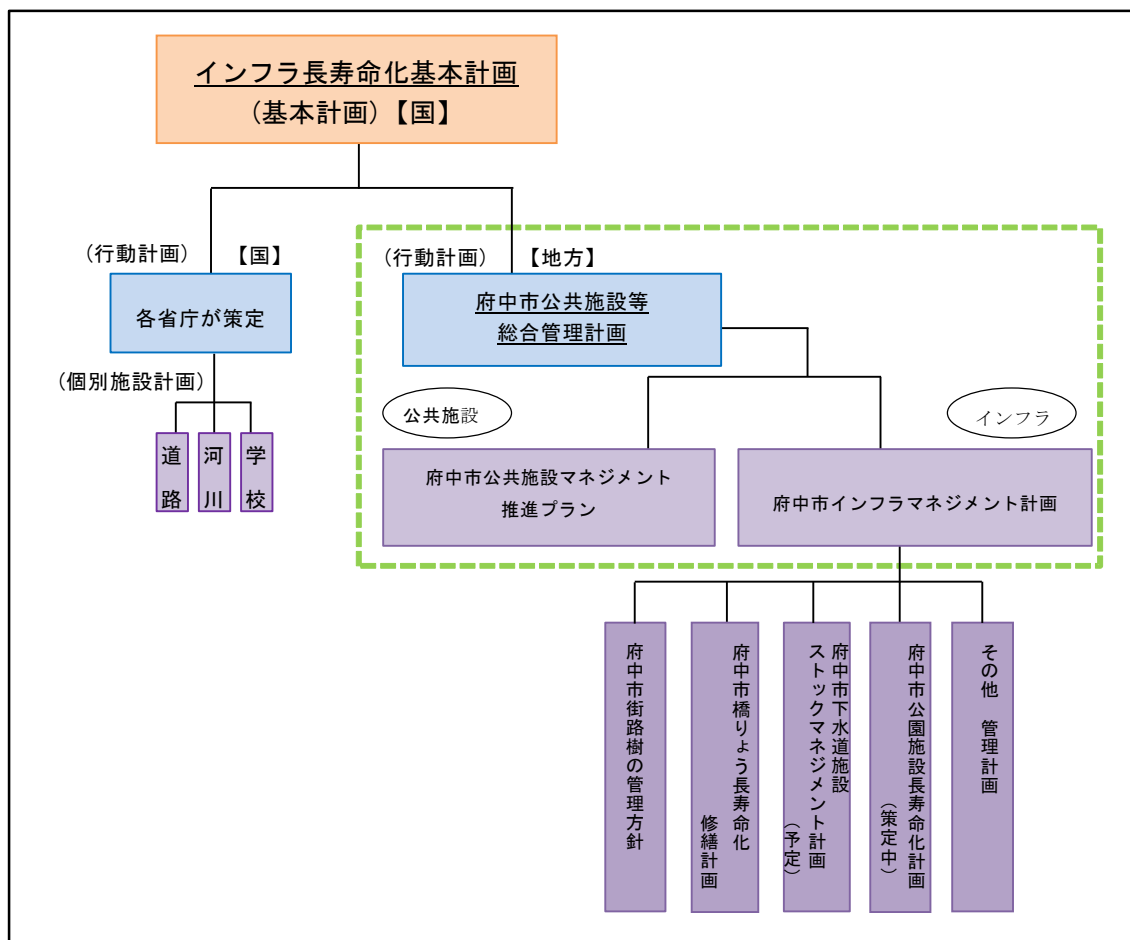


図 1-2-1-1 国のとの計画体系との関係

1.2.2. 計画の体系

本市では、国が定めるインフラ長寿命化基本計画策定以前からインフラや公共施設等に係る課題を認識しており、平成 25 年 1 月に「前計画」、平成 26 年 1 月に「第 1 次府中市公共施設マネジメント推進プラン（以下、「推進プラン」という）」を策定し、計画的に取り組んできました。また、「前計画」及び「推進プラン」を一体として取り組み、国の要請を踏まえ、改めて本市の公共施設等の全体の現況や人口及び財政の状況を示し、課題を整理するため、「府中市公共施設等総合管理計画（平成 29 年 1 月）」（以下、「総合管理計画」という。）を新たに策定し、国が定めるインフラ長寿命化基本計画の「行動計画」として位置付けました。

「本白書」はこの「総合管理計画」の個別施設計画である「計画」を補完する根拠資料として位置付けます。

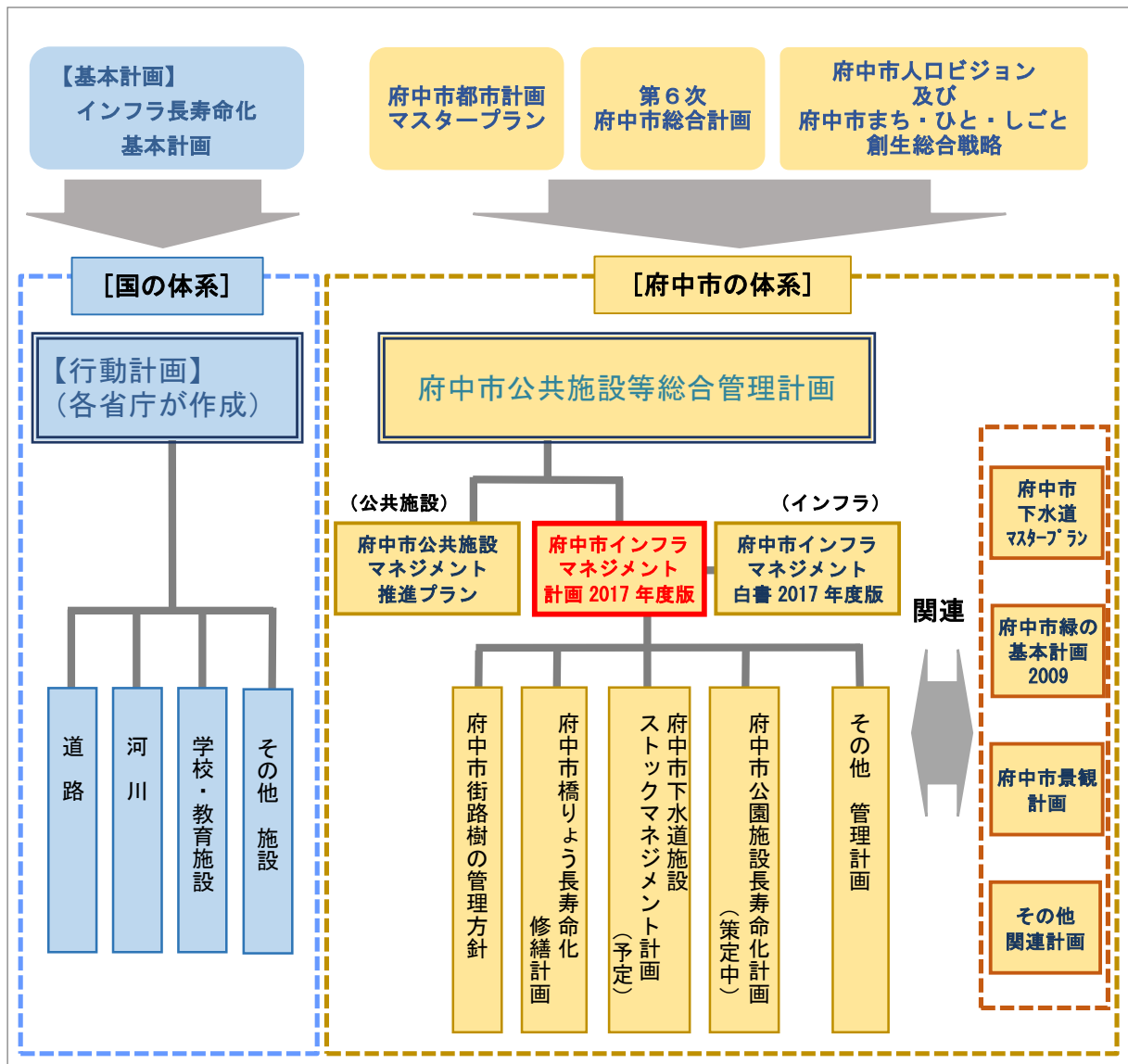


図 1-2-2-1 市の計画体系との関係

2. 管理数量・人口について

2. 管理数量・人口について

2.1. 管理数量

市が管理する、「道路」、「橋りょう」、「公園緑地等」、「下水道」などについて、規模や劣化状況などを整理します。「本白書」で管理状況を明らかにするインフラの対象は、次の通りです。

表 2-1-1 「本白書」対象施設 一覧表

施設項目		数量	延長	面積	備考	
道路	車道	幹線市道	61 路線	88.540km	987,299 m ²	
		一般市道	2,369 路線	343.166km	1,685,811 m ²	
		合計	2,430 路線	431.706km	2,673,110 m ²	
	歩道	歩道舗装	371 路線	173.502km	489.158 m ²	
		植樹ます (89 路線)	1,867 か所	—	—	
道路附属物	標識	施設案内標識	803 基	—	—	
		警戒標識	283 基	—	—	
		その他標識	122 基	—	—	
		合計	1,208 基	—	—	
	街路灯	交通安全灯	7,188 基	—	—	
		防犯灯	10,456 基	—	—	
		合計	17,644 基	—	—	
	道路反射鏡	3,113 基	—	—		
街路樹	10,488 本 (240 路線)	—	—			

施設項目		数量	延長	備考
橋りょう	道路橋	21 橋	369m	
	歩道橋	15 橋	410m	
	合計	36 橋	779m	
立体横断施設等	ペDESTリアンデッキ	2 橋	—	府中駅、府中本町駅、西府駅及び分倍河原駅付近
	エレベーター	7 基	—	
	エスカレーター	4 基	—	
大型構造物	ボックスカルバート	10 か所	—	
	擁壁	15 か所	—	
	その他	1 か所	—	西府駅自由通路
	合計	26 か所	—	

施設項目		箇所数	面積	備考
公園緑地等	市立公園	274 箇所	1,299,063 m ²	
	都市公園	35 箇所	5,107 m ²	
	広場	40 箇所	16,094 m ²	
	府中多摩川かぜのみち	1 箇所	35,048 m ²	
	市立公園以外の管理地	46 箇所	80,992 m ²	
	合計	396 箇所	1,436,305 m ²	

施設項目	面積	備考
法定外公共物	赤道	86,759 m ²
	水路	169,467 m ²
	市有通路	55,596 m ²

施設項目	管きょ延長	区域面積	備考
下水道	北多摩一号処理区	734,354m	2,505.73ha
	野川処理区	18,054m	219.47ha
	合計	752,409m	2,725.20ha

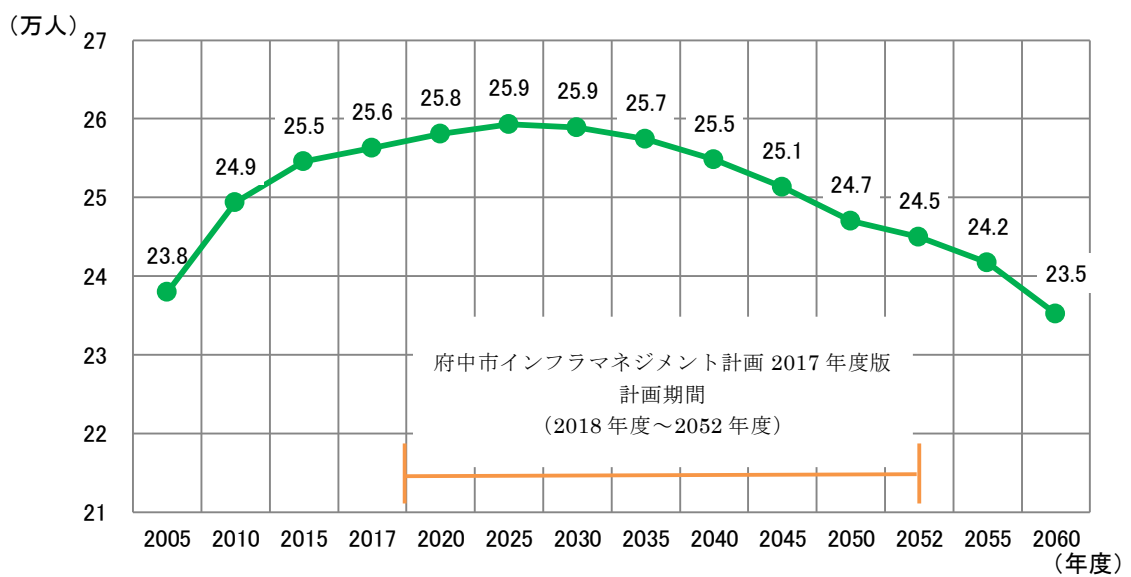
※ 参考「平成 27 年度 府中市事務報告書」及び「道路調査資料」、「市の管理道路に関する調査」、「標識台帳」、「反射鏡台帳」、「公園緑地等関係資料(平成 28 年度)」、「下水道マスタープラン」

2.2. 人口

「府中市人口ビジョン（平成28年1月策定）」では、本市の人口の将来展望を検討するに当たり、総人口や人口構造を把握するため、将来人口のシミュレーションを実施し、市の最上位計画である「第6次府中市総合計画」で示す将来人口推計と同様の考えに基づき、近年の合計特殊出生率や社会移動の状況を踏まえた推計として「基本ケース」を設定しています。

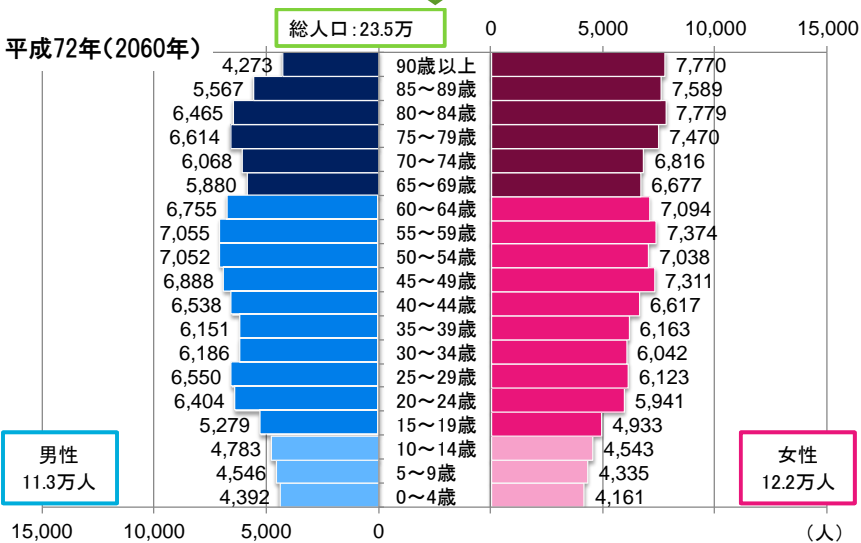
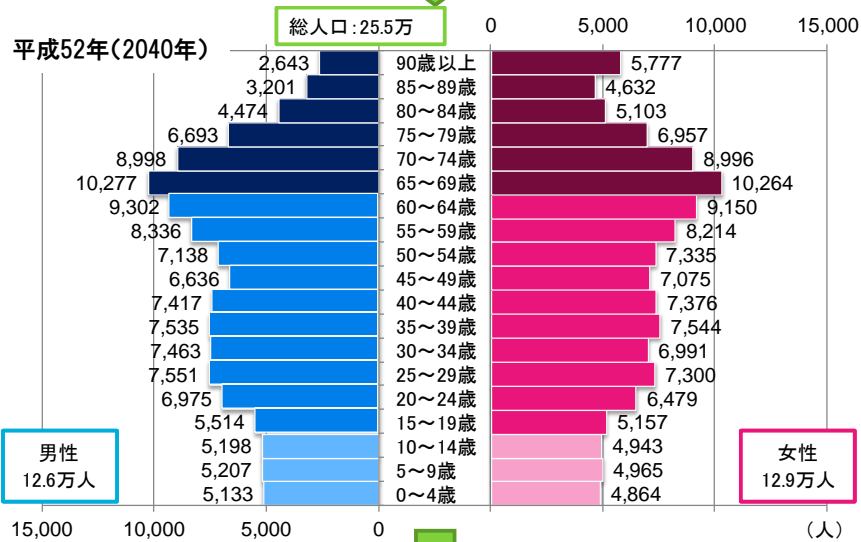
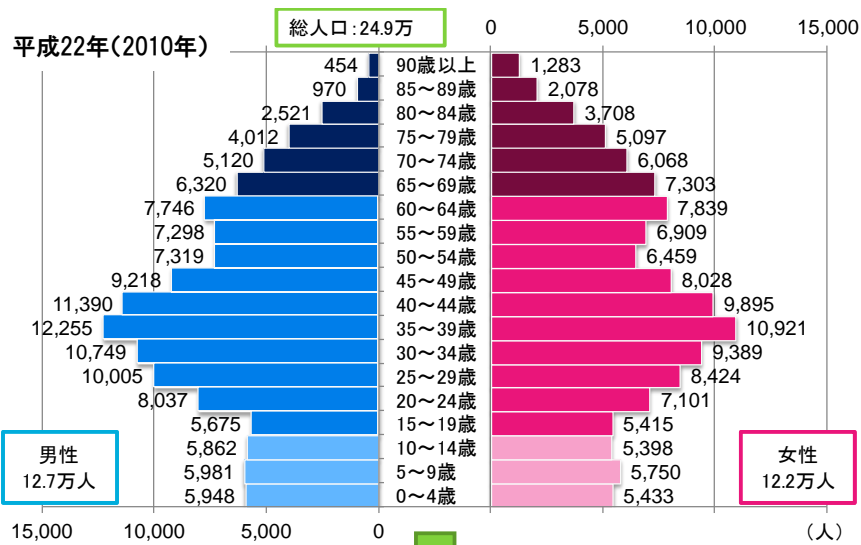
その中では、本市の総人口は、平成37年頃、約25.9万人でピークを迎え、以降減少に転じ、平成72年には23.5万人で、ピークから2万人以上減少すると見込まれています。

また、人口構造に関するシミュレーション結果では、平成52年には、35歳から45歳までのいわゆる団塊ジュニア世代が高齢者となり、急激に高齢化が進むことが見込まれています。さらに、平成72年には、団塊ジュニア世代のような極端なピークを形成する年齢層はなくなるものの、年少人口の減少傾向が強まることが見込まれています。



出典：「府中市人口ビジョン」

図2-2-1 長期的な総人口の推移に関するシミュレーション結果



出典: 「府中市人口ビジョン」

図2-2-2 人口構造に関するシミュレーション結果

2.3. 財政運営の考え方

府中市では、近年の景気回復傾向を受け、歳入の根幹である市税は増加傾向にあるものの、今後の景気の動向が不透明な中、税制改正による影響なども考慮されることから、増収は見込めない状況です。

一方で、保育所需用や高齢者人口の増加などに伴い、扶助費をはじめとした社会保障関係経費のさらなる増加が予想されます。また、今後は老朽化が進む施設の大規模修繕や更新にかかる費用が増大することが懸念されるほか、防災・減災対策や環境施策など、時代の要請に応じた施策も求められており、引き続き予断を許さない財政状況が続くことが想定されます。

このため、新たな歳入確保や事務事業の見直し等の行財政改革に取り組むとともに、計画的に基金を積み立てるなど、将来に負担が転嫁されることのないよう、持続可能な財政運営を行う必要があります。多様化する市民ニーズに応えるためにも、引き続き効果的で効率的な市民サービスに努めるとともに、十分に将来を見据えた上で、健全財政を維持していくことが求められます。

表 2-3-1 財政見通し（普通会計）平成 28 年度～33 年度

	平成28年度 (3月補正後予算)	平成29年度 (当初予算)	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	計画期間合計 (H30～H33)
歳入	1,098 億円	1,062 億円	940 億円	956 億円	1,011 億円	988 億円	3,895 億円
市税	507 億円	492 億円	489 億円	492 億円	491 億円	484 億円	1,956 億円
国庫・都支出金	323 億円	280 億円	279 億円	290 億円	281 億円	287 億円	1,137 億円
基金繰入金	21 億円	61 億円	15 億円	17 億円	47 億円	26 億円	105 億円
市債	57 億円	92 億円	11 億円	11 億円	30 億円	30 億円	82 億円
その他	190 億円	137 億円	146 億円	146 億円	162 億円	161 億円	615 億円
歳出	1,098 億円	1,062 億円	940 億円	956 億円	1,011 億円	988 億円	3,895 億円
義務的経費	436 億円	443 億円	453 億円	461 億円	468 億円	474 億円	1,856 億円
人件費	113 億円	114 億円	120 億円	121 億円	121 億円	120 億円	482 億円
扶助費	281 億円	287 億円	291 億円	299 億円	307 億円	316 億円	1,213 億円
公債費	42 億円	42 億円	42 億円	41 億円	40 億円	38 億円	161 億円
投資的経費	208 億円	216 億円	80 億円	86 億円	122 億円	103 億円	391 億円
その他経費	454 億円	403 億円	413 億円	422 億円	433 億円	427 億円	1,695 億円
削減目標額	- 億円	億円	▲ 6 億円	▲ 13 億円	▲ 12 億円	▲ 16 億円	▲ 47 億円

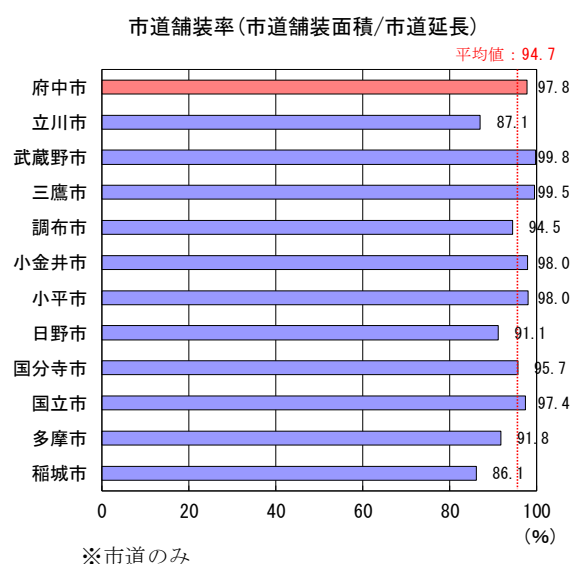
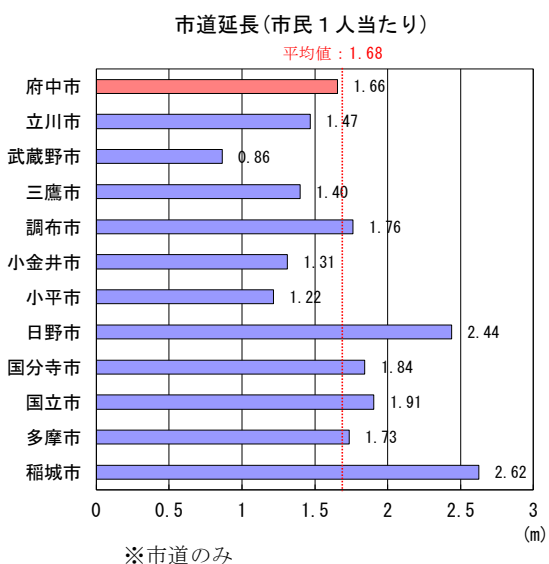
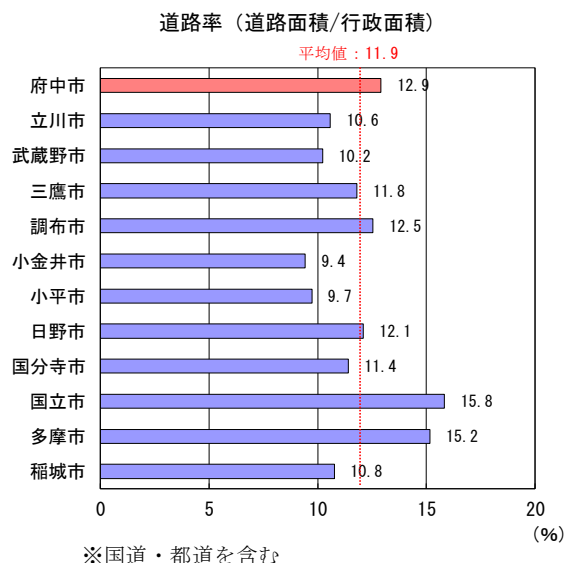
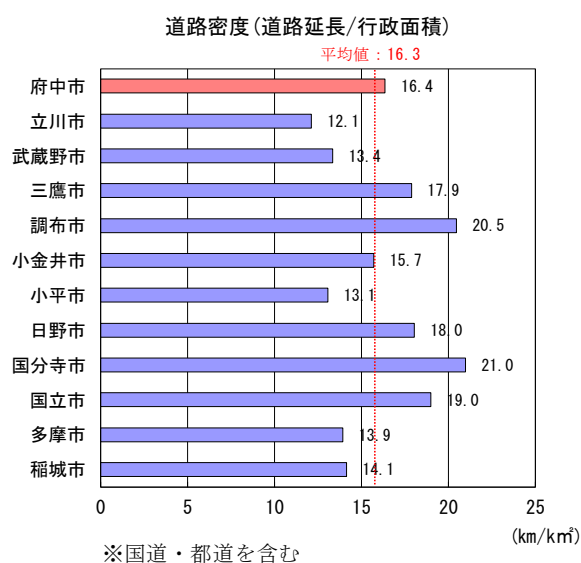
3. インフラの現状について

3. インフラの現状について

3.1. インフラ充足度（近隣市との比較）

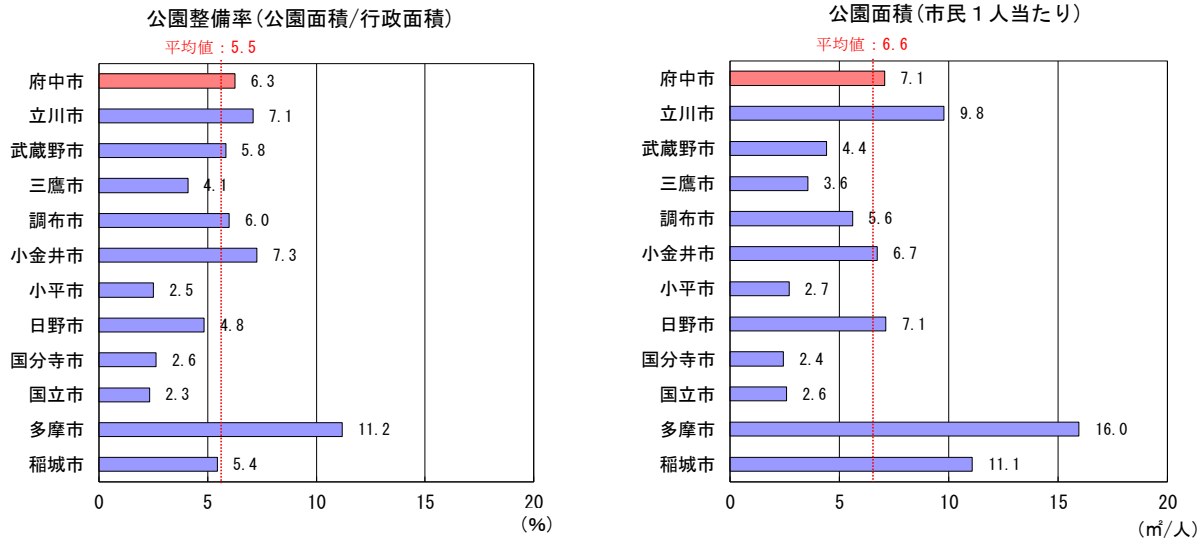
近隣の市と府中市のインフラ充足度を比較しました。府中市のインフラ充足度は、近隣の市と比較して同等、もしくは高い状態です。

○ 道路



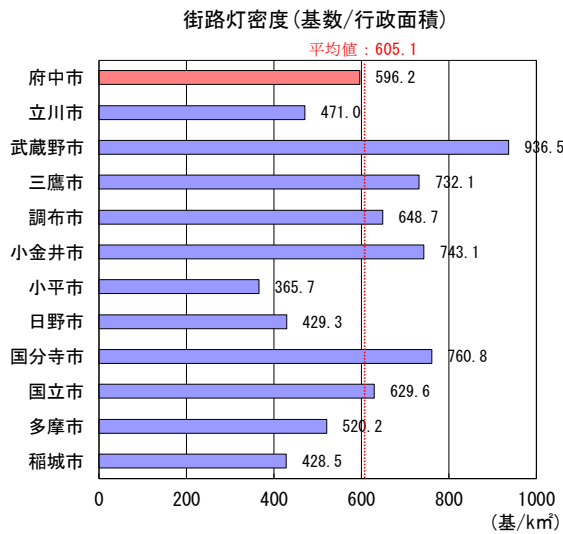
- ※ 出典【道路・人口】東京都道路現況調書（東京都建設局道路管理部）（平成28年度）
- ※ 出典【行政面積】平成28年全国都道府県市区町村別面積調（国土地理院）
- ※ 出典【市道舗装面積】各市のホームページ等

公園緑地等

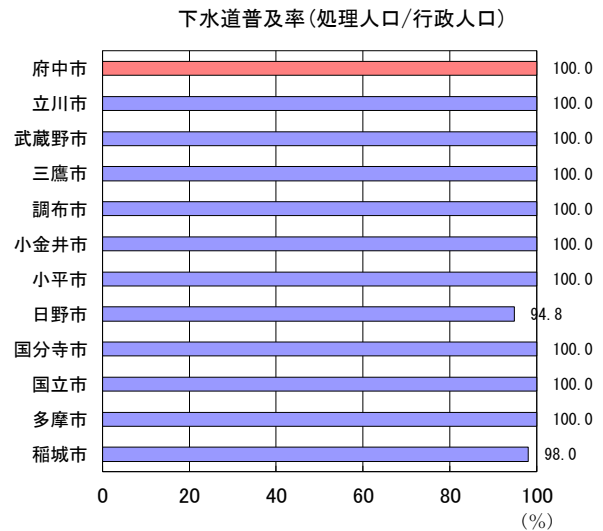


※ 出典【公園緑地等】東京都都市公園等区市町村別面積・人口割比率表（平成28年4月1日）

○ 街路灯



○ 下水道



※ 出典【街路灯】各市のホームページ等

※ 出典【下水道普及率】全国市町村別下水道処理人口普及率一覧（平成27年度末）

（日本下水道協会）

3.2. インフラの整備状況

3.2.1. 地域の区分

インフラの整備状況は、市全体のほかに、「府中市都市計画マスタープラン」で定める「地域別まちづくり方針」の地域区分ごとに整理します。地域区分は、次のとおりです。

表 3-2-1-1 地域区分一覧表

地域区分	面積 (ha)	地域範囲
第1地域	約 539ha	多磨町全域、朝日町全域、紅葉丘全域、白糸台1丁目～3丁目及び4丁目～6丁目の一部、若松町3丁目～5丁目
第2地域	約 594ha	白糸台4～6丁目の一部、押立町全域、小柳町全域、若松町1丁目及び2丁目、清水が丘全域、是政1～5丁目、日吉町全域
第3地域	約 394ha	浅間町全域、天神町全域、新町全域、幸町全域、晴見町全域、栄町全域
第4地域	約 227ha	府中町全域、緑町全域、宮町全域、八幡町全域、本町1丁目及び2丁目、宮西町全域、寿町全域
第5地域	約 244ha	武蔵台1～3丁目、北山町1～4丁目、西原町1～4丁目、東芝町の一部
第6地域	約 248ha	片町1～3丁目、日鋼町全域、東芝町の一部、美好町1～3丁目、分梅町1丁目、本宿町1～4丁目、西府町全域
第7地域	約 413ha	矢崎町全域、南町全域、本町3丁目及び4丁目、分梅町2丁目～5丁目、住吉町全域、是政6丁目
第8地域	約 271ha	四谷全域、日新町全域

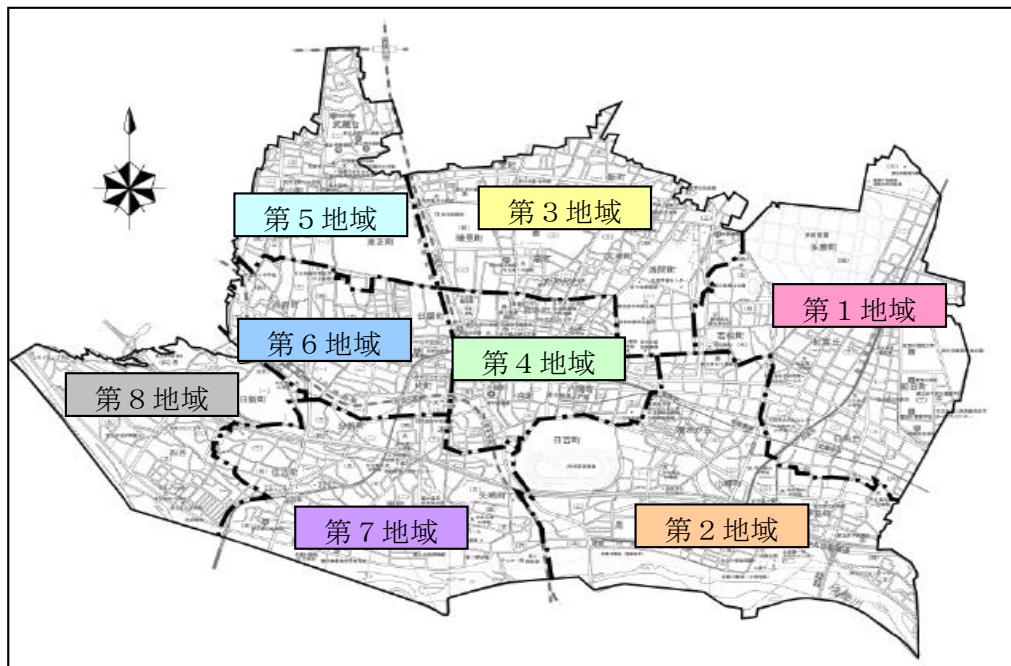


図 3-2-1-1 地域区分図

3.2.2. 整備状況一覧

本白書で整理している各施設の情報（3.2.3.～3.2.15）は、次の資料を根拠に整理を行ったものです。

表 3-2-2-1 調査条件一覧

施設項目	施設名	調査・点検年度(最新)	更新内容
道路	車道	平成 28 年度現地調査	路面性状調査車 目視調査
	歩道	平成 28 年度現地調査	目視調査
道路附属物	施設案内標識	平成 24 年度現地調査	目視調査
	警戒標識	平成 28 年度過年度台帳整理	—
	その他標識	一部現地調査	目視調査
	交通安全灯	平成 28 年度管理台帳整理	—
	防犯灯	平成 28 年度管理台帳整理	—
	道路反射鏡	平成 28 年度過年度台帳整理 一部現地調査	— 目視調査
	街路樹	平成 27 年度 航空写真	目視調査
橋りょう		平成 27・28 年度橋りょう定期点検 結果	目視調査
立体横断施設等		平成 28 年度整理	—
大型構造物		平成 28 年度整理	—
公園緑地等		公園緑地等関係資料(平成 28 年度)	—
法定外公共物		平成 28 年度整理	—
下水道		下水道マスタープラン	—

3.2.3. 車道舗装

車道舗装は、路面性状調査車及び目視により、舗装面の劣化状況を調査しました。

3.2.3.1. 全体数量

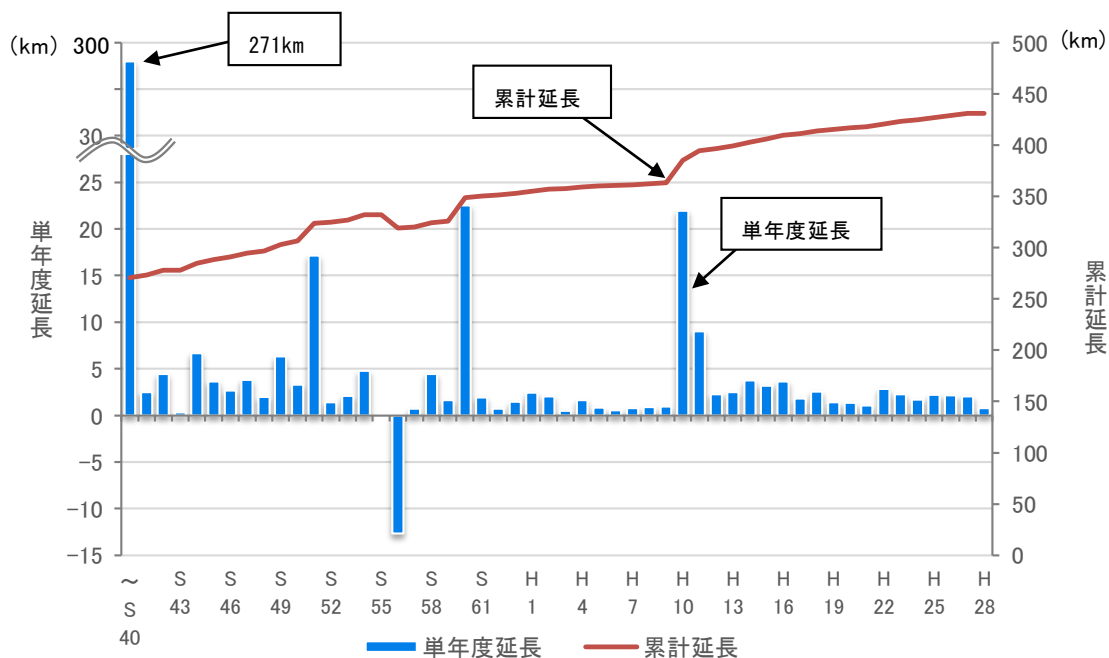
車道の管理数値は、表 3-2-3-1 のとおりです。なお、この表の数値は、歩道を含む数量です。

表 3-2-3-1 車道（全体）の管理数値

項目	延長	面積
道路（車道）	431,706m	2,673,110 m ²
舗装	416,886m	2,633,087 m ²
舗装率	96.74%	98.75%

※ 出典「平成 27 年度 府中市事務報告書」及び「道路調査資料」より抜粋

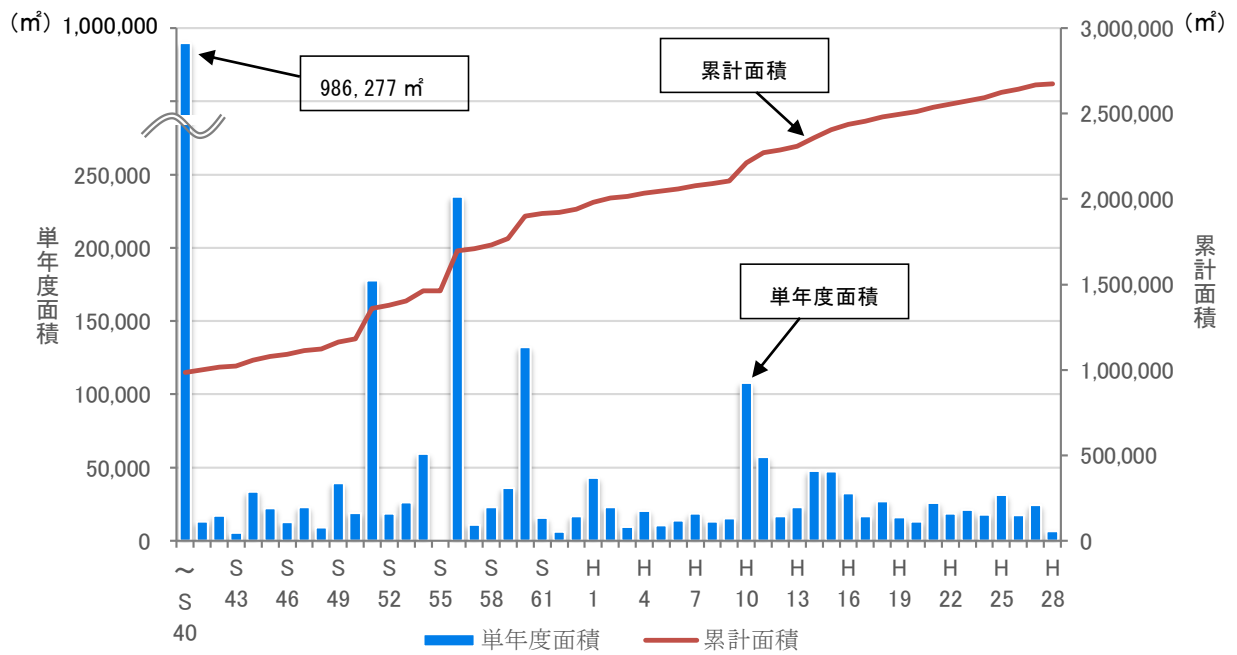
府中市が管理する市道（橋りょうを含む。）は、道路延長が約 431km、道路面積が約 267 万 m²です。このうち、道路延長の約 63%が、また、道路面積の約 37%が昭和 40 年度までに整備されたものです。



※昭和 56 年度の市道の再編成時に数値を整理しています。

※出典 「府中市公共施設等総合管理計画」より抜粋

図 3-2-3-1 市道の認定状況（延長）

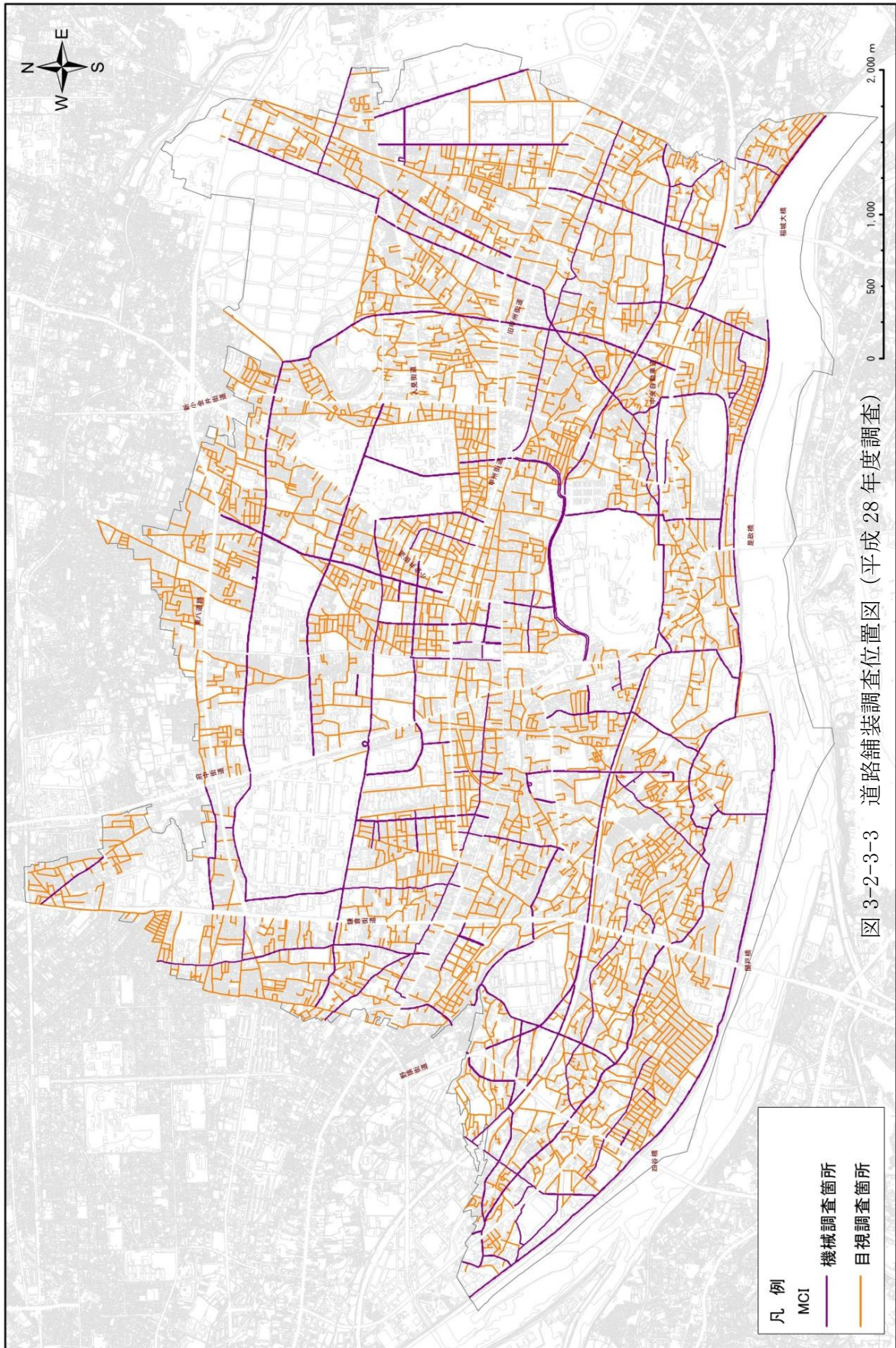


※昭和56年度の市道の再編成時に数値を整理しています。

※出典 「府中市公共施設等総合管理計画」より抜粋

図 3-2-3-2 市道の認定状況（面積）

3.2.3.2. 道路位置



3.2.3.3. 車道舗装の状況

(1) 点検条件

① 指標

車道舗装の評価は、舗装の劣化状態を指標とします。(MCI値※)

※ MCI値(維持管理指数)

舗装の劣化状態を「ひび割れ率」、「わだち掘れ量」、「平坦性」の3つの組み合わせから数値化した指標。10を最大値として状態が悪いほど数値が下がっていく。

※ MCI値の評価めやす

MCI3.0以下	早急に修繕が必要
MCI4.0以下	補修が必要
MCI5.0以下	修繕が望ましい
MCI5.1以上	望ましい管理水準

※「望ましい管理水準」とは軽微な劣化は含まれているものの、一般的に安全面で影響がないと判断できる健全な状況を指します。

※(説明写真)劣化状況例ごとのMCI値



図 3-2-3-4 MCI=5
ひび割れが見える程度



図 3-2-3-5 MCI=3.5~4
ひび割れが複数ある程度



図 3-2-3-6 MCI=3
ひび割れが面状にひろがり、わだちが顕著



図 3-2-3-7 MCI=2
ひび割れが全面にひろがり、わだち掘れが顕著

② 実施数量

調査した車道舗装の延長は、次のとおりです。

表 3-2-3-2 車道調査数量一覧

調査方法	道路種別	調査延長 (m)	調査項目	評価単位	上下線	備考
機 械	幹線市道	153,374	ひびわれ	20mごと	上下	多車線区間は全車線調査（付加車線除く）としました
	一般市道	9,172	わだち掘れ			
目 視	一般市道	320,167	ひびわれ	街区ごと	下りのみ	
合 計		482,713	—	—	—	

- ※ 車道幅員 6.5m 以上の区間を含む路線は「機械調査」、それ以外は「目視調査」を行っています。
- ※ 目視調査路線は、大型車両が少なくわだち掘れが発生しにくいと判断し、ひびわれ調査のみを行っています。
- ※ 解析時、目地は劣化に含めないこととしました。

③ 調査項目及び解析手法

【機械調査※】

機械調査（路面性状測定車）は、「舗装調査・試験法便覧（社団法人日本道路協会平成 19 年 6 月）」に基づいて解析しました。

1) ひびわれ率（機械）

車道の面積に対してどの程度ひびわれがあるのかを、0.1%単位で調査しました。

2) わだち掘れ（機械）

わだち掘れの量を、測定区間の進行方向 10m 毎にmm単位で調査しました。

- ※ 車道舗装の劣化状態を把握するため、専用の「路面性状測定車」により調査を実施しました。なお路面性状測定車は、毎年行われる公的機関による性能確認試験で性能保証を受けた車両を使用しています。

【目視調査】

目視調査は、調査員が徒歩でひびわれのみを調査しました。なお、ひびわれの劣化程度は、次に示す判定基準に基づいて決定しました。

○ ひびわれ率（目視）

- ・ 不連続に単線でひびわれが発生している場合 5%以下
- ・ 連続して単線でひびわれが発生している場合 5～15%
- ・ 道路幅のおおむね 1/8 にひびわれが発生している場合 5～15%
- ・ 道路幅のおおむね 1/4 にひびわれが発生している場合 15～30%
- ・ 道路幅のおおむね 1/3 にひびわれが発生している場合 30～50%
- ・ 道路幅のおおむね 1/2 にひびわれが発生している場合 50%以上

④ 評価方法と要補修判定基準

【評価方法】

評価には、MC I（維持管理指数^{※1}）を用いています。なお、MC I は、次の式により算出しています。

$$MCI_0 = 10 - 1.51C^{0.3} - 0.30D^{0.7} \quad (1)$$

$$MCI_1 = 10 - 2.23C^{0.3} \quad (2)$$

$$MCI_2 = 10 - 0.54D^{0.7} \quad (3)$$

ここに C : ひびわれ率(%)
D : わだち掘れ量(mm)
MC I、MC I_i : 維持管理指数

機械調査は、上記(1)～(3)の式で算出した値のうち、最も小さい値を用いました。また、目視調査については、(2)の式で算出した値を用いました。

【補修判定基準】

補修の判定基準は、表 3-2-3-3 に示す値を用いました。

表 3-2-3-3 MC I の標準的な判定基準

評価ランク	評価の範囲	判定結果
水準Ⅰ	$0.0 \leq MCI \leq 3.0$	早急に修繕が必要
水準Ⅱ	$3.0 < MCI \leq 4.0$	修繕が必要
水準Ⅲ	$4.0 < MCI \leq 5.0$	修繕が望ましい
水準Ⅳ	$5.0 < MCI$	望ましい管理水準

※ 出典「第 34 回建設省技術研究会報告 昭和 55 年度」P40

⑤ 車道舗装の補修間隔

昭和 56 年度から平成 28 年度までの「工事台帳」から、車道舗装の補修実績（更新サイクルに相当）の実態を把握しました。

具体的には、過去の補修状況を工法別に集計し、平均経年数などの舗装補修の現状を把握しました。また、集計対象は、同一箇所に対して 2 回以上の工事台帳がある区間と、補修工事を 1 回実施した後から現在に至っている区間とします。なお、舗装の更新サイクルを≒耐用年数(劣化予測の算定ベース)としました。

【舗装更新・補修の実績】			
○ 幹線市道	打換え工事の平均更新間隔年数は	約 19 年	
	オーバーレイ工事の平均補修間隔年数は	約 12 年	
○ 一般市道	打換え工事の平均更新間隔年数は	約 21 年	
	オーバーレイ工事の平均補修間隔年数は	約 10 年	

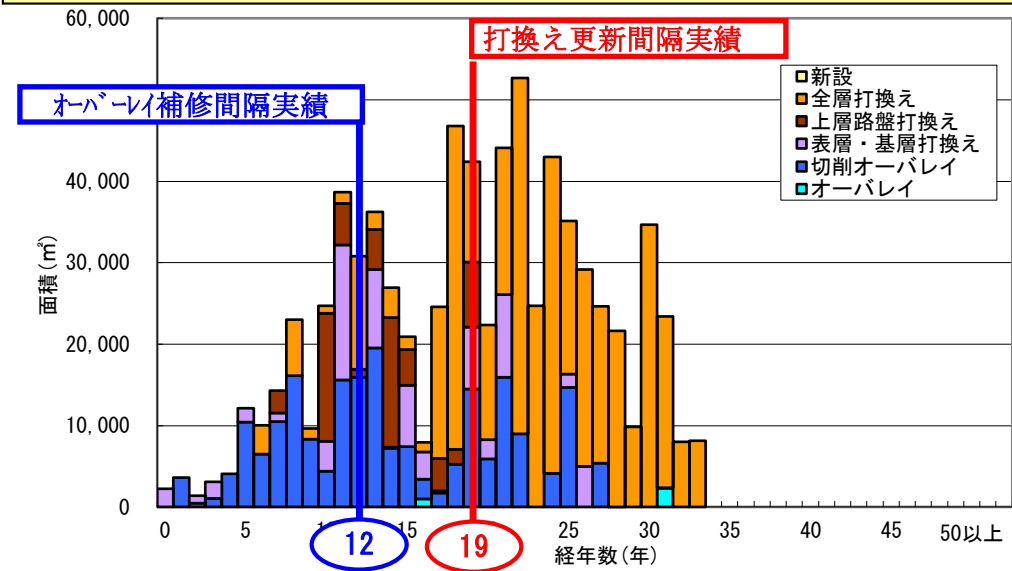


図 3-2-3-8 幹線市道の舗装更新周期（実績）

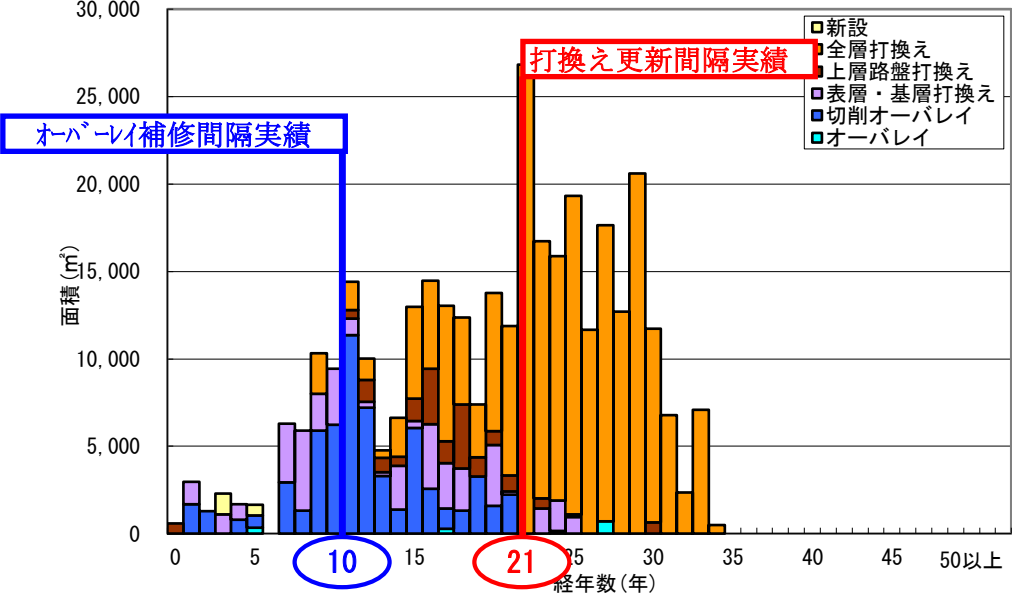


図 3-2-3-9 一般市道の舗装更新周期（実績）

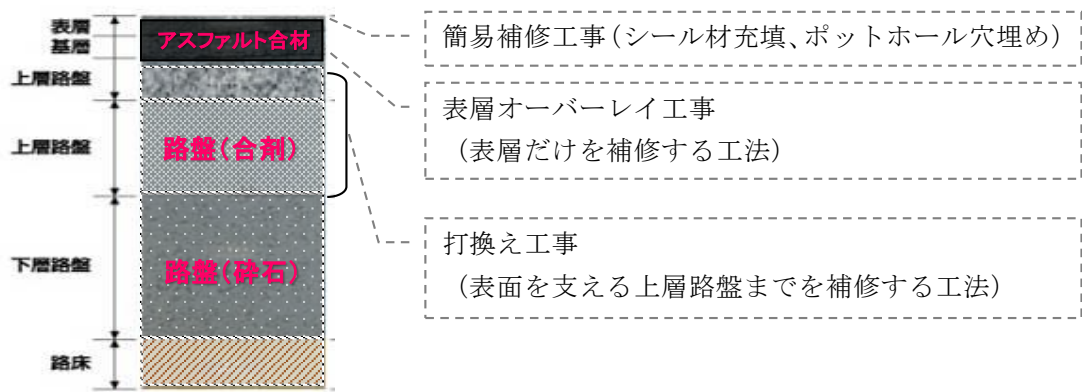


図 3-2-3-10 舗装の構造と補修工事のイメージ

(2) 点検結果（全体）

①-1 MC I (維持管理指数)

調査結果から、地域別に平均MC I を比較しました。なお、市全体での平均MC I は6.7であり、前回調査（平成23年度）から0.2減少しています。

また、地域別の比較では第5地域、第8地域が最も低く（劣化している）、平均MC I は6.5です。第5地域は、大規模な工場や幹線都道を含む地域です。第8地域は、多摩川沿いに緑地が見られ、工場跡地から集合住宅へ土地利用転換が進んでいる地域です。（図3-2-3-11）

表 3-2-3-4 車道舗装の劣化程度（地域区分別のMC I）

地域区分	平成28年度		前回調査（平成23年度）		増減
	調査延長	平均MC I	調査延長	平均MC I	
市全体	482,713m	6.7	473,183m	6.9	-0.2
第1地域	75,160m	6.9	71,034m	7.1	-0.2
第2地域	91,131m	6.7	92,578m	7.1	-0.4
第3地域	62,712m	6.7	61,351m	6.9	-0.2
第4地域	46,885m	6.6	47,177m	6.4	0.2
第5地域	32,808m	6.5	32,584m	6.7	-0.2
第6地域	47,128m	6.7	44,557m	6.6	0.1
第7地域	68,233m	6.7	67,900m	6.9	-0.2
第8地域	58,656m	6.5	56,002m	6.7	-0.2

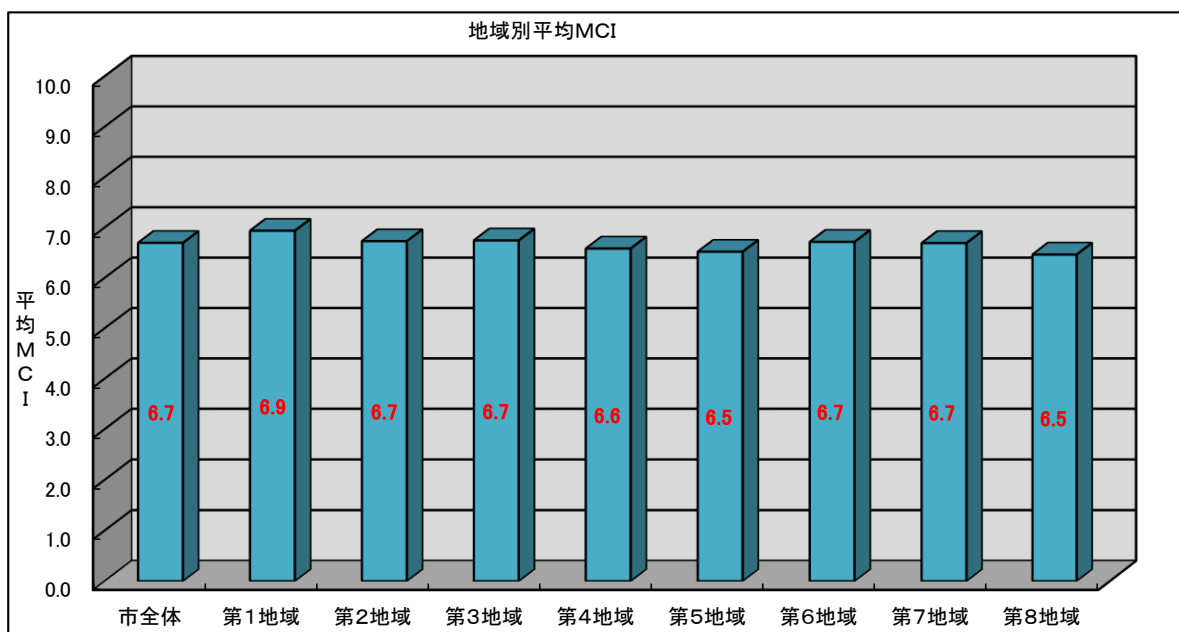


図 3-2-3-11 平成28年度 地域別平均のMC I 比較（地域区分別）

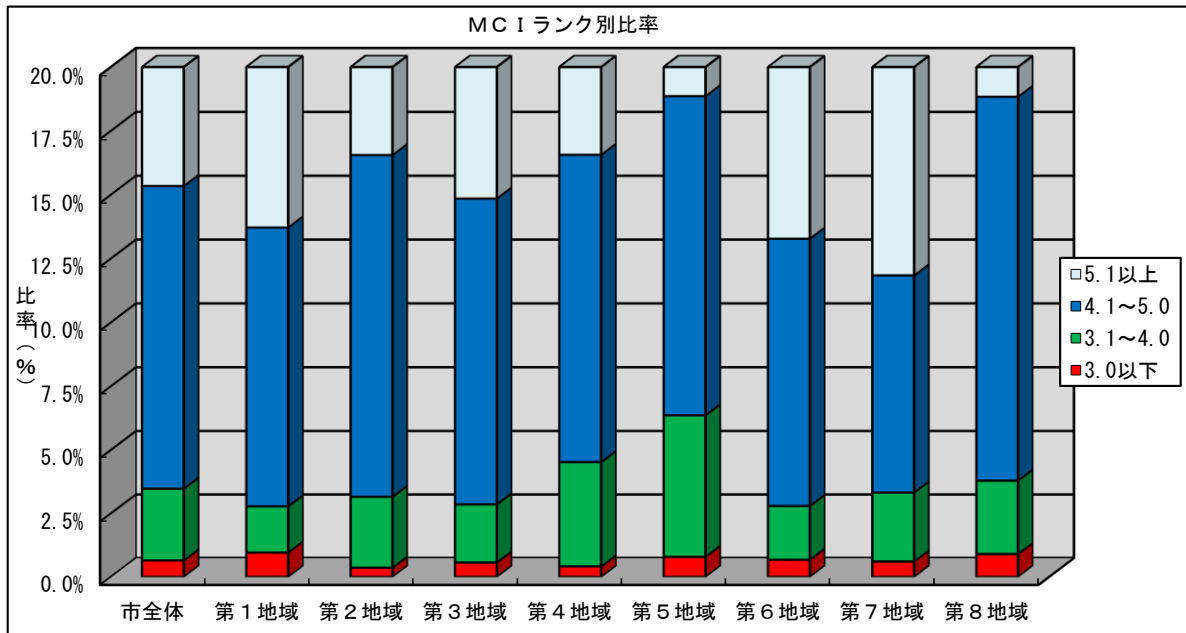
①-2 MC I (維持管理指数) ランク別割合

MC I の標準的な判定基準(表 3-2-2-3)に基づき、「MC I 3.0 以下(早急に修繕が必要)」、「MC I 3.1~4.0(修繕が必要)」、「MC I 4.1~5.0(修繕が望ましい)」、「MC I 5.1 以上(望ましい管理水準)」の4ランクに分類して延長割合を比較しました。

早急な修繕が必要なMC I 3.0 以下は、市全体で 0.6%でした。なお、地域ごとに比較すると第1地域(1.0%)、第8地域(0.9%)、第5地域(0.8%)の順となっています。(図 3-2-3-12)

表 3-2-3-5 車道舗装の劣化割合 (地域区分別のMC I)

MC I	3.0以下	3.1~4.0	4.1~5.0	5.1以上	合計
市全体	0.6%	2.8%	11.9%	84.7%	100%
第1地域	1.0%	1.8%	10.9%	86.3%	100%
第2地域	0.4%	2.8%	13.4%	83.4%	100%
第3地域	0.6%	2.3%	12.0%	85.1%	100%
第4地域	0.4%	4.1%	12.0%	83.4%	100%
第5地域	0.8%	5.6%	12.5%	81.1%	100%
第6地域	0.7%	2.1%	10.5%	86.7%	100%
第7地域	0.6%	2.7%	8.5%	88.2%	100%
第8地域	0.9%	2.9%	15.0%	81.2%	100%



※ ■ (早急に修繕が必要) ■ (修繕が必要) ■ (修繕が望ましい)

図 3-2-3-12 地域別・MC I ランク別割合比較 (地域区分別)

②-1 ひびわれ率

調査結果から、地域別に平均ひびわれ率を比較しました。なお、市全体での平均ひびわれ率は7.1%であり、前回調査（平成23年度）から2.0%増加しています。

また、地域別の比較では第5地域が最も高く（劣化している）、平均ひびわれ率は8.1%です。第5地域は、大規模な工場や幹線都道を含む地域です。（図3-2-3-13）

表 3-2-3-6 車道舗装の劣化程度（地域区分別のひびわれ率）

地域区分	平成28年度		前回調査（平成23年度）		増減
	調査延長	平均ひびわれ率	調査延長	平均ひびわれ率	
市全体	482,713m	7.1%	473,183m	5.1%	2.0%
第1地域	75,160m	6.8%	71,034m	4.8%	2.0%
第2地域	91,131m	6.9%	92,578m	4.3%	2.6%
第3地域	62,712m	7.2%	61,351m	5.4%	1.8%
第4地域	46,885m	7.9%	47,177m	6.7%	1.2%
第5地域	32,808m	8.1%	32,584m	5.0%	3.1%
第6地域	47,128m	7.1%	44,557m	5.9%	1.2%
第7地域	68,233m	6.3%	67,900m	4.6%	1.7%
第8地域	58,656m	7.7%	56,002m	5.1%	2.6%

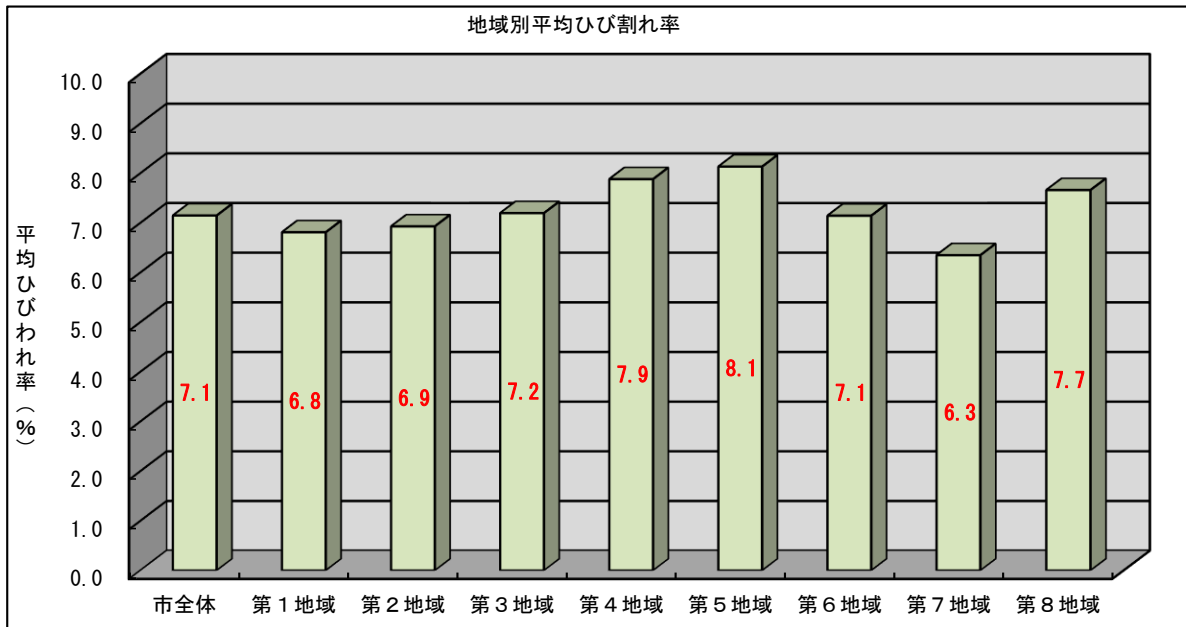


図 3-2-3-13 平成 28 年度 地域別平均のひびわれ率比較（地域区分別）

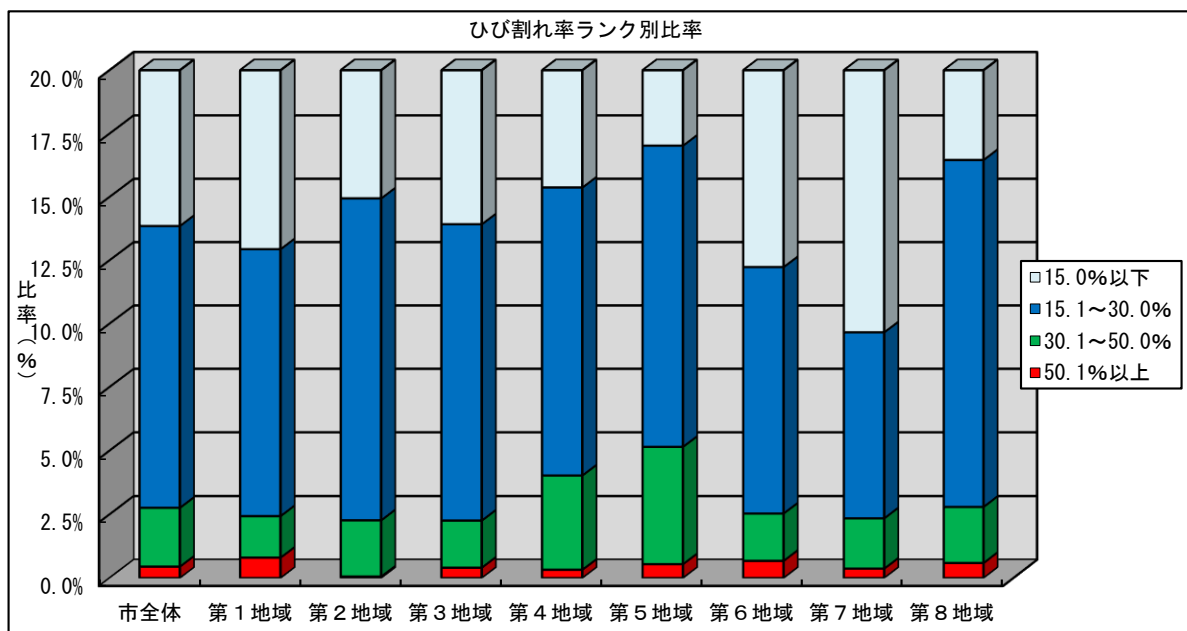
②-2 ひびわれ率 ランク別割合

早急な修繕が必要なひびわれ率である 50.1%以上の区間は、市全体で 0.4%でした。なお、該当箇所は、第 1 地域 (0.8%)、第 6 地域 (0.7%)、第 8 地域 (0.9%) の順となっております。

この結果は、平均 MCI とほぼ同じ傾向です。このことから、府中市管理市道の劣化要因は、「ひびわれ」であるといえます。

表 3-2-3-7 車道舗装の劣化割合 (地域区分別のひび割れ率)

ひびわれ率	50.1%以上	30.1~50.0%	15.1~30.0%	15.0%以下	合計
市全体	0.4%	2.3%	11.1%	86.1%	100%
第 1 地域	0.8%	1.6%	10.5%	87.1%	100%
第 2 地域	0.1%	2.2%	12.7%	85.1%	100%
第 3 地域	0.4%	1.8%	11.7%	86.1%	100%
第 4 地域	0.3%	3.7%	11.4%	84.6%	100%
第 5 地域	0.5%	4.6%	11.9%	83.0%	100%
第 6 地域	0.7%	1.9%	9.7%	87.8%	100%
第 7 地域	0.4%	2.0%	7.3%	90.3%	100%
第 8 地域	0.6%	2.2%	13.7%	83.5%	100%



※ ■ (早急に修繕が必要) ■ (修繕が必要) ■ (修繕が望ましい)

図 3-2-3-14 地域別・ひびわれ率ランク別割合比較 (地域区分別)

③-1 わだち掘れ量

調査結果から、地域別に平均わだち掘れ量を比較しました。なお、市全体での平均わだち掘れ量は、7.0mm であり、前回調査（平成 23 年度）から 0.1mm 増加しています。

また、地域別の比較では第 7 地域が最も高く（劣化している）、平均わだち掘れ量は 7.8mm です。第 7 地域は、多摩川沿いに緑地が見られ、工場跡地から集合住宅へ土地利用転換が進んでいる地域です。（図 3-2-3-15）

表 3-2-3-8 車道舗装の劣化程度（地域区分別のわだち掘れ量）

地域区分	平成28年度		前回調査（平成23年度）		増減
	調査延長	平均わだち掘れ量	調査延長	平均わだち掘れ量	
市全体	162,546m	7.0mm	161,123m	6.9mm	0.1mm
第1地域	22,088m	6.2mm	20,641m	5.9mm	0.3mm
第2地域	34,083m	7.2mm	34,711m	7.2mm	0.0mm
第3地域	18,216m	6.1mm	17,819m	6.7mm	-0.6mm
第4地域	11,882m	7.2mm	12,056m	6.6mm	0.6mm
第5地域	12,578m	7.2mm	12,611m	6.8mm	0.4mm
第6地域	13,527m	6.1mm	13,077m	6.1mm	0.0mm
第7地域	25,836m	7.8mm	25,976m	7.5mm	0.3mm
第8地域	24,336m	7.2mm	24,232m	7.5mm	-0.3mm

※：「平均わだち掘れ量」は機械調査区間のみの集計結果です

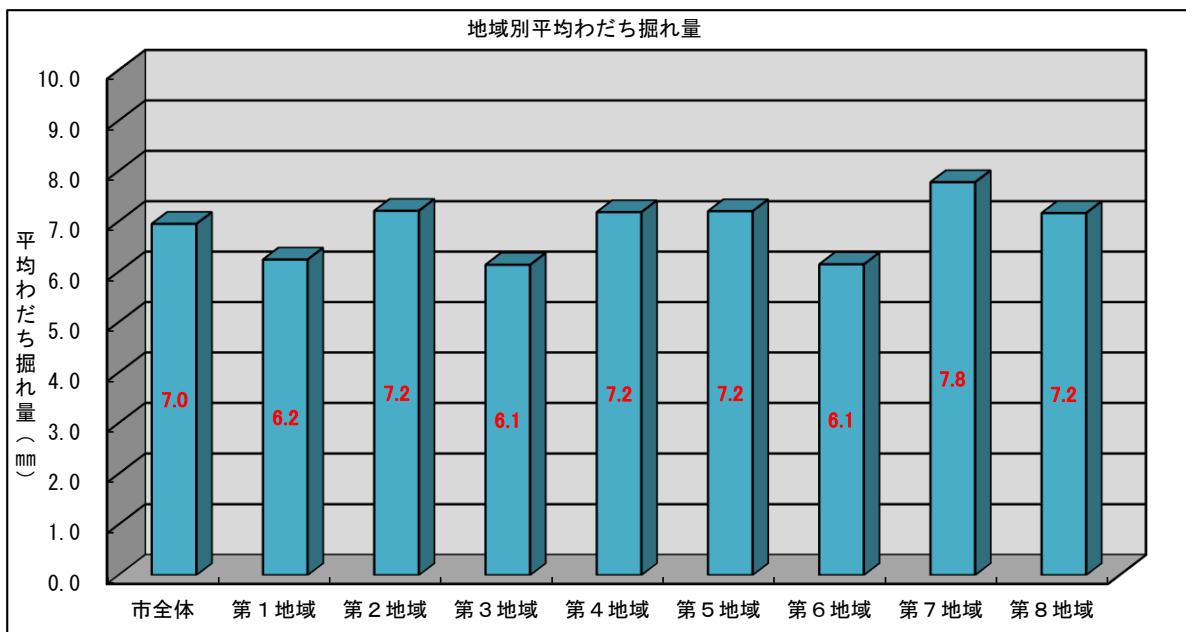


図 3-2-3-15 平成 28 年度 地域別平均わだち掘れ量比較（地域区分別）

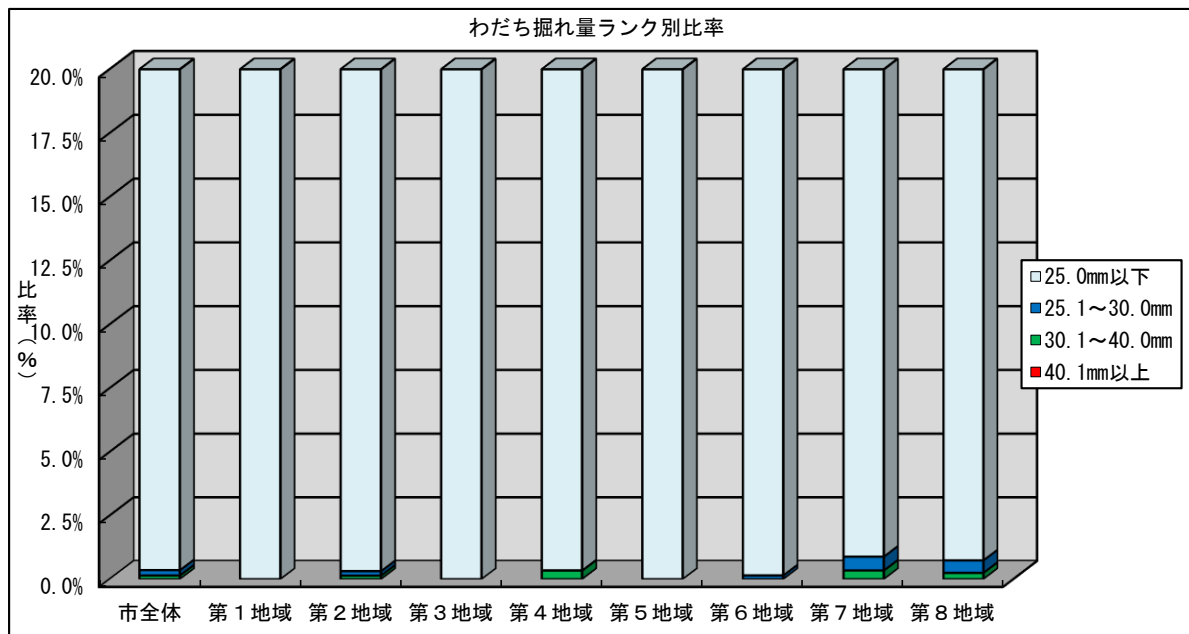
③-2 わだち掘れ量 ランク別割合

早急な修繕が必要なわだち掘れ量である 40.1 mm 以上は、対象箇所がありませんでした。また、修繕が必要な箇所に相当するわだち掘れ量 30.1～40.0 mm は市全体で 0.1% あり、該当箇所は第 4 地域(0.3%)、第 7 地域(0.3%)、第 8 地域(0.2%)、第 2 地域(0.1%)です。(図 3-2-3-16)

この結果から、府中市管理市道において「わだち掘れ」が直接の原因で補修を検討する箇所はありません。

表 3-2-3-9 車道舗装の劣化割合 (地域区分別のわだち掘れ量)

わだち掘れ量	40.1mm以上	30.1～40.0mm	25.1～30.0mm	25.0mm以下	合計
市全体	0.0%	0.1%	0.2%	99.6%	100%
第1地域	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100%
第2地域	0.0%	0.1%	0.2%	99.7%	100%
第3地域	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100%
第4地域	0.0%	0.3%	0.0%	99.7%	100%
第5地域	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100%
第6地域	0.0%	0.0%	0.1%	99.9%	100%
第7地域	0.0%	0.3%	0.5%	99.1%	100%
第8地域	0.0%	0.2%	0.5%	99.3%	100%



※ ■ (早急に修繕が必要) ■ (修繕が必要) ■ (修繕が望ましい)

図 3-2-3-16 地域別・わだち掘れ量ランク別割合比較 (地域区分別)

(3) 結果分析

① 全体

市全体の平均である、「MC I 値」、「ひび割れ」、「わだち掘れ」をまとめると、次の表の通りです。調査の結果、前回調査時（平成 23 年度）と比較すると、MC I 値が僅かに低下し、ひび割れ率やわだち掘れ量の数値に進行が見られることから、若干劣化が進行している状態であるといえます。

表 3-2-3-10 市全体の平均値及び前回比較

項目	平成 28 年度 平均値	前回調査平均値 (平成 23 年度)	差
MC I	6.7	6.9	-0.2
ひび割れ率	7.1%	5.1%	2.0%
わだち掘れ量	7.0mm	6.9mm	0.1mm

② 要因別

- 府中市管理市道における舗装の劣化要因は、「ひびわれ」です。
- 現状では、「わだち掘れ」によって補修を検討する箇所はみられません。

③ 地域別

- 「MC I 3.0 以下(早急な修繕が必要)」の区間は、市の郊外に点在しています。
- 第 5 地域と第 8 地域が低く（劣化している）、平均MC I は 6.5 です。
- 第 5 地域はひび割れ率の割合が高いため、車道舗装の主要な劣化要因は「ひびわれ」であるといえます。
- 平均わだち掘れ量がやや高い地域は、第 7 地域です。なお、第 7 地域は、多摩川沿いに緑地が見られ、工場跡地から集合住宅へ土地利用転換が進んでいる地域です。

④ 補修必要区間

調査を行った路線について、現状で補修が必要な区間はMC I 3.0以下の区間です。調査の結果から、「MC I 3.0以下（早急な修繕が必要）」の区間は、75箇所 3,118 mあります。

表 3-2-3-11(1/2) 補修対策箇所一覧表 (MC I 3.0 以下)

No	路線名称	地域	上下	距離自 (m)	距離至 (m)	区間長 (m)	ひびわれ率 (%)	わだち掘れ最大 (mm)	わだち掘れ平均 (mm)	MC I
1	幹線:中央道側道	2	下	3,420	3,421	1	75.0	39	37	0.3
2	幹線:しみず下通り	2	下	720	760	40	40.2	44	34	1.6
3	幹線:多磨霊園東通り	1	上	940	1,060	120	75.6	6	4	1.9
4	一般:1-67	1	下	0	104	104	75.0	-	-	1.9
5	一般:1-109	1	下	0	116	116	75.0	-	-	1.9
6	一般:1-359	1	下	0	64	64	75.0	-	-	1.9
7	一般:3-131	3	下	229	339	110	75.0	-	-	1.9
8	一般:3-201	3	下	357	423	66	75.0	-	-	1.9
9	一般:4-372	4	下	42	86	44	75.0	-	-	1.9
10	一般:4-378	4	下	0	39	39	75.0	-	-	1.9
11	一般:5-172	5	下	33	44	11	75.0	-	-	1.9
12	一般:5-212	5	下	0	68	68	75.0	-	-	1.9
13	一般:5-21	6	下	0	37	37	75.0	-	-	1.9
14	一般:5-87	6	下	0	282	282	75.0	-	-	1.9
15	一般:4-176	7	下	228	237	9	75.0	-	-	1.9
16	一般:4-182	7	下	0	160	160	75.0	-	-	1.9
17	一般:4-426	7	下	0	45	45	75.0	-	-	1.9
18	一般:6-202	8	下	0	168	168	75.0	-	-	1.9
19	一般:6-248	8	下	31	71	40	75.0	-	-	1.9
20	幹線:しみず下通り	2	下	780	820	40	47.4	32	24	2.1
21	幹線:多摩川通り	7	下	4,400	4,460	60	50.9	39	22	2.1
22	幹線:平和通り	2	上	60	68	8	68.8	15	12	2.1
23	幹線:多磨霊園東通り	1	下	940	1,060	120	67.5	6	4	2.2
24	幹線:けやき並木通り	4	下	269	280	11	66.1	6	4	2.2
25	幹線:多摩川通り	7	上	4,520	4,540	20	39.1	24	24	2.3
26	幹線:多摩川通り	8	上	1,420	1,500	80	49.2	31	20	2.4
27	幹線:あんず通り	1	上	240	260	20	58.5	9	7	2.4
28	幹線:七小通り	5	下	1,640	1,660	20	57.9	24	15	2.4
29	幹線:ふるさと通り	7	下	280	300	20	40.7	26	21	2.4
30	幹線:競馬場正門通り	4	下	0	60	60	57.0	7	5	2.5
31	幹線:多磨霊園東通り	1	上	1,160	1,220	60	55.3	8	5	2.5
32	幹線:中央道側道	8	下	780	820	40	55.7	12	8	2.6
33	幹線:三屋通り	8	上	20	40	20	54.4	10	9	2.6
34	幹線:多摩川通り	8	上	2,420	2,440	20	38.4	23	23	2.6
35	幹線:中央道側道	8	上	900	920	20	55.7	13	8	2.6
36	幹線:四谷通り	8	上	840	860	20	55.1	6	6	2.6

表 3-2-3-11 (2/2) 補修対策箇所一覧表 (MC I 3.0 以下)

No	路線名称	地域	上下	距離 自 (m)	距離 至 (m)	区間長 (m)	ひび われ率 (%)	わだち 掘れ 最大 (mm)	わだち 掘れ 平均 (mm)	MC I
37	幹線:多磨駅東通り	1	上	40	60	20	52.7	8	8	2.7
38	幹線:多磨霊園南参道	1	上	1,100	1,115	15	39.6	18	18	2.7
39	幹線:しみず下通り	2	下	580	600	20	51.1	7	6	2.7
40	幹線:美術館通り	3	下	620	640	20	53.2	11	10	2.7
41	幹線:競馬場正門通り	4	下	80	100	20	51.6	14	11	2.7
42	幹線:本宿小通り	5	下	1,040	1,080	40	52.7	20	12	2.7
43	幹線:多摩川通り	7	下	3,380	3,420	40	43.8	18	16	2.7
44	幹線:平和通り	3	下	720	760	40	51.4	6	6	2.8
45	幹線:しみず下通り	2	上	600	620	20	49.5	7	7	2.8
46	幹線:平和通り	3	下	820	840	20	50.8	9	6	2.8
47	幹線:三本木通り	4	上	460	480	20	49.6	10	8	2.8
48	幹線:横街道	5	上	400	420	20	50.8	5	4	2.8
49	幹線:横街道	5	上	680	700	20	50.1	8	7	2.8
50	幹線:多摩川通り	7	上	4,380	4,400	20	24.2	32	26	2.8
51	幹線:東大山道	7	上	440	460	20	48.8	13	8	2.8
52	幹線:中央道側道	8	下	1,160	1,180	20	45.4	18	15	2.8
53	幹線:平和通り	3	下	640	700	60	49.0	6	6	2.8
54	幹線:富士見通り	5	下	2,360	2,400	40	41.2	18	16	2.9
55	幹線:朝日町通り	1	上	500	520	20	44.1	18	16	2.9
56	幹線:多磨霊園東通り	1	上	1,080	1,100	20	47.7	3	3	2.9
57	幹線:東郷寺通り	1	上	1,060	1,080	20	46.9	4	3	2.9
58	幹線:競馬場通り	2	上	400	420	20	47.9	11	7	2.9
59	幹線:しみず下通り	2	上	980	1,000	20	47.5	7	5	2.9
60	幹線:しみず下通り	2	下	980	1,000	20	38.8	23	16	2.9
61	幹線:東郷寺通り	2	下	60	80	20	48.2	15	13	2.9
62	幹線:武蔵台通り	5	下	80	100	20	47.7	13	8	2.9
63	幹線:多摩川通り	8	下	1,440	1,460	20	45.6	18	15	2.9
64	幹線:日新通り	8	上	220	240	20	18.0	28	28	2.9
65	幹線:多磨霊園東通り	1	下	1,180	1,200	20	45.3	4	4	3.0
66	幹線:九中通り	2	下	980	1,000	20	36.0	16	16	3.0
67	幹線:九中通り	2	下	1,100	1,120	20	44.7	13	12	3.0
68	幹線:競馬場通り	2	上	320	340	20	45.8	13	9	3.0
69	幹線:多摩川通り	2	上	7,260	7,320	60	44.9	16	12	3.0
70	幹線:平和通り	3	下	540	580	40	44.6	6	6	3.0
71	幹線:本宿小通り	5	下	1,380	1,400	20	30.2	28	19	3.0
72	幹線:多摩川通り	7	下	3,260	3,280	20	19.1	26	24	3.0
73	幹線:中央道側道	8	下	640	660	20	45.9	6	6	3.0
74	幹線:日新通り	8	上	620	640	20	45.5	4	3	3.0
75	一般:6-286	8	上	440	460	20	44.5	12	10	3.0

※ 「機械調査」はひびわれ、わだち掘れの調査。「目視調査」はひびわれの調査のみです。

※ ■ : MC I 3.0 以下 早急に修繕が必要。

車道の調査結果を、図 3-2-3-18 に示します。

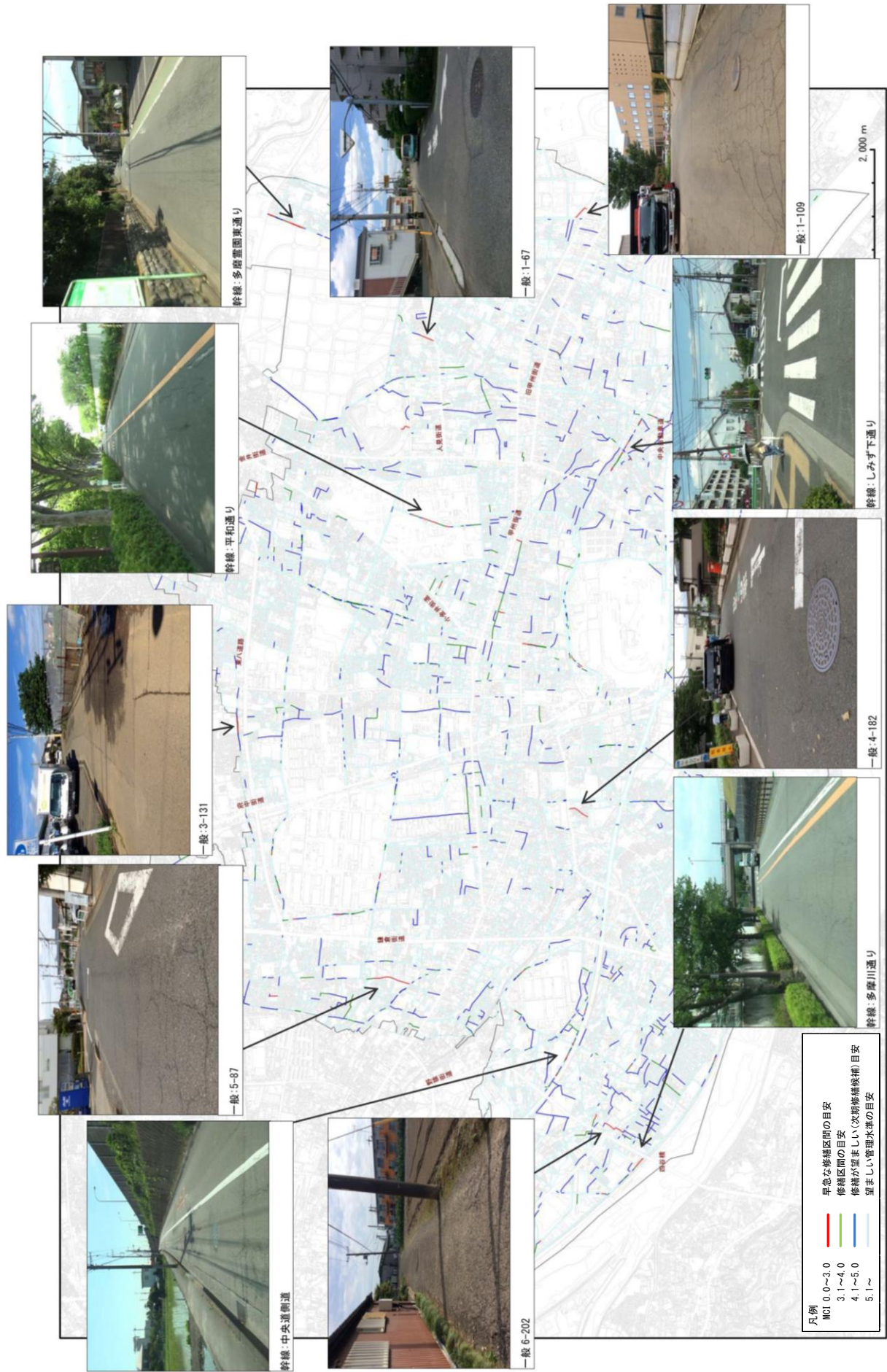


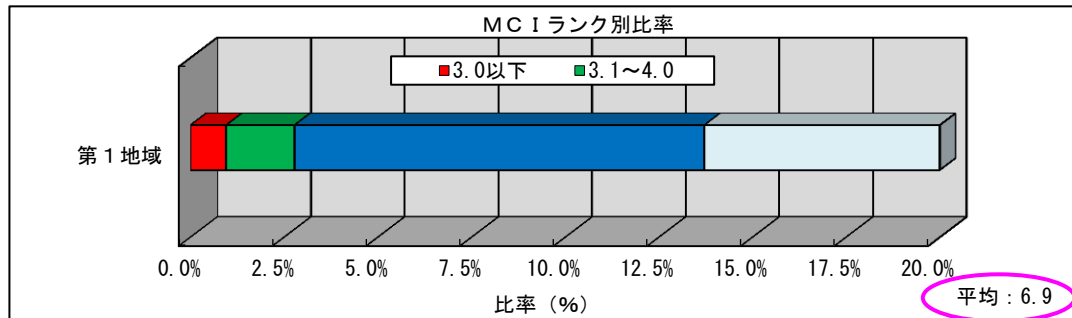
図3-2-3-18 現状で劣化している車道舗装(平成28年度調査)

3.2.3.4. 地域別集計

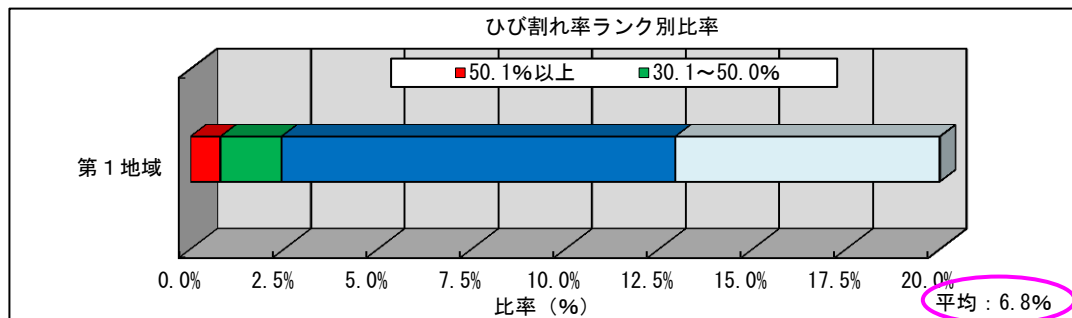
(1) 第1地域

「第1地域」は、8地域の中でひびわれ率の平均値がやや低く、わだち掘れ量もやや低い状態です。なお、MC Iは府中市8地域の中で最も高い(良い)水準です。

MC I	3.0以下	3.1~4.0	4.1~5.0	5.1以上	合計
第1地域	1.0% (719m)	1.8% (1,369m)	10.9% (8,221m)	86.3% (64,851m)	100% (75,160m)



ひびわれ率	50.1%以上	30.1~50.0%	15.1~30.0%	15.0%以下	合計
第1地域	0.8% (604m)	1.6% (1,224m)	10.5% (7,897m)	87.1% (65,435m)	100% (75,160m)



わだち掘れ量	40.1mm以上	30.1~40.0mm	25.1~30.0mm	25.0mm以下	合計
第1地域	0.0% (0m)	0.0% (0m)	0.0% (0m)	100.0% (22,088m)	100% (22,088m)

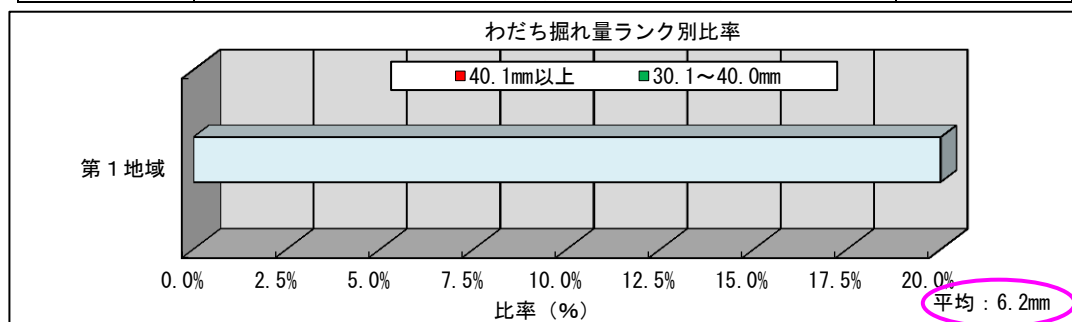
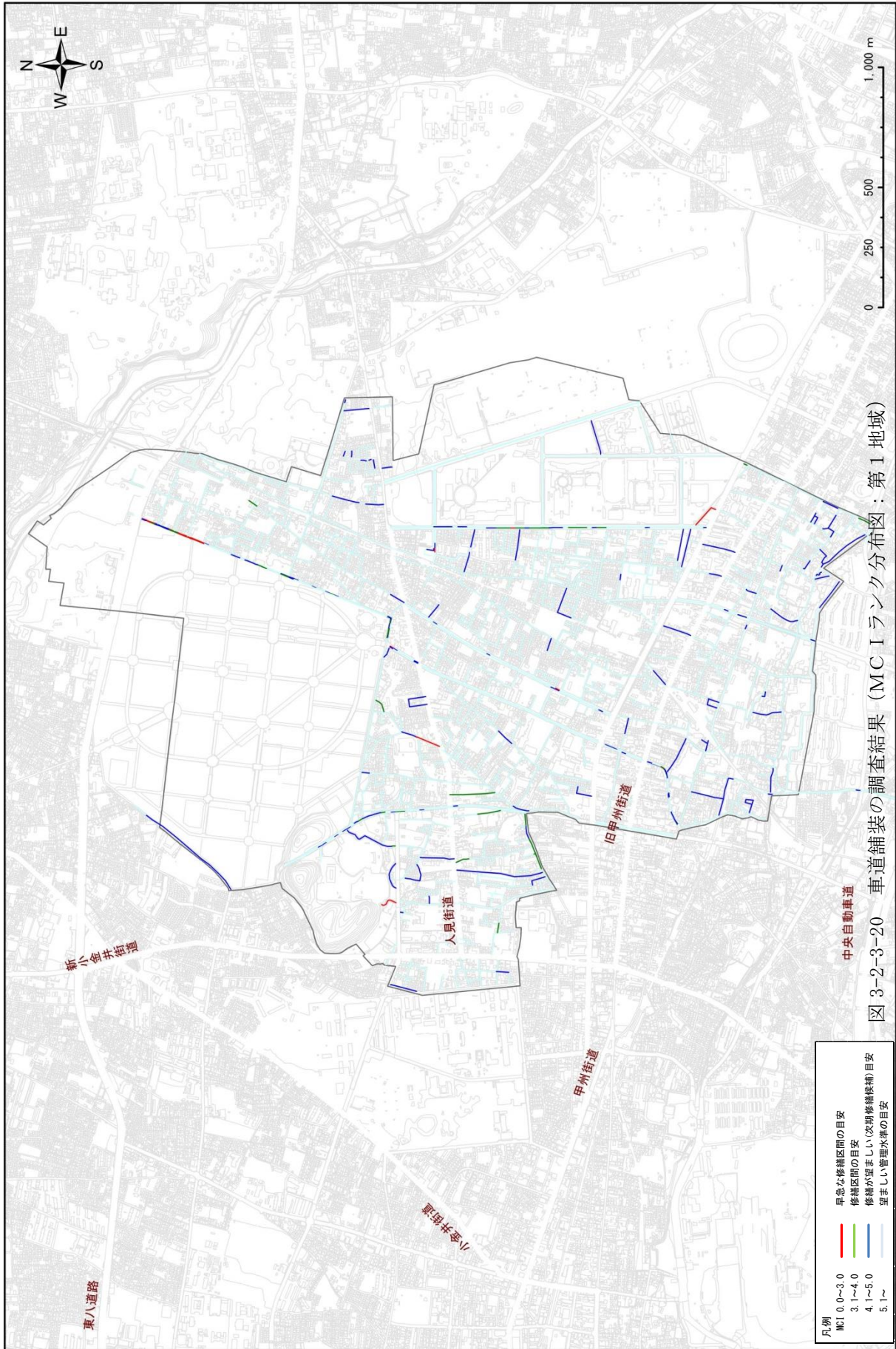


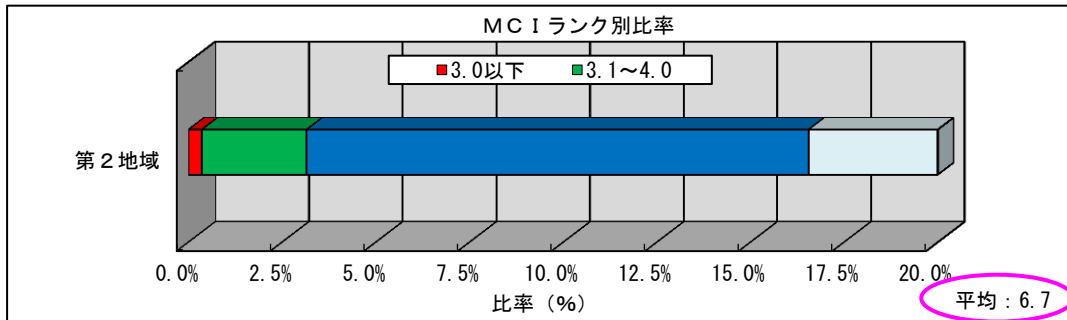
図 3-2-3-19 地域別・MC I・路面性状2要素ランク別割合比較 (第1地域)



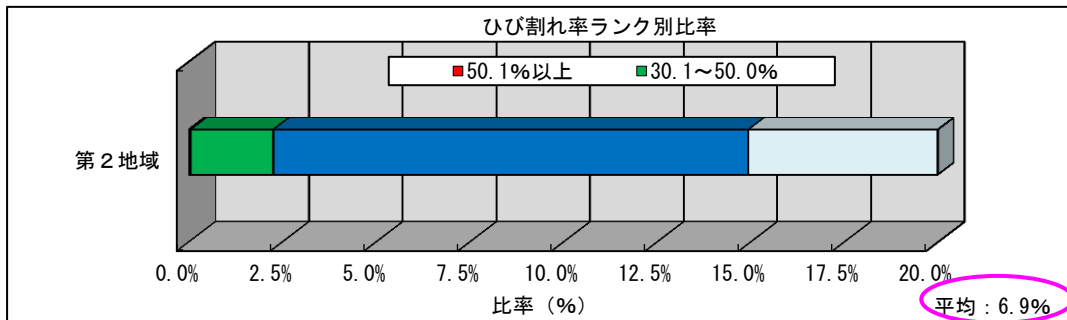
(2) 第2地域

「第2地域」は、8地域の中でひびわれ率の平均値がやや低く、わだち掘れ量はやや高い状態です。なお、MC Iは府中市全体の平均と同水準です。

MC I	3.0以下	3.1~4.0	4.1~5.0	5.1以上	合計
第2地域	0.4% (329m)	2.8% (2,545m)	13.4% (12,212m)	83.4% (76,045m)	100% (91,131m)



ひびわれ率	50.1%以上	30.1~50.0%	15.1~30.0%	15.0%以下	合計
第2地域	0.1% (56m)	2.2% (2,010m)	12.7% (11,554m)	85.1% (77,511m)	100% (91,131m)



わだち掘れ量	40.1 mm以上	30.1~40.0 mm	25.1~30.0 mm	25.0 mm以下	合計
第2地域	0.0% (0m)	0.1% (48m)	0.2% (60m)	99.7% (33,975m)	100% (34,083m)

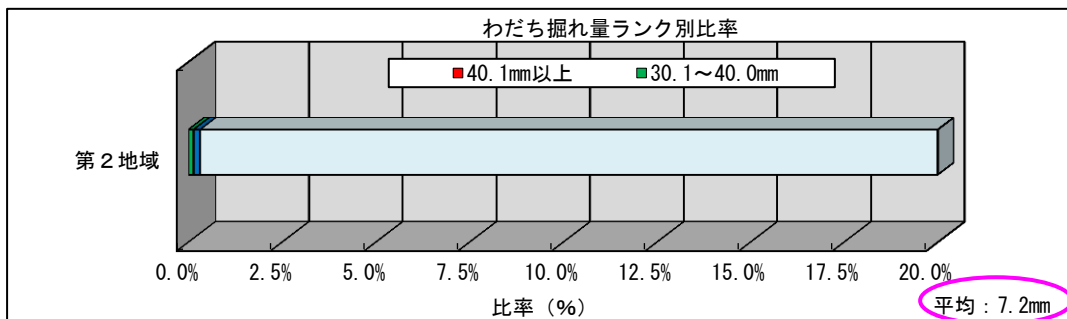
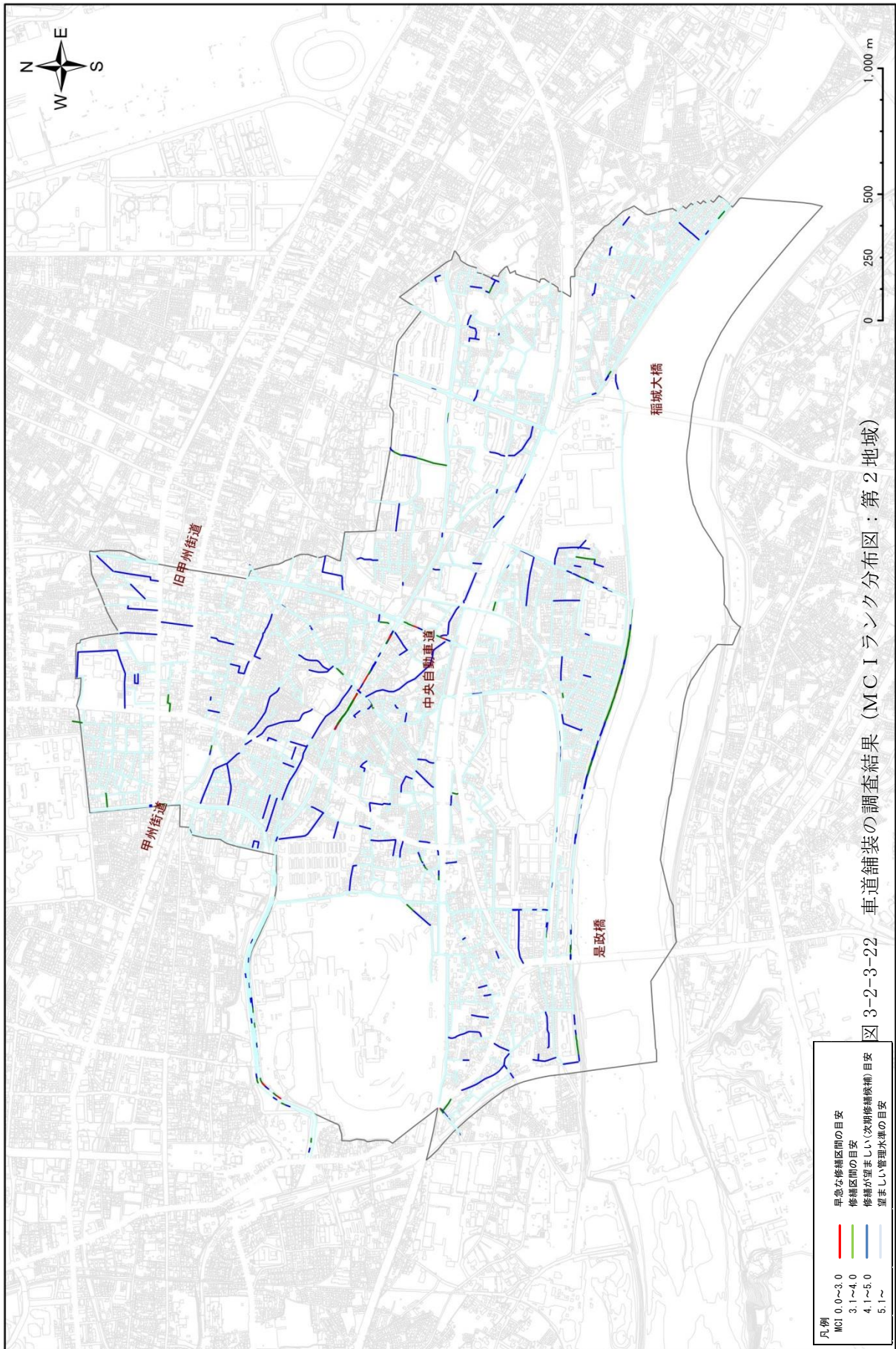


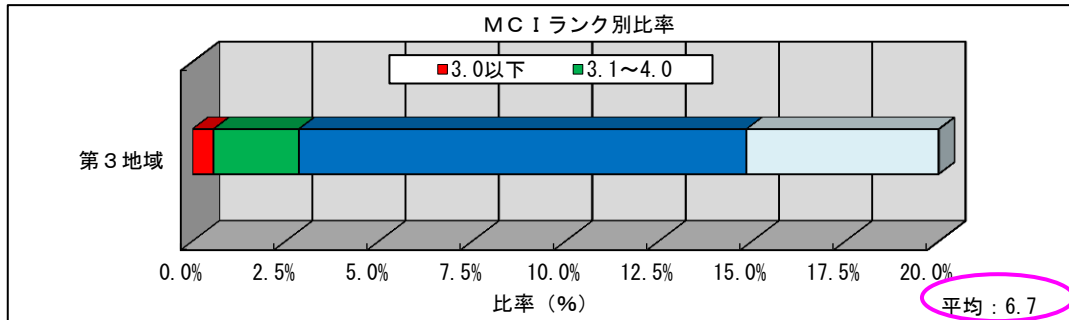
図 3-2-3-21 地域別・MC I・路面性状 2 要素ランク別割合比較 (第2地域)



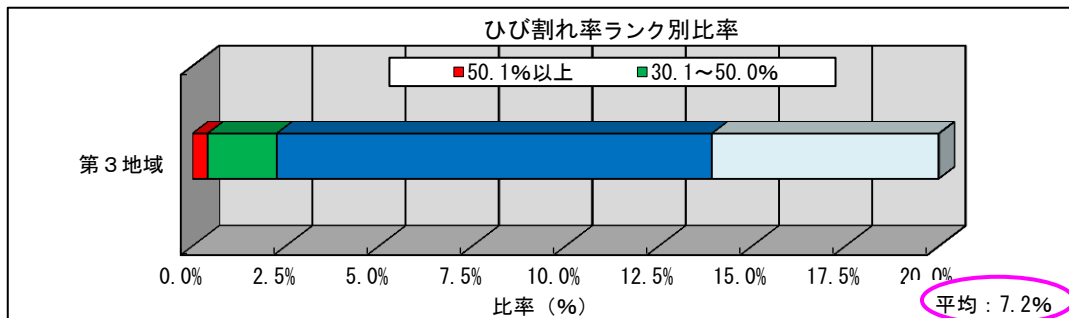
(3) 第3地域

「第3地域」は、8地域の中でひびわれ率の平均値がやや高く、わだち掘れ量は最も低い状態です。なお、MC Iは府中市全体の平均と同水準です。

MC I	3.0以下	3.1~4.0	4.1~5.0	5.1以上	合計
第3地域	0.6% (356m)	2.3% (1,434m)	12.0% (7,524m)	85.1% (53,398m)	100% (62,712m)



ひびわれ率	50.1%以上	30.1~50.0%	15.1~30.0%	15.0%以下	合計
第3地域	0.4% (256m)	1.8% (1,160m)	11.7% (7,316m)	86.1% (53,980m)	100% (62,712m)



わだち掘れ量	40.1mm以上	30.1~40.0mm	25.1~30.0mm	25.0mm以下	合計
第3地域	0.0% (0m)	0.0% (0m)	0.0% (0m)	100.0% (18,216m)	100% (18,216m)

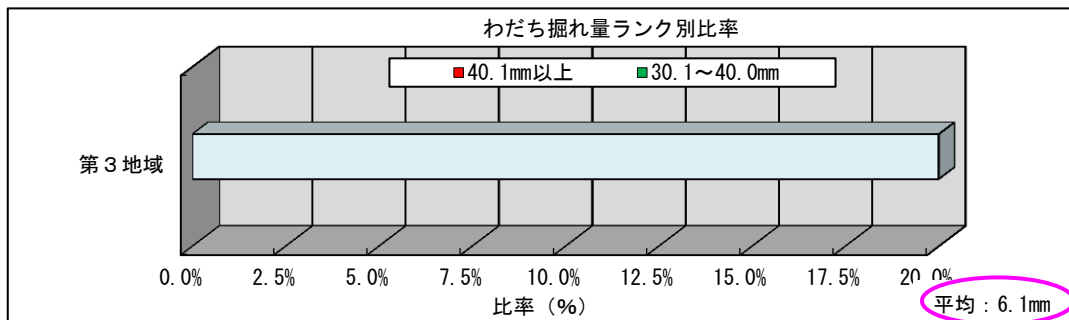
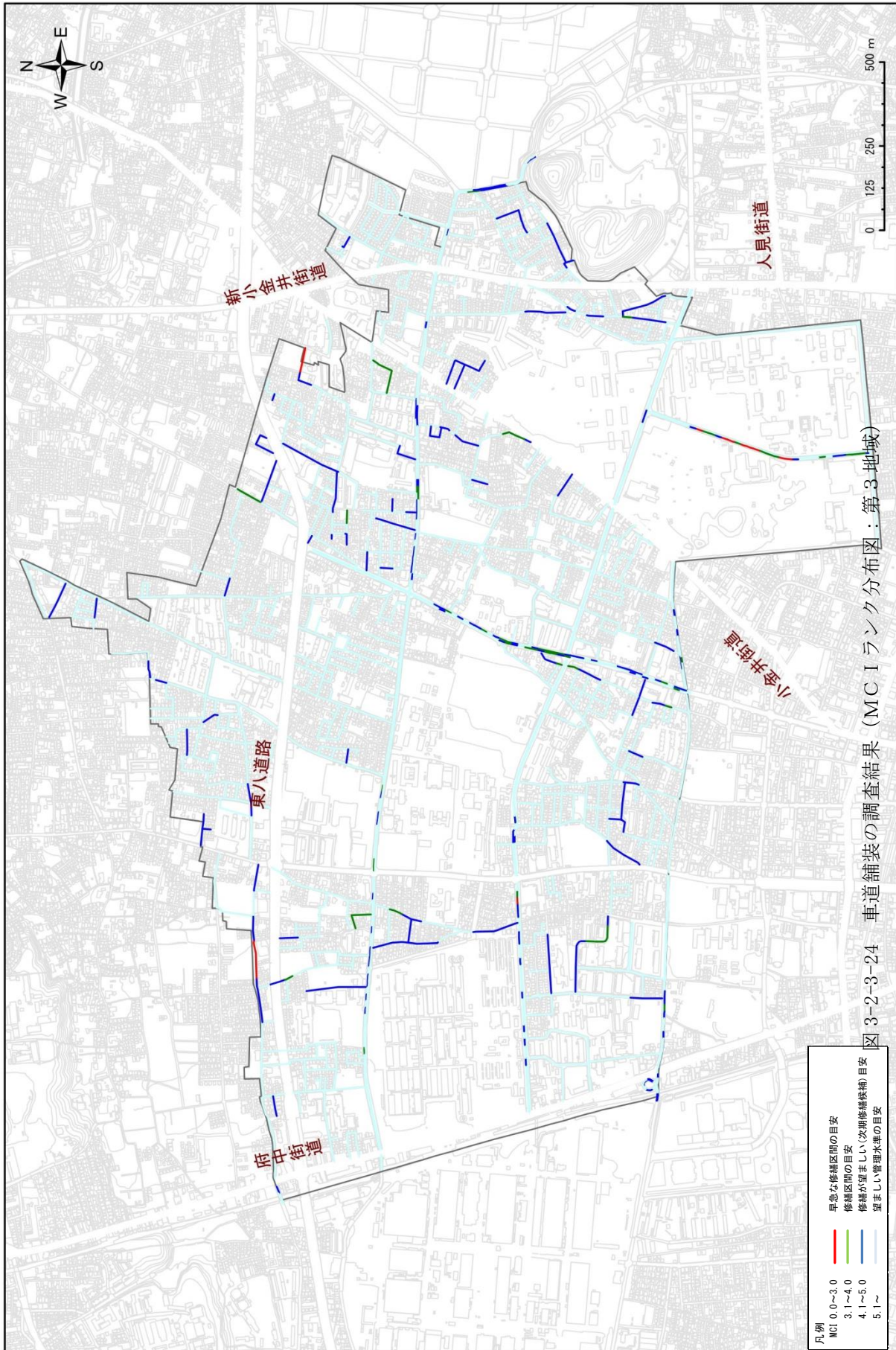


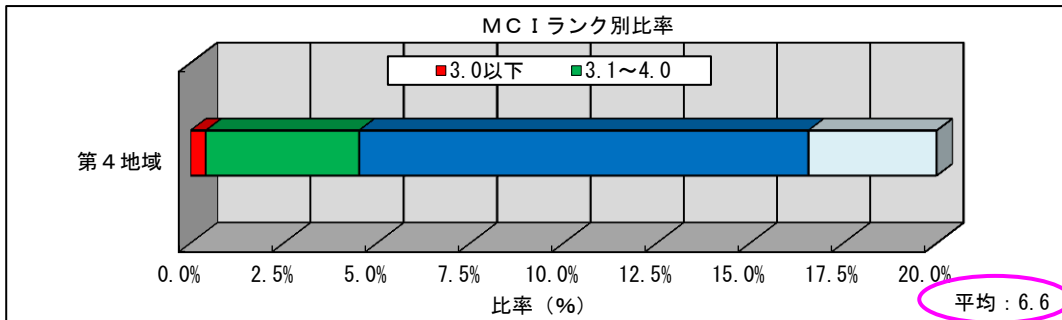
図 3-2-3-23 地域別・MC I・路面性状 2 要素ランク別割合比較 (第3地域)



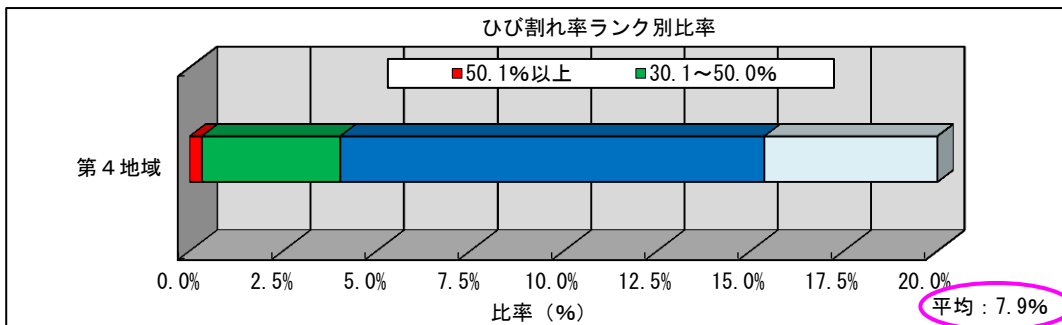
(4) 第4地域

「第4地域」は、8地域の中でひびわれ率の平均値がやや高く、わだち掘れ量もやや高い状態です。なお、MC Iは府中市全体の平均よりやや低い(悪い)水準です。

MC I	3.0以下	3.1~4.0	4.1~5.0	5.1以上	合計
第4地域	0.4% (194m)	4.1% (1,925m)	12.0% (5,647m)	83.4% (39,119m)	100% (46,885m)



ひびわれ率	50.1%以上	30.1~50.0%	15.1~30.0%	15.0%以下	合計
第4地域	0.3% (154m)	3.7% (1,733m)	11.4% (5,322m)	84.6% (39,676m)	100% (46,885m)



わだち掘れ量	40.1mm以上	30.1~40.0mm	25.1~30.0mm	25.0mm以下	合計
第4地域	0.0% (0m)	0.3% (40m)	0.0% (1m)	99.7% (11,841m)	100% (11,882m)

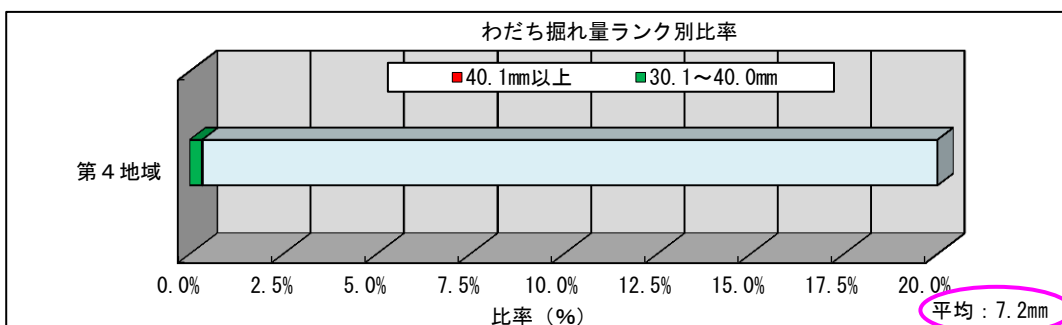
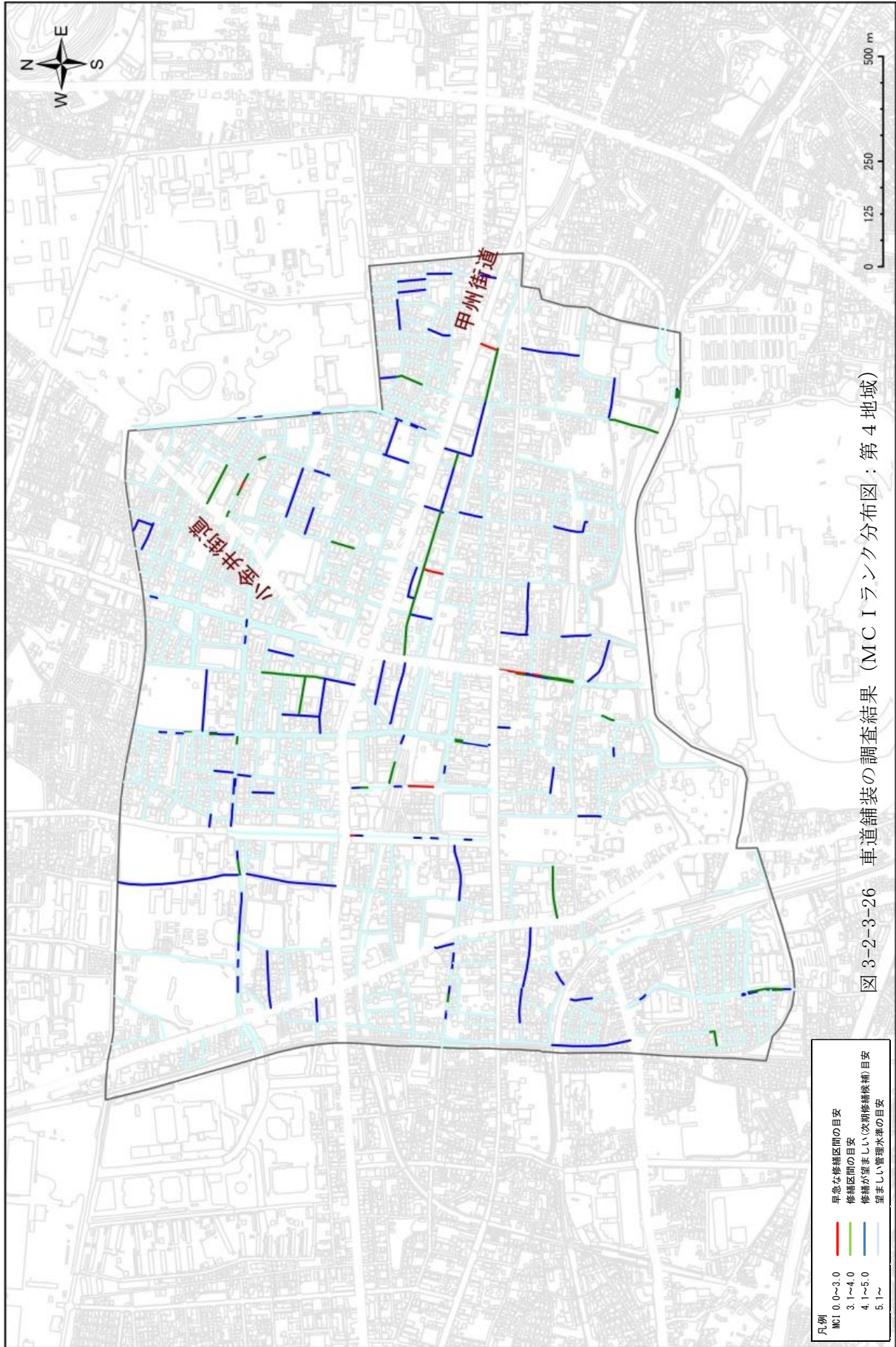


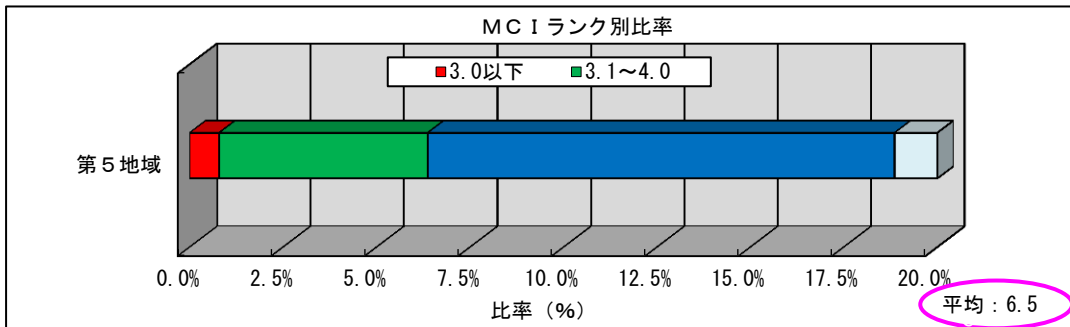
図 3-2-3-25 地域別・MC I・路面性状 2 要素ランク別割合比較 (第4地域)



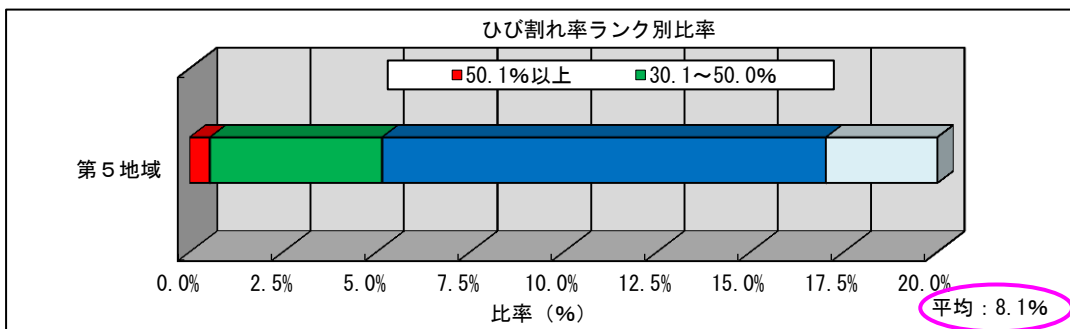
(1) 第5地域

「第5地域」は、8地域の中でひびわれ率の平均値が最も高く、わだち掘れ量はやや高い状態です。なお、MC Iは府中市8地域の中で最も低い(悪い)水準です。

MC I	3.0以下	3.1~4.0	4.1~5.0	5.1以上	合計
第5地域	0.8% (259m)	5.6% (1,829m)	12.5% (4,100m)	81.1% (26,620m)	100% (32,808m)



ひびわれ率	50.1%以上	30.1~50.0%	15.1~30.0%	15.0%以下	合計
第5地域	0.5% (179m)	4.6% (1,510m)	11.9% (3,897m)	83.0% (27,222m)	100% (32,080m)



わだち掘れ量	40.1mm以上	30.1~40.0mm	25.1~30.0mm	25.0mm以下	合計
第5地域	0.0% (0m)	0.0% (0m)	0.0% (0m)	100.0% (12,578m)	100% (12,578m)

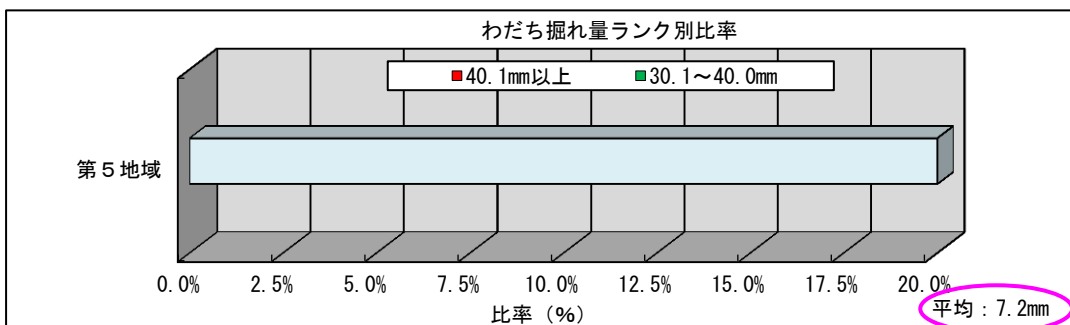
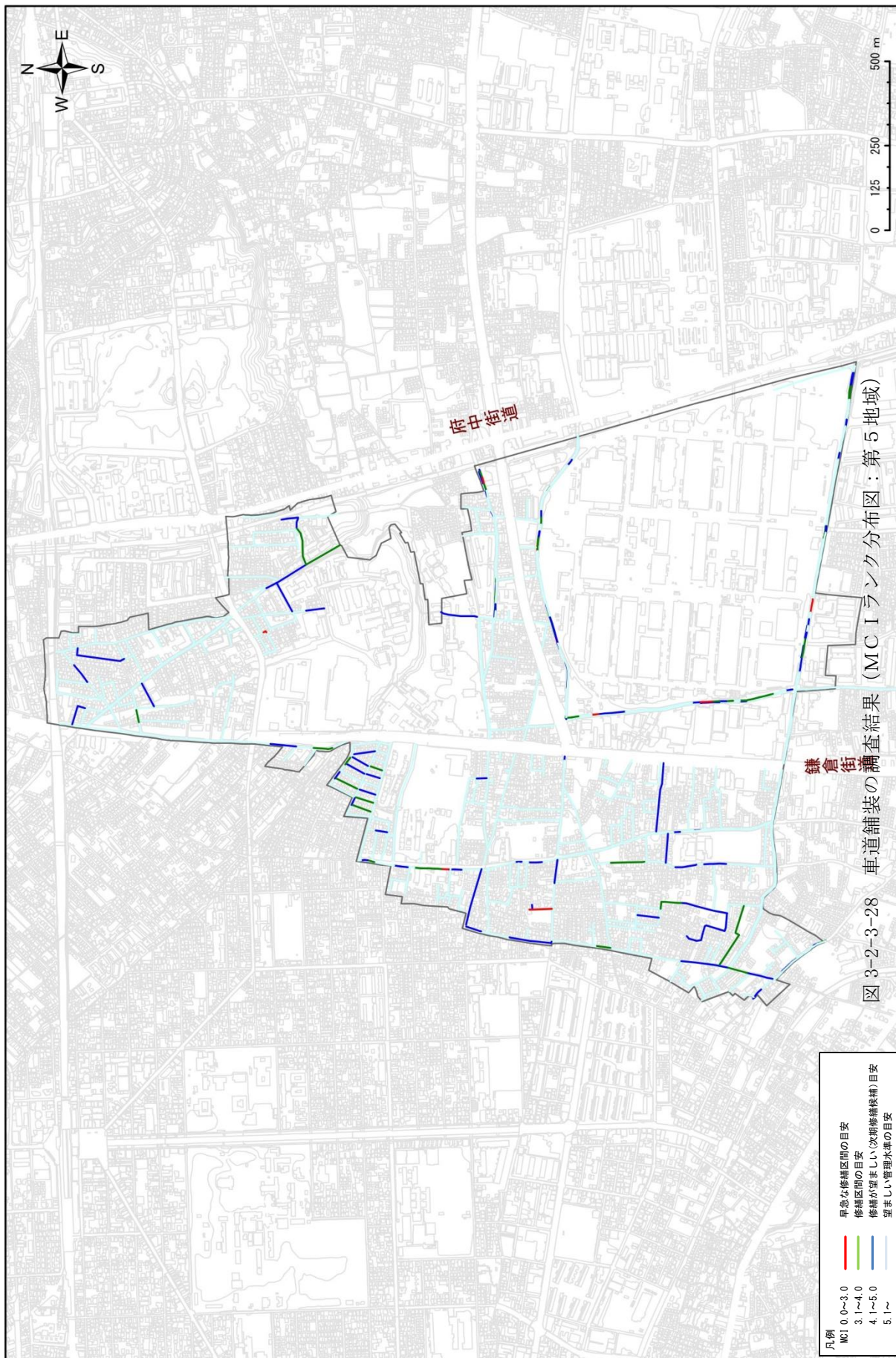


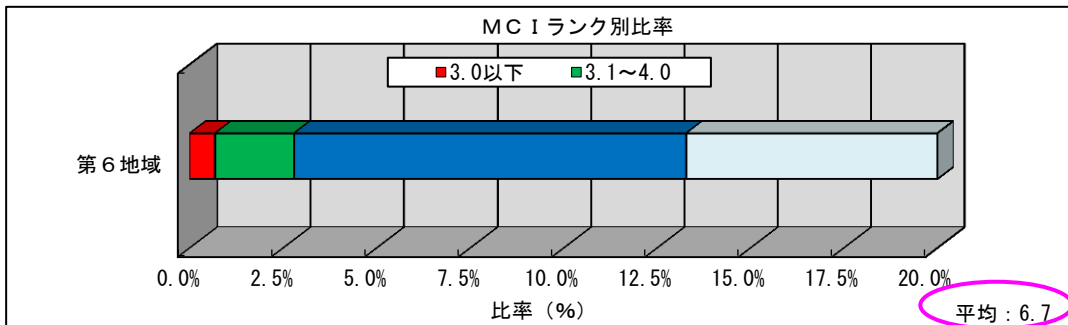
図 3-2-3-27 地域別・MC I・路面性状2要素ランク別割合比較 (第5地域)



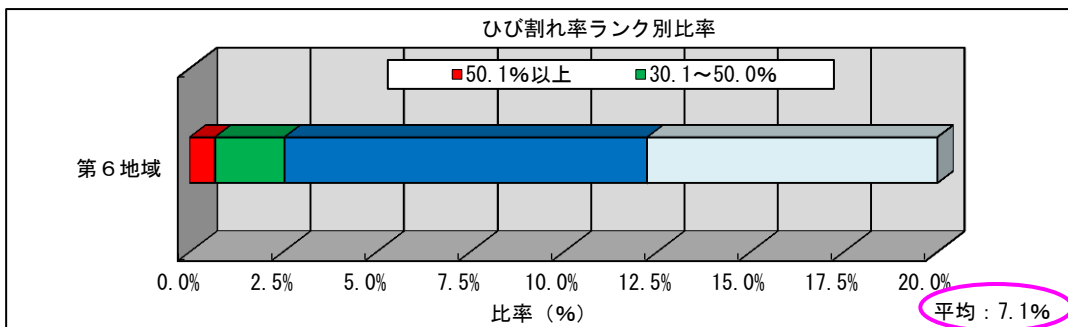
(2) 第6地域

「第6地域」は、8地域の中でひびわれ率の平均と同水準であり、わだち掘れ量は最も低い状態です。なお、MC Iは府中市全体の平均と同水準です。

MC I	3.0以下	3.1~4.0	4.1~5.0	5.1以上	合計
第6地域	0.7% (319m)	2.1% (995m)	10.5% (4,943m)	86.7% (40,871m)	100% (47,128m)



ひびわれ率	50.1%以上	30.1~50.0%	15.1~30.0%	15.0%以下	合計
第6地域	0.7% (319m)	1.9% (875m)	9.7% (4,572m)	87.8% (41,362m)	100% (47,128m)



わだち掘れ量	40.1mm以上	30.1~40.0mm	25.1~30.0mm	25.0mm以下	合計
第6地域	0.0% (0m)	0.0% (0m)	0.1% (20m)	99.9% (13,507m)	100% (13,527m)

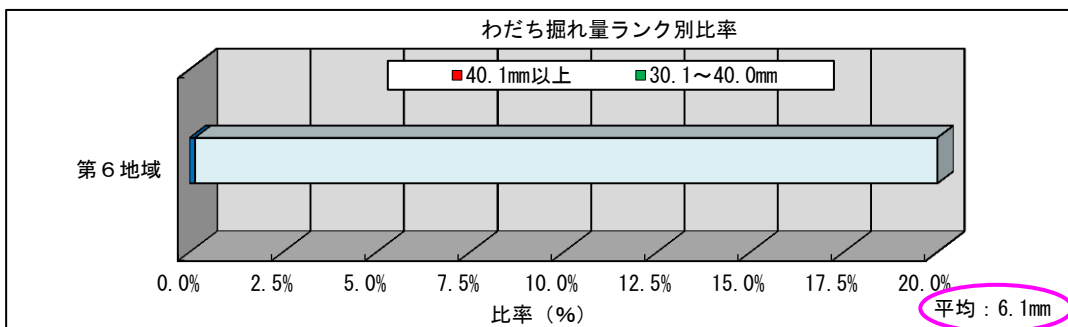


図 3-2-3-29 地域別・MC I・路面性状 2 要素ランク別割合比較 (第6地域)

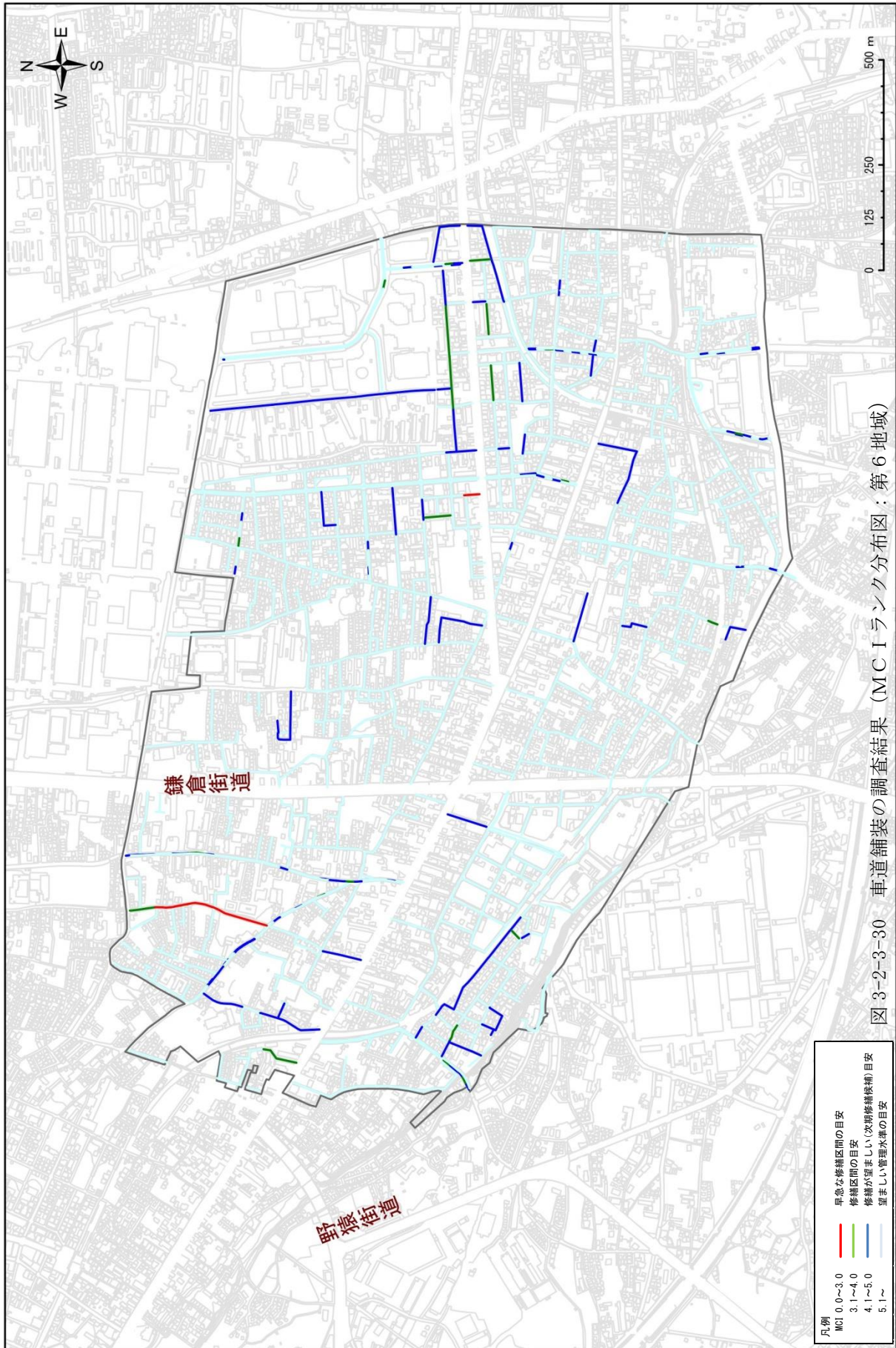
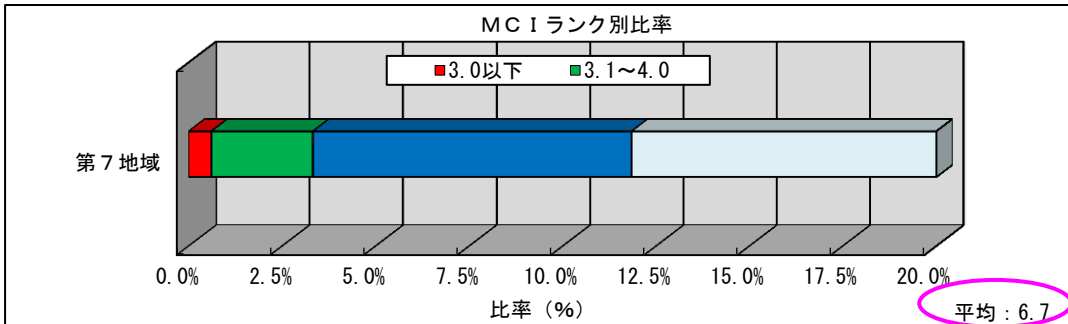


図 3-2-3-30 車道舗装の調査結果 (MCI ランク分布図：第 6 地域)

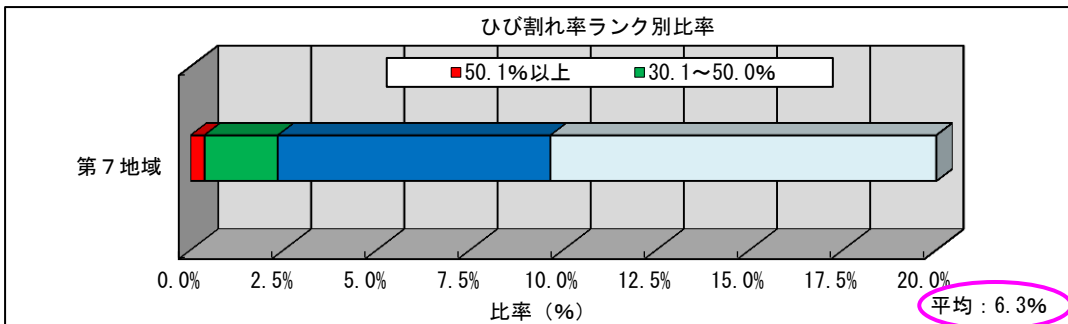
(3) 第7地域

「第7地域」は、8地域の中でひびわれ率の平均値が最も低く、わだち掘れ量は最も高い状態です。なお、MC Iは府中市全体の平均と同水準です。

MC I	3.0以下	3.1~4.0	4.1~5.0	5.1以上	合計
第7地域	0.6% (414m)	2.7% (1,852m)	8.5% (5,816m)	88.2% (60,151m)	100% (68,233m)



ひびわれ率	50.1%以上	30.1~50.0%	15.1~30.0%	15.0%以下	合計
第7地域	0.4% (254m)	2.0% (1,346m)	7.3% (4,992m)	90.3% (61,641m)	100% (68,233m)



わだち掘れ量	40.1mm以上	30.1~40.0mm	25.1~30.0mm	25.0mm以下	合計
第7地域	0.0% (0m)	0.3% (89m)	0.5% (140m)	99.1% (25,607m)	100% (25,836m)

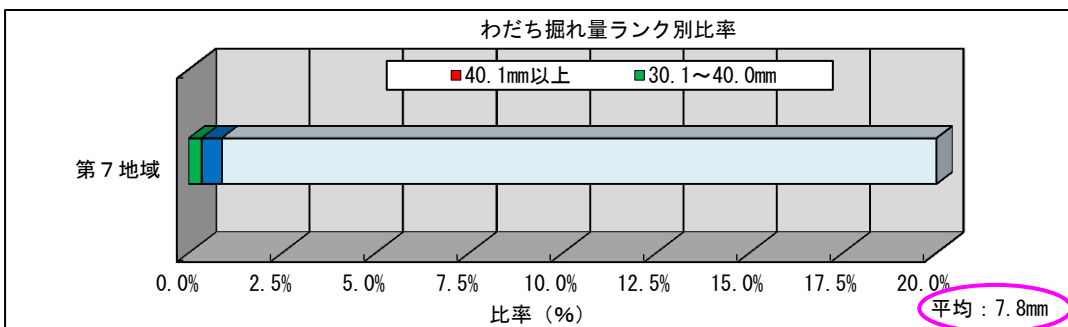
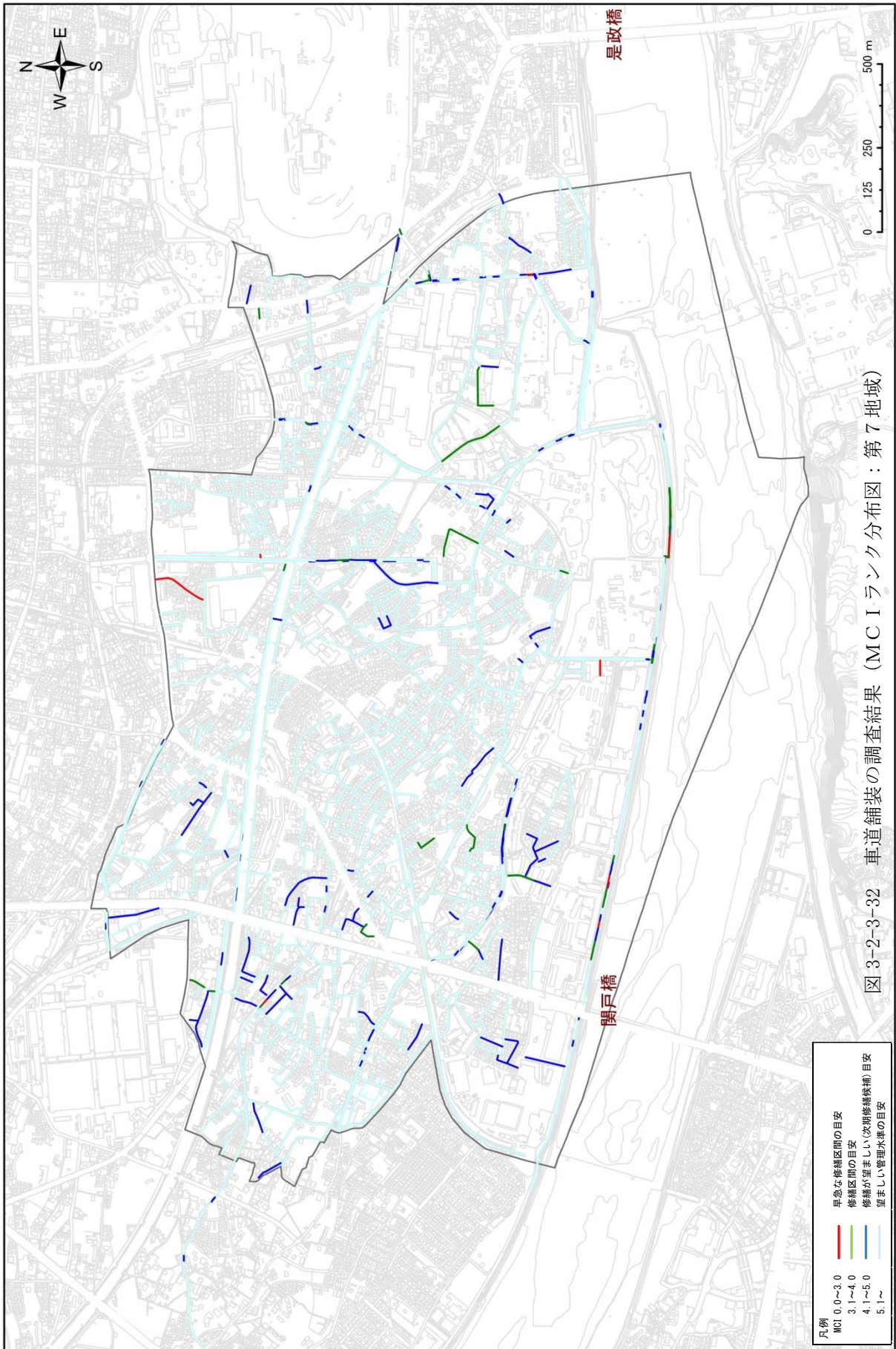


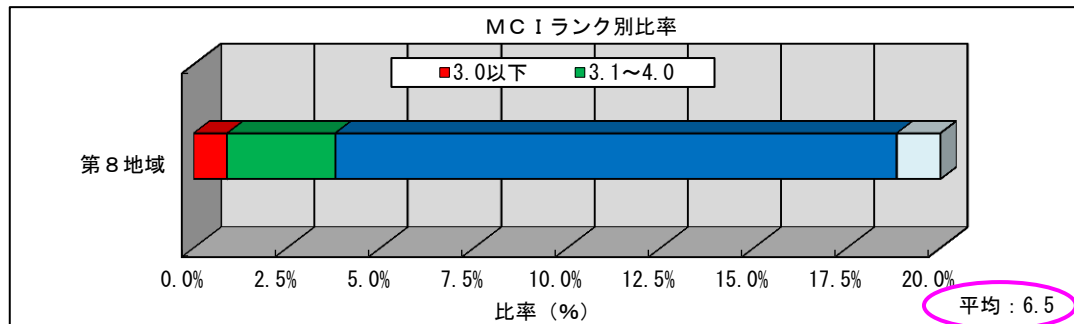
図 3-2-3-31 地域別・MC I・路面性状 2 要素ランク別割合比較 (第7地域)



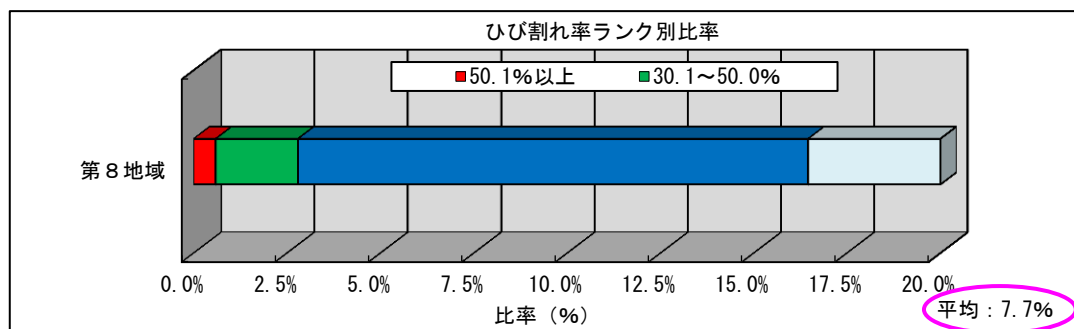
(4) 第8地域

「第8地域」は、8地域の中でひびわれ率の平均値がやや高く、わだち掘れ量もやや高い状態です。なお、MC Iは府中市8地域の中で最も低い(悪い)水準です。

MC I	3.0以下	3.1~4.0	4.1~5.0	5.1以上	合計
第8地域	0.9% (528m)	2.9% (1,695m)	15.0% (8,825m)	81.2% (47,608m)	100% (58,656m)



ひびわれ率	50.1%以上	30.1~50.0%	15.1~30.0%	15.0%以下	合計
第8地域	0.6% (348m)	2.2% (1,290m)	13.7% (8,017m)	83.5% (49,001m)	100% (58,656m)



わだち掘れ量	40.1mm以上	30.1~40.0mm	25.1~30.0mm	25.0mm以下	合計
第8地域	0.0% (0m)	0.2% (60m)	0.5% (120m)	99.3% (24,156m)	100% (24,336m)

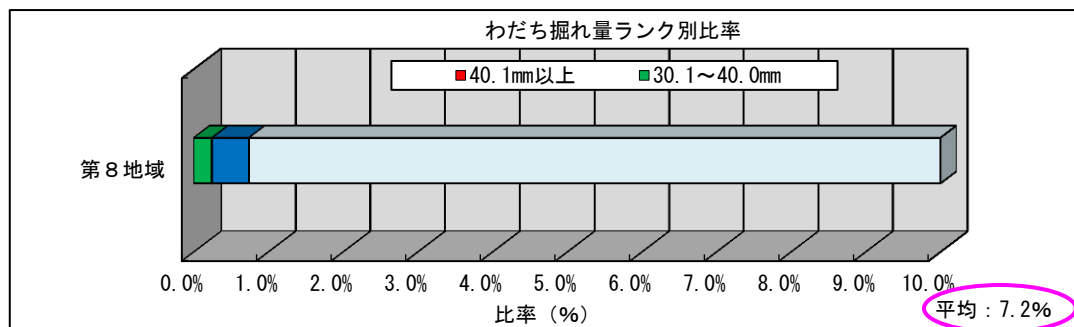


図 3-2-3-33 地域別・MC I・路面性状2要素ランク別割合比較 (第8地域)

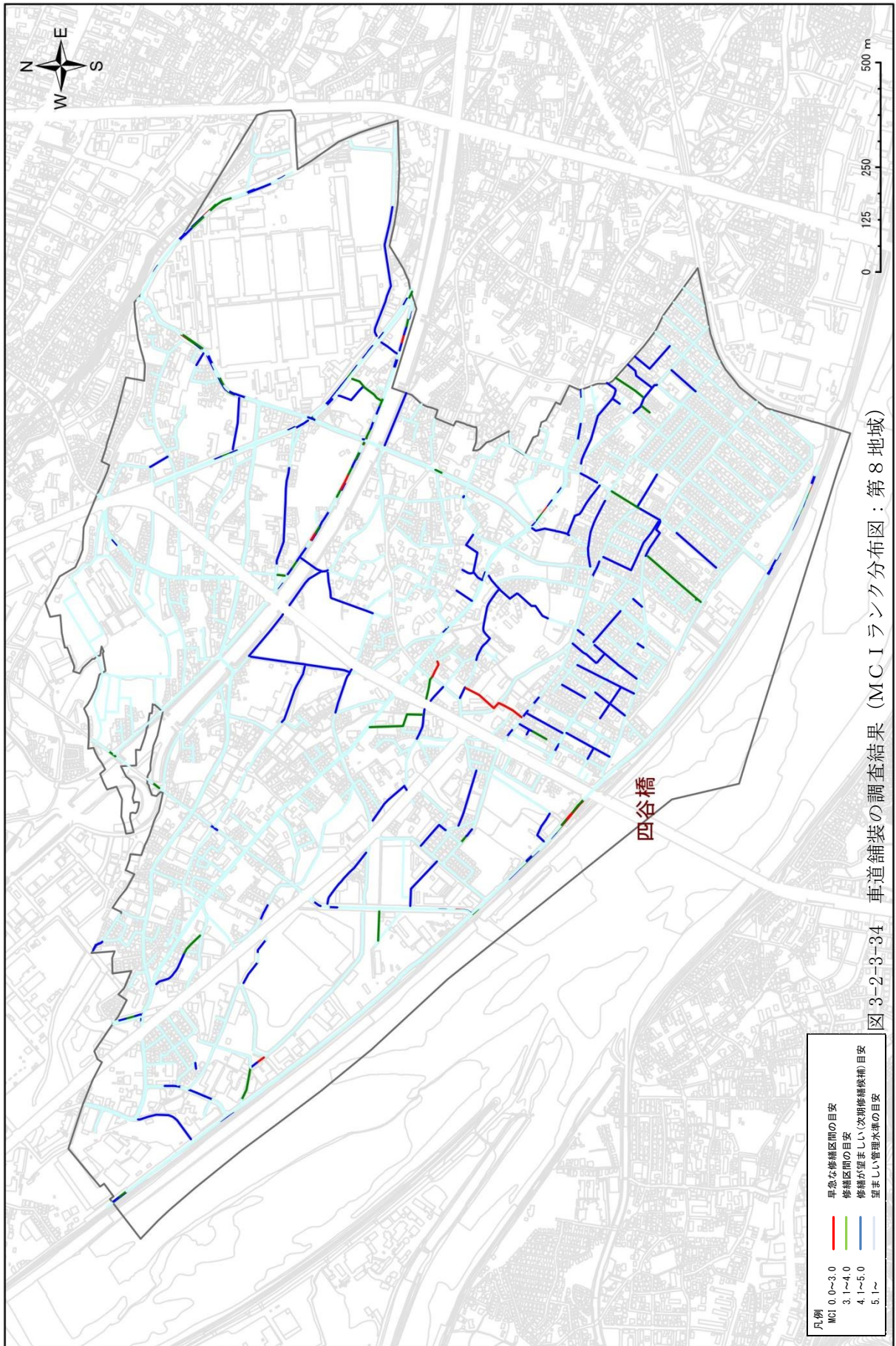


図 3-2-3-34 車道舗装の調査結果 (MC I ランク分布図：第 8 地域)

3.2.4. 歩道・植樹ます

歩道・植樹ますは、現地調査により現状を段階評価しました。

3.2.4.1. 全体数量

歩道、植樹ますは、交差点で区切られる街区を単位とする区間を調査しました。

表 3-2-4-1 歩道・植樹ますの調査数量一覧

調査方法	調査延長 (m)	調査面積 (㎡)	調査項目	評価 単位 (区間)	備 考
目視	173,502	489,158	舗 装：ひびわれ、段差、 ポットホール ^(※2) 、種別 植樹樹：根上がり、本数、グレー チング ^(※3) 有無・種別	交差点 街 区	平均歩道幅員 ^(※1) 幹線道路 3.03m 一般市道 2.46m
合 計		489,158		1,923	

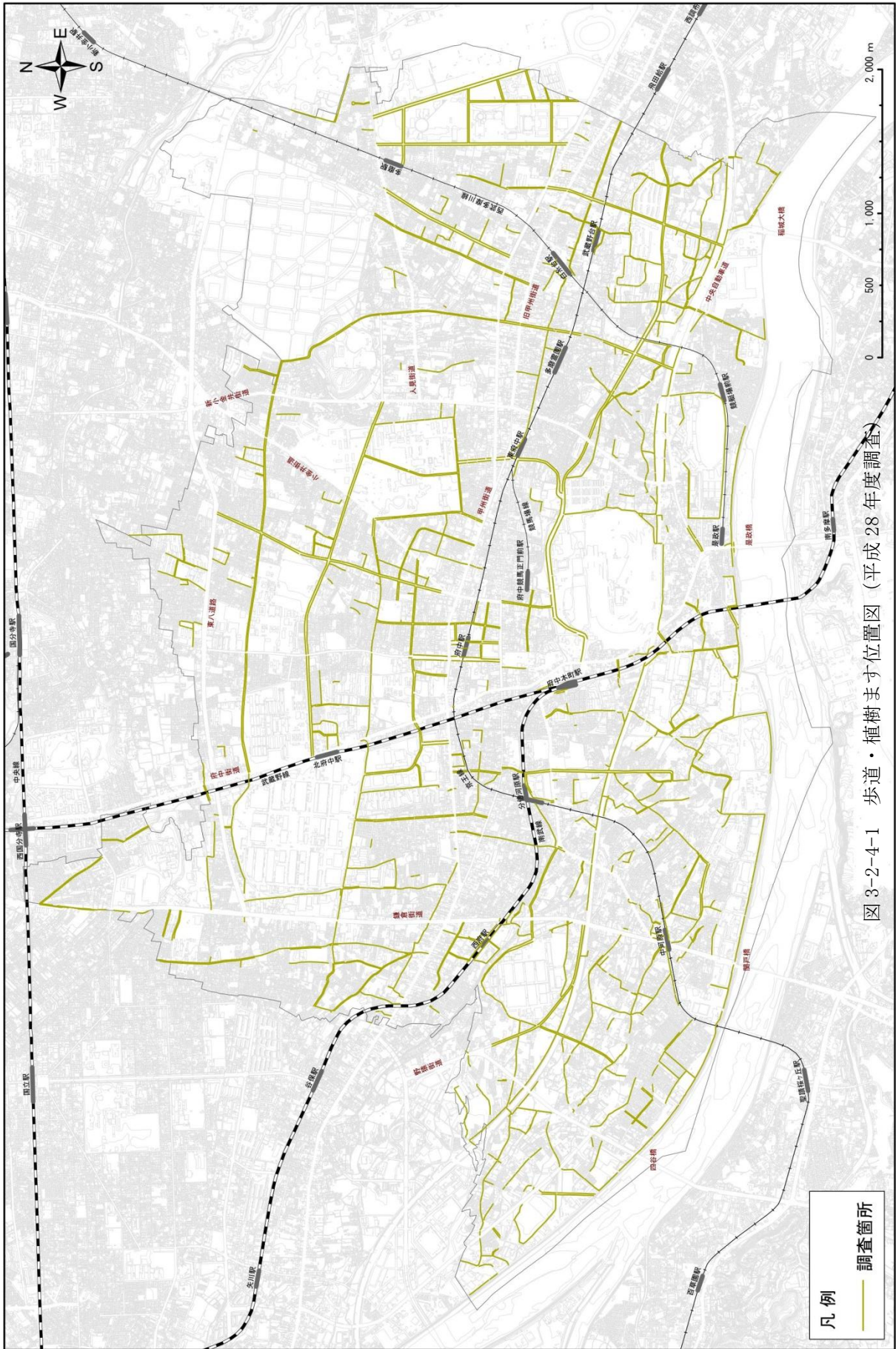
※1 平均幅員は、「市の道路管理に関する調書：平成 28 年 3 月 31 日現在」から算出しました。

※2 舗装表面の局所的な小穴をいい、ひびわれに起因する剥離等が原因となって生じます。

※3 道路の表面排水を目的として側溝におく蓋（縁石）のことで、歩道や植樹樹にも使われます。

3.2.4.2. 歩道・植樹ます位置

次頁の図に、歩道・植樹ますがある道路位置を示します。



3.2.4.3. 歩道・植樹ますの整備状況

(1) 調査項目及び解析手法

① 調査項目

歩道調査における調査項目は、段差によるつまずきの可能性を判断することを目的とし、次のとおりとしました。

- ア. 舗装状況（ひびわれ、段差、ポットホール）
- イ. 植樹状況（根上がり、本数）

また、歩道状況の基礎情報として、舗装種別、植樹柵の種別（グレーチングの有無、素材）について確認を行いました。

② 調査項目の対象判定

調査では、次の基準で判定と記録をしました。

- ア. 歩道舗装：切り下げ部のコンクリート舗装は調査しない。
歩行するための支障程度を判定する。
道路台帳と現地に相違がある場合は、簡易に記録する。
- イ. 植樹ます：「高木」、「中木」の本数や樹種は調査しない。
「低木」、「花株」は調査しない。
「切り株」がある場合は記録する。

③ 調査箇所の設定

道路台帳附図により、調査箇所の位置を確認しました。

④ 現地調査

調査員による徒歩調査を基本とし、歩道状況の評価は交差点街区（交差点巻き込みごと）を1単位区間としました。

(2) 評価方法と要補修判定基準

① 評価方法

調査結果の評価方法は、次に示す3つのランクとしました。

- 「大」：歩行や通行に問題がある(転倒など)と評価した箇所
- 「小」：根上がり等あるが、歩行や通行には問題がないと評価した箇所
- 「無」：問題がないと評価した箇所

以下の図3-2-4-2に、根上がり判定例を示します。



図3-2-4-2 根上がり判定例 (左：小、右：無)

② 要補修判定基準

歩道や植樹ますにおいて、補修を必要とする判定基準を、表 3-2-4-2 と表 3-2-4-3 整理しました。

表 3-2-4-2 歩道舗装の要補修判定基準

歩道舗装劣化の程度	劣化判定	備 考
劣化箇所(段差、穴)を跨ぐ程度	大	舗装材の流出や穴がある。
歩行に支障がない程度 (成人がつまずかない程度)	小	足の大きさ程度(30cm 程度)以下のひび割れを許容する。
ベビーカーなどの手押し車や杖利用の歩行に支障がない程度	なし	沿道からの流出土堆積や縁石の擦り減り、破損は判定に影響しない。

表 3-2-4-3 植樹柵の要補修判定基準

植樹柵劣化の程度	劣化判定	備 考
植樹柵(植樹帯)原型が認められない	大	
植樹柵(植樹帯)の縁石やグレーチングがゆがんでいる	小	
街路樹による破損が認められない	なし	

(3) 歩道舗装・植樹ます調査結果

歩道・植樹ますは、現地調査により現状を段階評価しました。

【歩道・植樹ますの整備状況】

- 歩道の劣化は若干進んでおります。また、前回調査で劣化していると判定された区間は前回同様の結果でした。ただし、それらの区間は幹線道路と比較して交通量の低い一般市道が大半です。
- 植樹ますの劣化の多くは、街路樹が成長したことによる根上がり原因と考えられます。特に街路樹がサクラの箇所では根上がりが目立ちました。

① 歩道舗装調査結果

歩道舗装の劣化状況調査結果を、表 3-2-4-4 に示します。

表 3-2-4-4 歩道劣化状況の調査結果

劣化判定	単位	平成 28 年度				前回調査（平成 23 年度）		
		区間数	延長 (m)	面積 (㎡)	摘要	区間数	延長 (m)	面積 (㎡)
「大」	区間	8	1,063	2,643	1-307、2-119、4-342、4-384、6-265、6-322、すずかけ通り、多摩川通り	5	545	1,397
「小」	区間	151	23,190	57,464	a : 116、Co : 37、I : 37 ※	93	11,835	32,142
「なし」	区間	1,764	149,249	418,203		1,757	158,624	439,167
合計		1,923	173,502	478,310		1,855	171,005	472,707

※ a=アスファルトコンクリート舗装、Co=セメントコンクリート舗装、I=インターロッキング舗装

② 植樹ます調査結果

植樹ますの状況調査結果を、表 3-2-4-5 に示します。

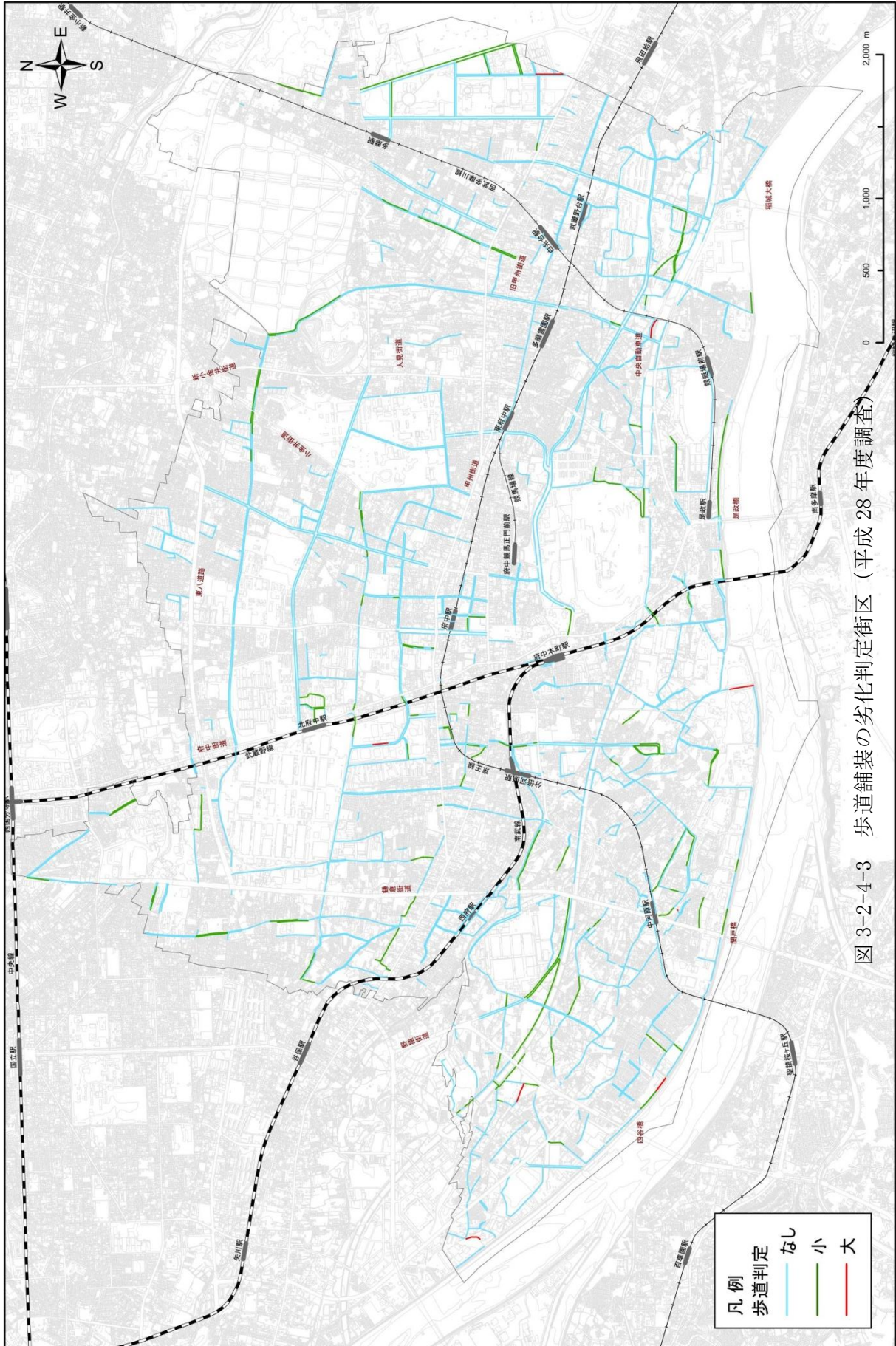
表 3-2-4-5 植樹樹劣化状況の調査結果

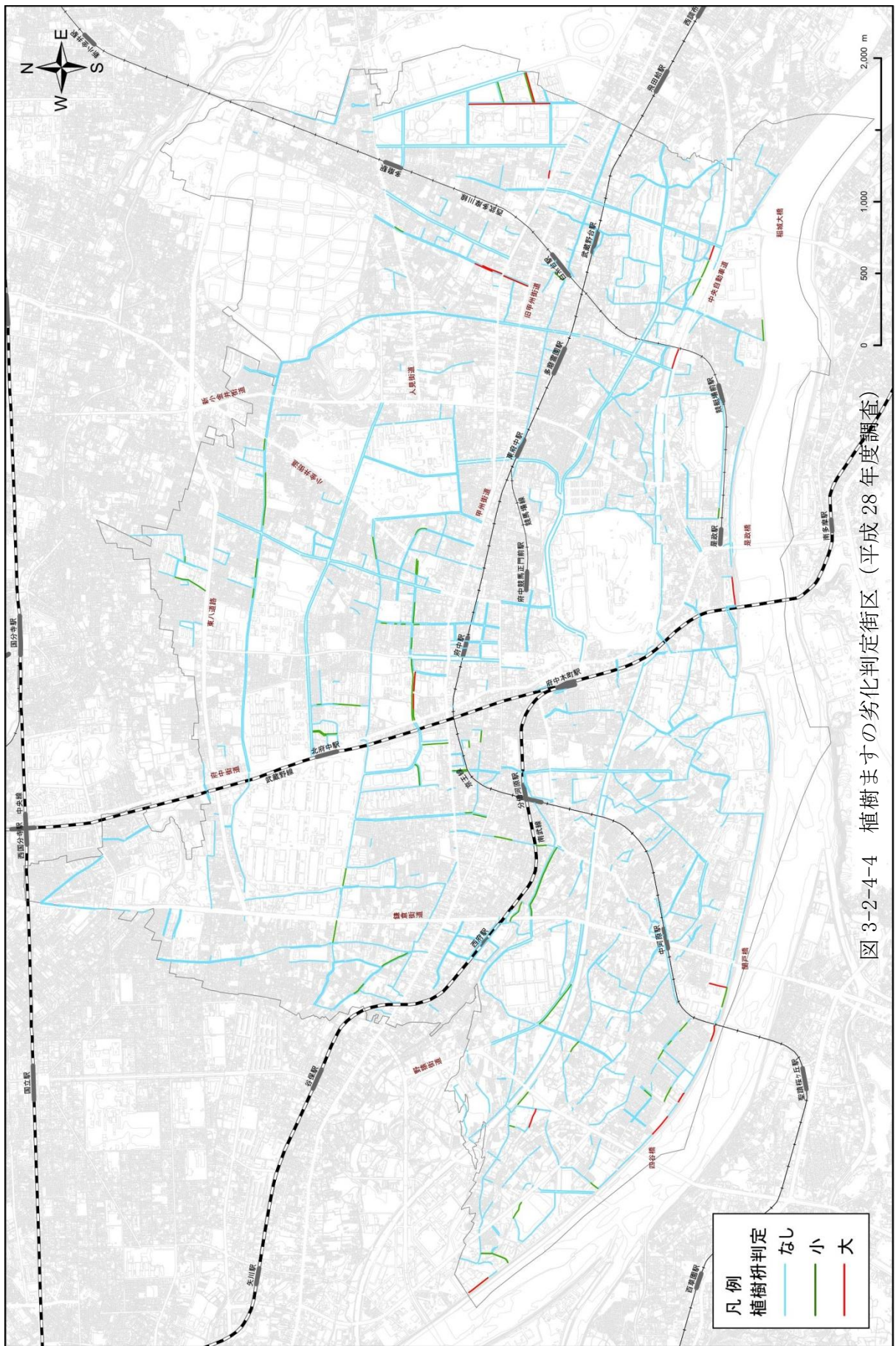
劣化判定	単位	平成 28 年度				前回調査（平成 23 年度）		
		区間数	劣化箇所数	グレーチング材質 (区間数)	摘要	区間数	劣化箇所数	グレーチング材質 (区間数)
「大」	区間	10	17	鉄 : 4 なし : 3	1-96、1-307、1-355、2-234、6-265、6-351、「桜通り」2 箇所、「多摩川通り」5 箇所、「中央道側道」、「多磨霊園南参道」3 箇所	7	7	鉄 : 2 なし : 5
「小」	区間	151	124	P : 2※ 鉄 : 23 なし : 52		65	112	P : 2※ 鉄 : 17 なし : 46
「なし」	区間	1,764	----	P : 47※ 鉄 : 212 なし : 1,570		1,783	----	P : 47※ 鉄 : 212 なし : 1,524
合計		1,923	141	P : 49※ 鉄 : 239 なし : 1,635		1,855	119	P : 49※ 鉄 : 231 なし : 1,575

※ P=コンクリート盤

(4) 補修対策箇所

劣化判定が「大」と「小」の区間の結果を補修対策箇所とし、それぞれ図 3-2-4-3、図 3-2-4-4 に街区箇所を示します。あわせて、図 3-2-4-5、図 3-2-4-6 に劣化していると判定した箇所の調査写真を示します。





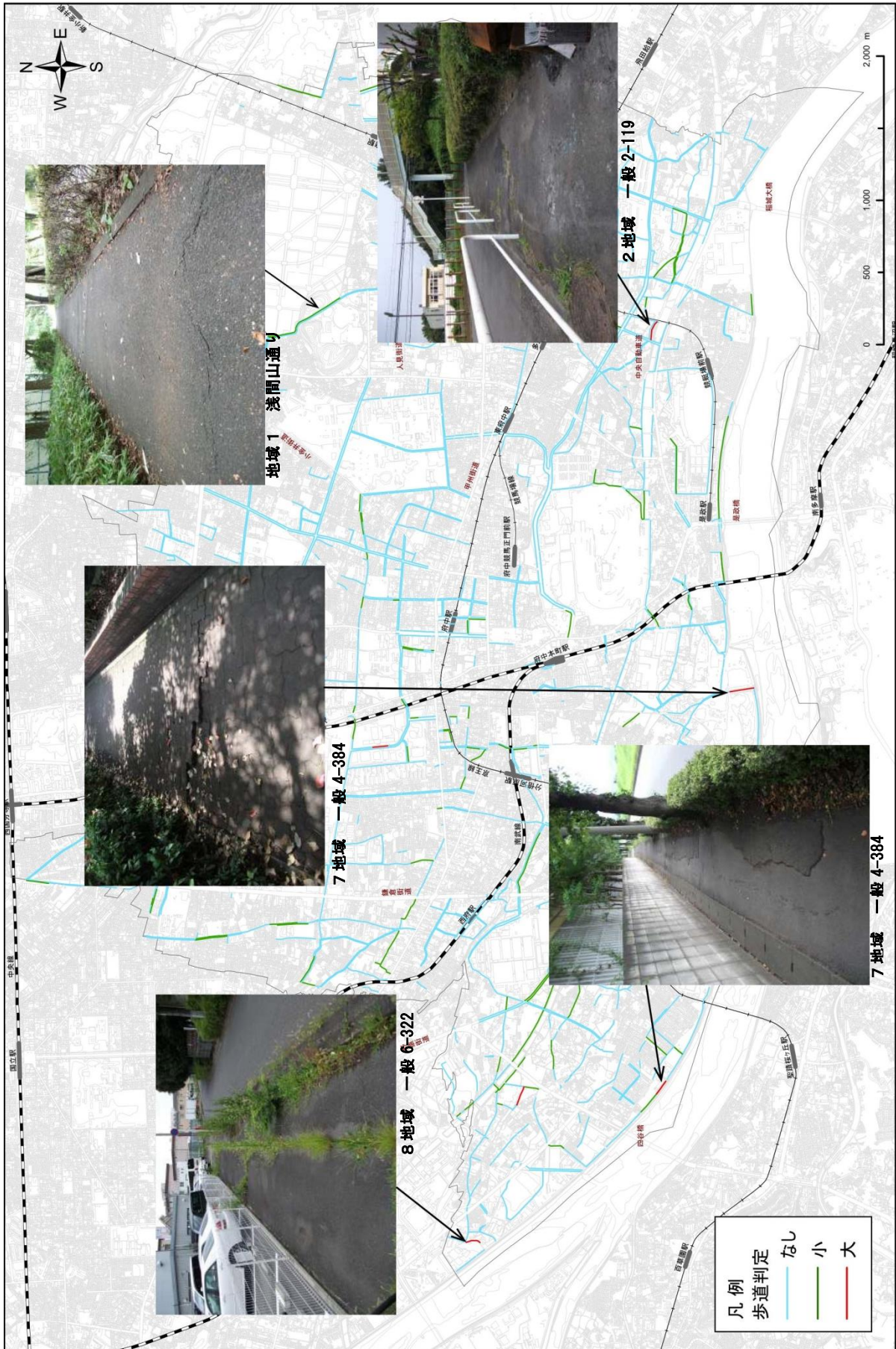


図 3-2-4-5 歩道舗装の劣化箇所 (平成 28 年度調査)

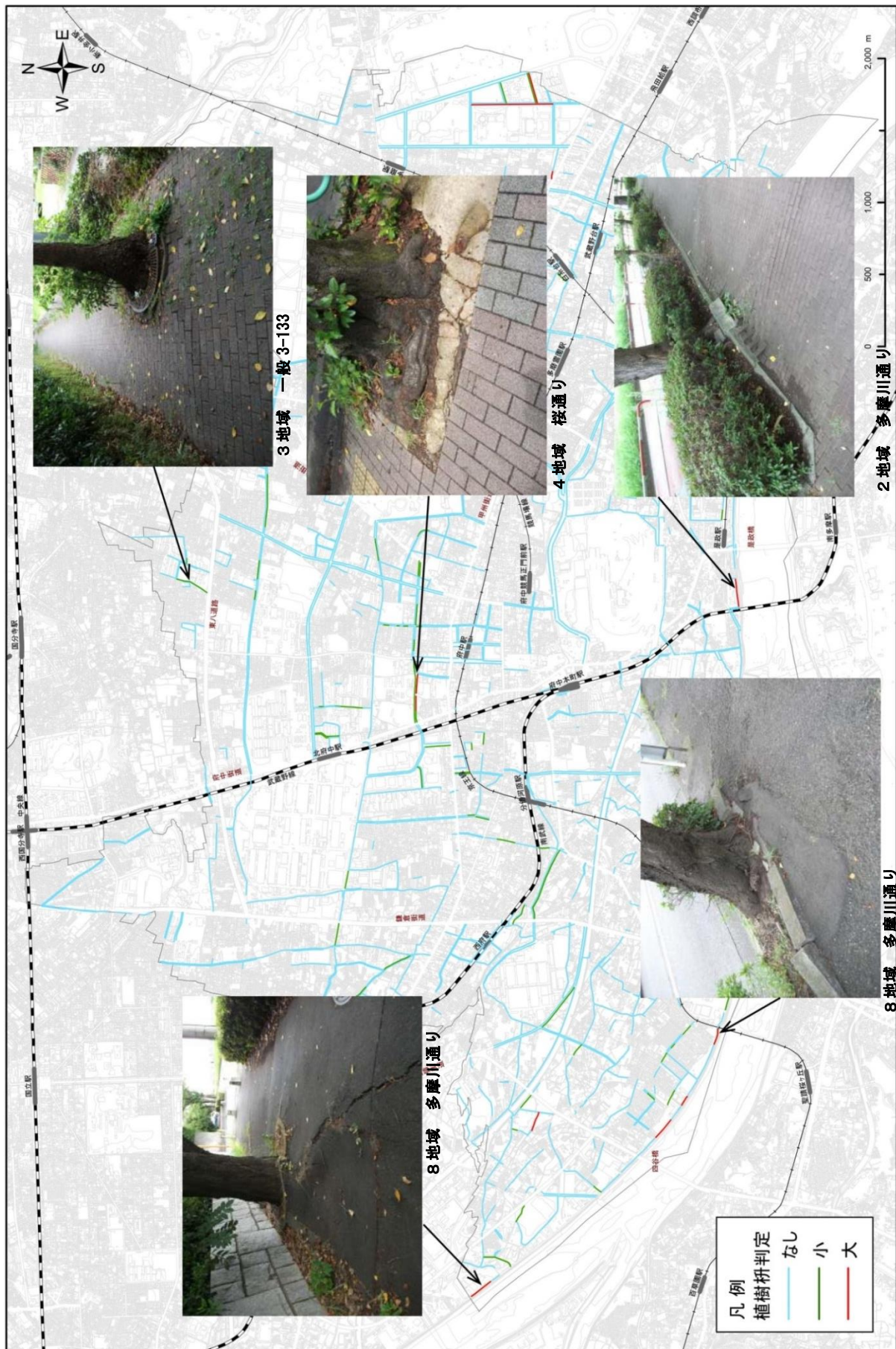


図 3-2-4-6 植樹ますの劣化箇所 (平成 28 年度調査)

3.2.5. 案内標識

案内標識は、現地調査により箇所及び現状を確認しました。

3.2.5.1. 全体数量

案内標識は、「府中市サイン基本計画」（平成2年11月）のデザインに従って設置された標識が401基と、それ以前のデザインの標識が138基あります。また、そのほかに個別に設置した施設案内標識が264基あります。

表 3-2-5-1 案内標識の内訳

案内標識の分類	基数（基）	全体に対する割合（%）	備考
新型案内標識	401	49.94%	府中市サイン基本計画（平成2年11月策定）に準拠
旧型案内標識	138	17.19%	サイン基本計画以前のデザイン
その他案内標識	264	32.87%	上記に含まれないデザイン
合計	803	100%	



図 3-2-5-1 案内標識の例（新型）



図 3-2-5-2 案内標識の例（旧型：道路名称）



図 3-2-5-3 案内標識の例（旧型：施設名称）



図 3-2-5-4 案内標識の例（その他）

3.2.5.2. 案内標識位置

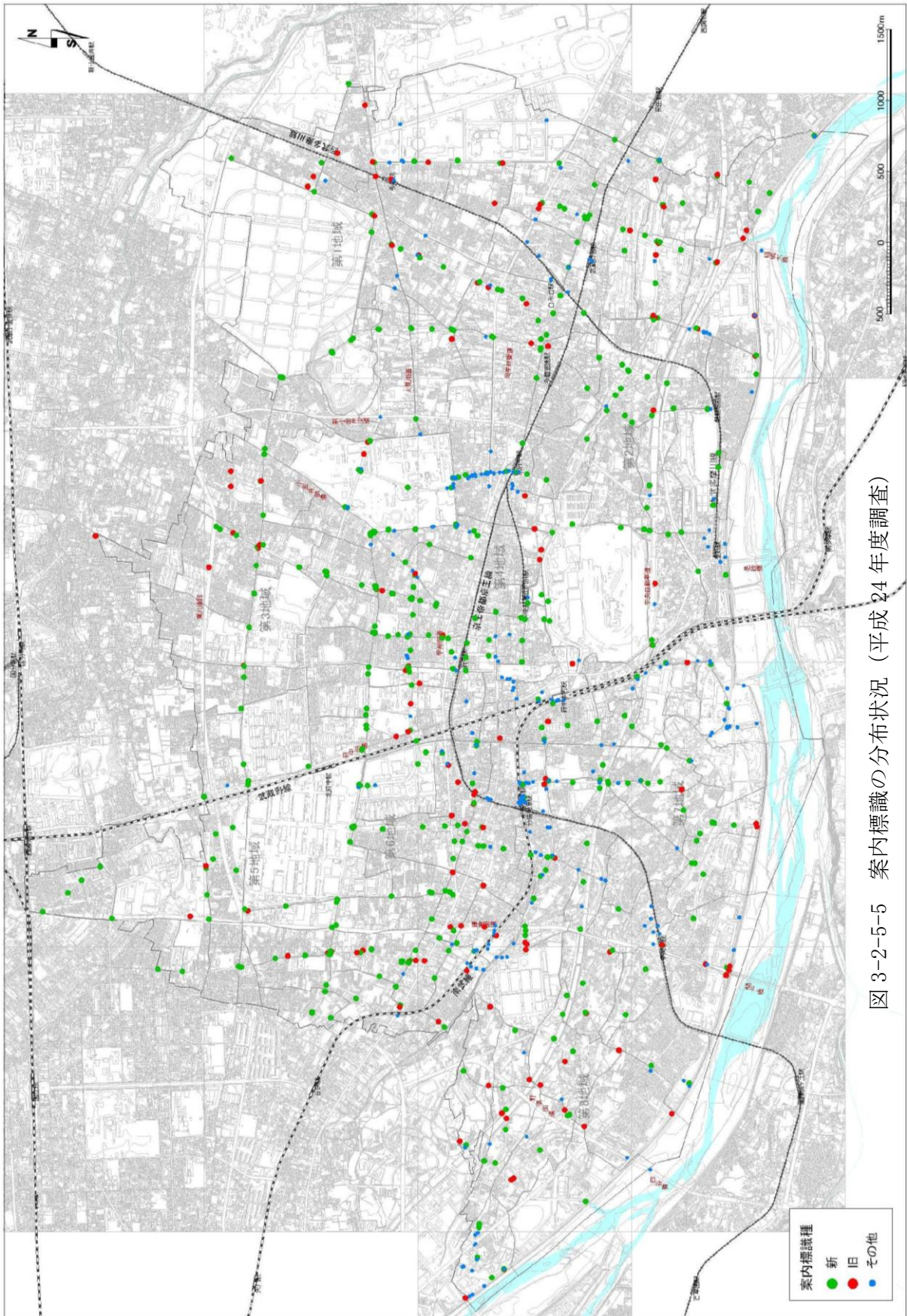
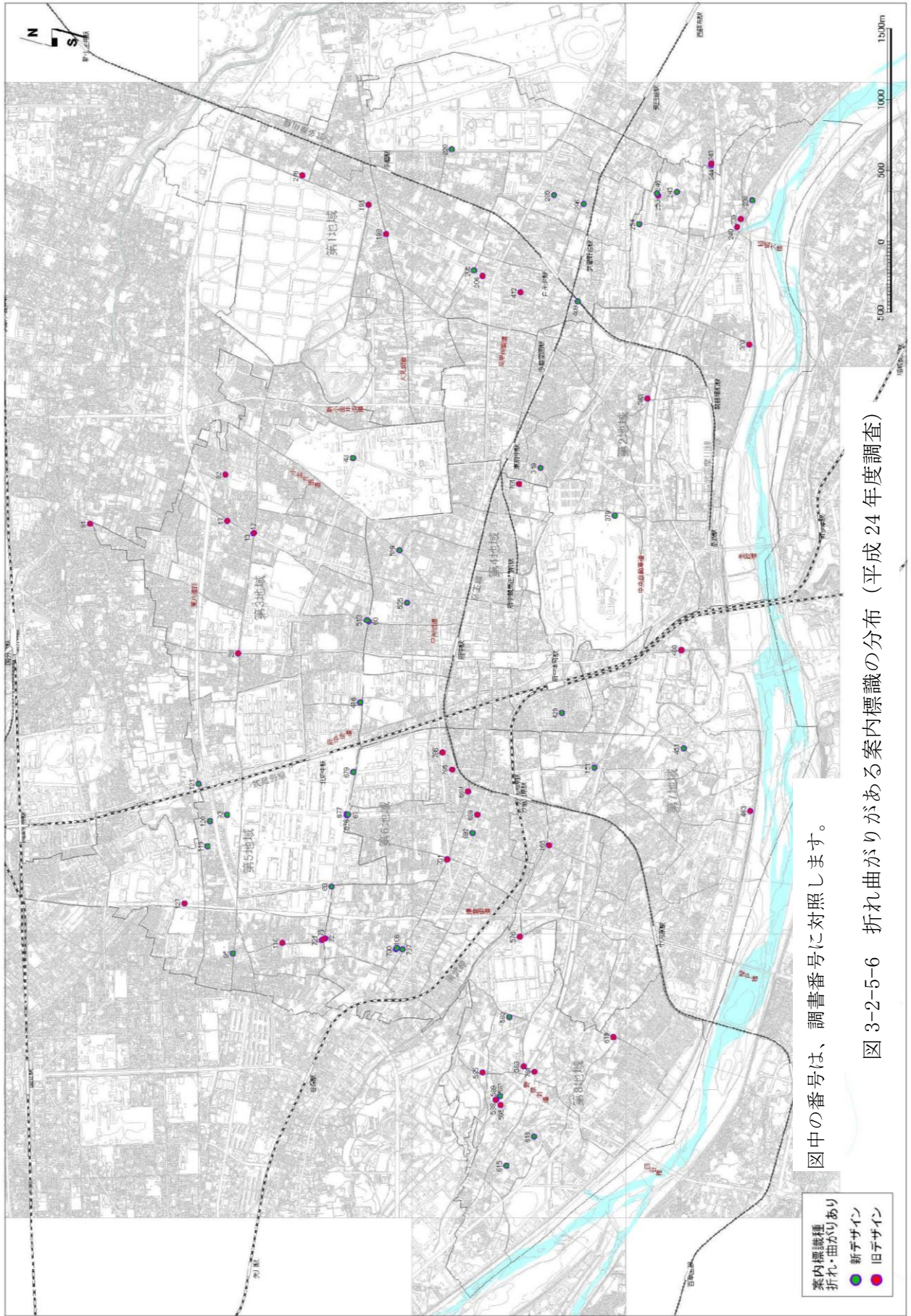


図 3-2-5-5 案内標識の分布状況 (平成 24 年度調査)



図中の番号は、調査番号に对照します。

図 3-2-5-6 折れ曲がりがある案内標識の分布 (平成 24 年度調査)

3.2.5.3. 案内標識の整備状況

- 「府中市サイン基本計画（平成 2 年 11 月）」のサイン計画に従って設置された案内標識と旧型案内標識が混在している状況です。
- 78 基程度に、看板折れや曲がり等の看板破損があります。（支柱の破損はありません。）
- 色あせ等により、表示が見にくくなっている標識は 63 基あります。

3.2.5.4. 地域別集計

各地域とも、10 基～30 基程度の旧型案内標識があります。また、損傷のうち「折れ・曲がり」の看板破損がある案内標識は地域ごとに 10 基程度ずつあります。

表 3-2-5-2 地域ごとの案内標識基数

地域区分	全案内標識（基）			うち、折れ・曲がりがある標識（基）		
	新型案内標識	旧型案内標識	その他	新型案内標識	旧型案内標識	その他
第 1 地域	53	19	28	5	5	0
第 2 地域	68	24	52	7	6	0
第 3 地域	48	13	8	4	6	0
第 4 地域	63	13	39	4	1	0
第 5 地域	22	4	0	9	4	0
第 6 地域	74	31	61	4	6	0
第 7 地域	50	15	50	2	3	0
第 8 地域	23	19	26	4	8	0
全 体	401	138	264	39	39	0

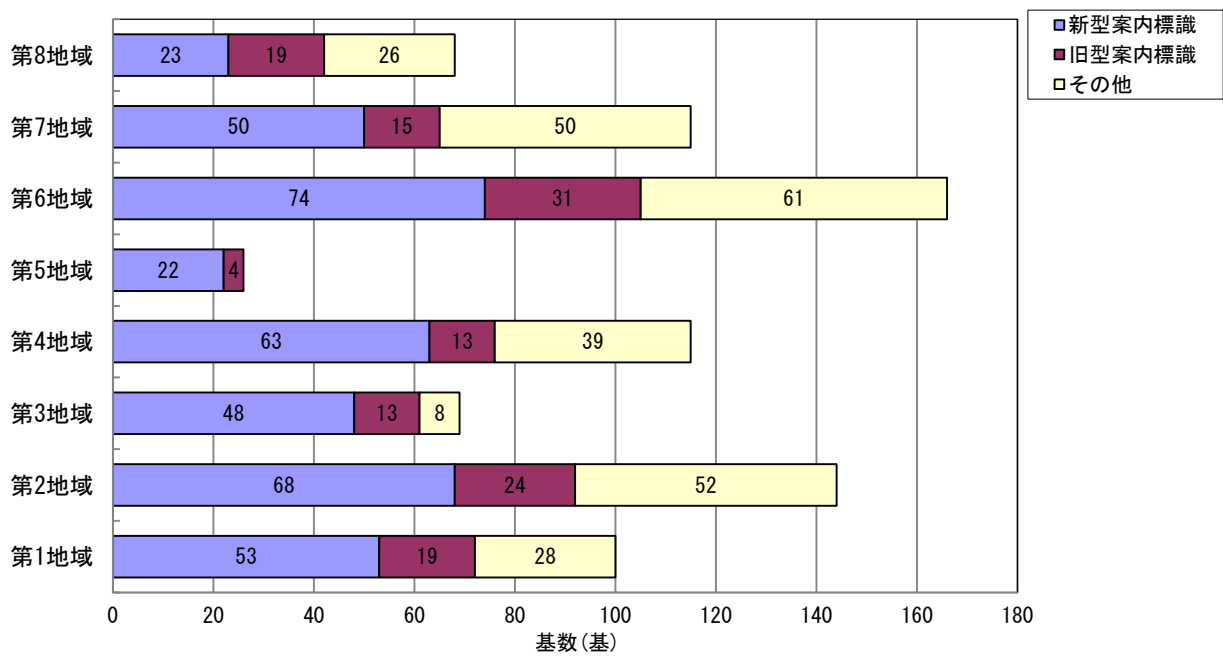


図 3-2-5-7 地域ごとの案内標識数

3.2.6. 警戒標識・その他標識

警戒標識・その他標識は、標識台帳を確認しました。

3.2.6.1. 全体数量

警戒標識・その他標識は、市が所有している標識台帳内に記録されています。その他標識とは、制限標識、遊歩道案内板、安眠標識、路面凍結注意標識、すべり止め用砂案内標識です。

表 3-2-6-1 警戒標識・その他標識基数

分類		基数 (基)	全体に対する割合 (%)	備考
警戒標識	警戒標識	283	69.88%	
その他標識	制限標識	37	9.14%	
	遊歩道案内板	19	4.69%	
	安眠標識	10	2.47%	
	路面凍結注意標識	40	9.88%	
	すべり止め用砂案内標識	16	3.95%	
合計		405	100%	



図 3-2-6-1 警戒標識の例



図 3-2-6-2 制限標識の例

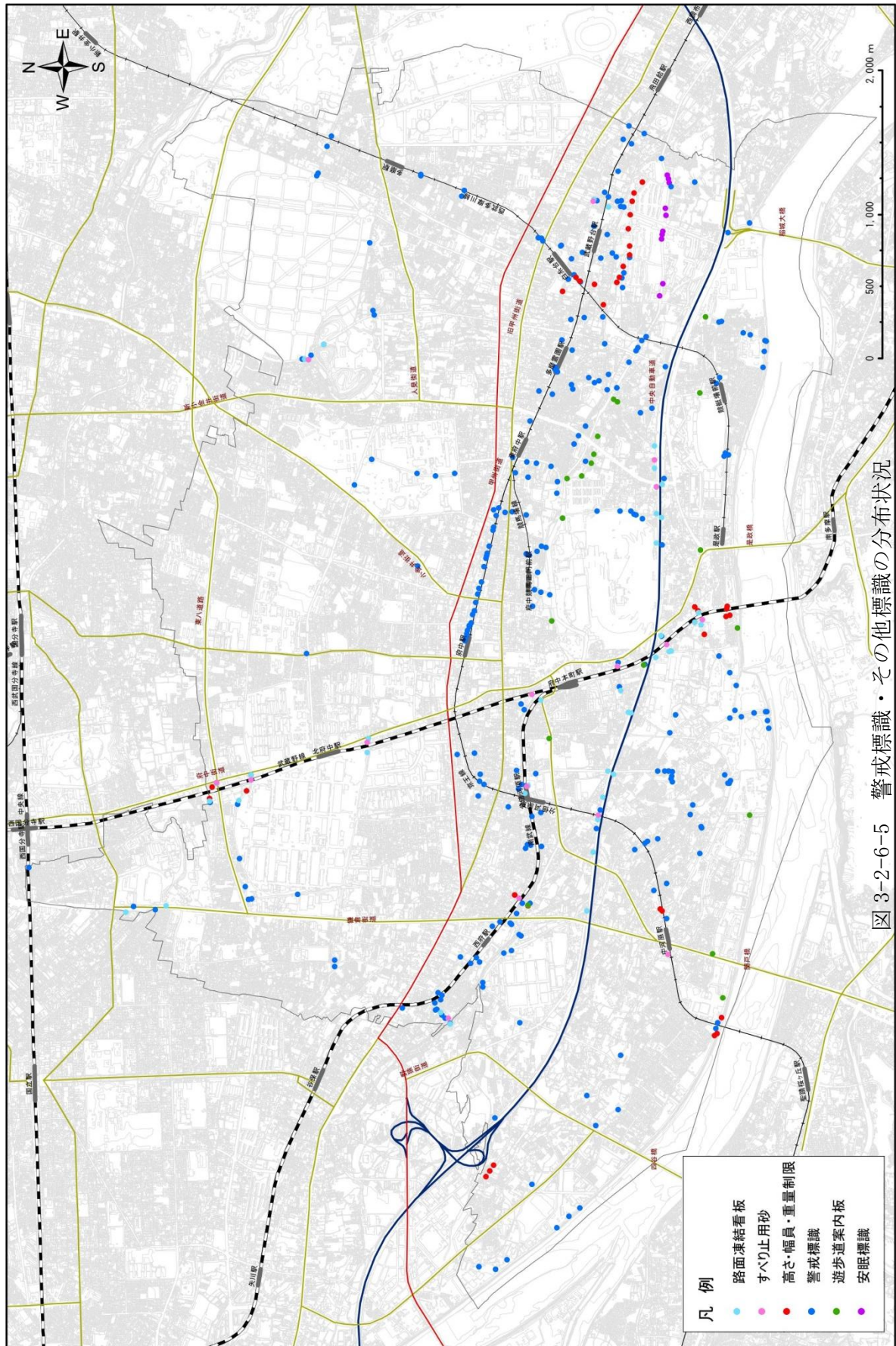


図 3-2-6-3 安眠標識の例



図 3-2-6-4 路面凍結注意標識の例

3.2.6.2. 警戒標識・その他標識位置



3.2.6.3. 警戒標識・その他標識の整備状況

- 府中市標識台帳に記載されている警戒標識及びその他標識については、最も古い設置年が昭和 50 年です。最新設置年は平成 6 年となっており、その後台帳の更新は実施されていません。

3.2.6.4. 地域別集計

警戒標識は、各地域に設置されています。また、路面凍結看板やすべり止め用砂案内は、鉄道を交差する路線に設置されています。地域別には、第 2 地域が 101 基、第 7 地域が 79 基と、市の南側の地域に多く設置されています。

表 3-2-6-2 地域ごとの案内標識基数

警戒標識・その他標識（基）						
地域区分	警戒標識	制限標識	遊歩道案内板	安眠標識	路面凍結看板	すべり止め用砂案内
第 1 地域	48	15	0	0	4	1
第 2 地域	67	3	11	10	8	2
第 3 地域	8	2	0	0	2	4
第 4 地域	41	0	1	0	3	1
第 5 地域	12	2	0	0	5	0
第 6 地域	41	1	2	0	4	3
第 7 地域	46	9	5	0	14	5
第 8 地域	20	5	0	0	0	0
全 体	283	37	19	10	40	16

3.2.7. 街路灯

街路灯は、日常的に照明の交換をしています。次に対象の照明件数の把握を目的とし、「管理台帳」を基に年度毎の照明の設置個数と累積合計を整理しました。

3.2.7.1. 全体数量

府中市が管理する街路灯は、17,644 基です。

(1) 照明形式

街路灯は、昭和 59 年度～昭和 61 年度に多く設置されています。
市内の街路灯の大半が、交通安全灯と防犯灯に分類されます。

表 3-2-7-1 街路灯 照明形式

交通安全灯	防犯灯	合計
7,188 基	10,456 基	17,644 基

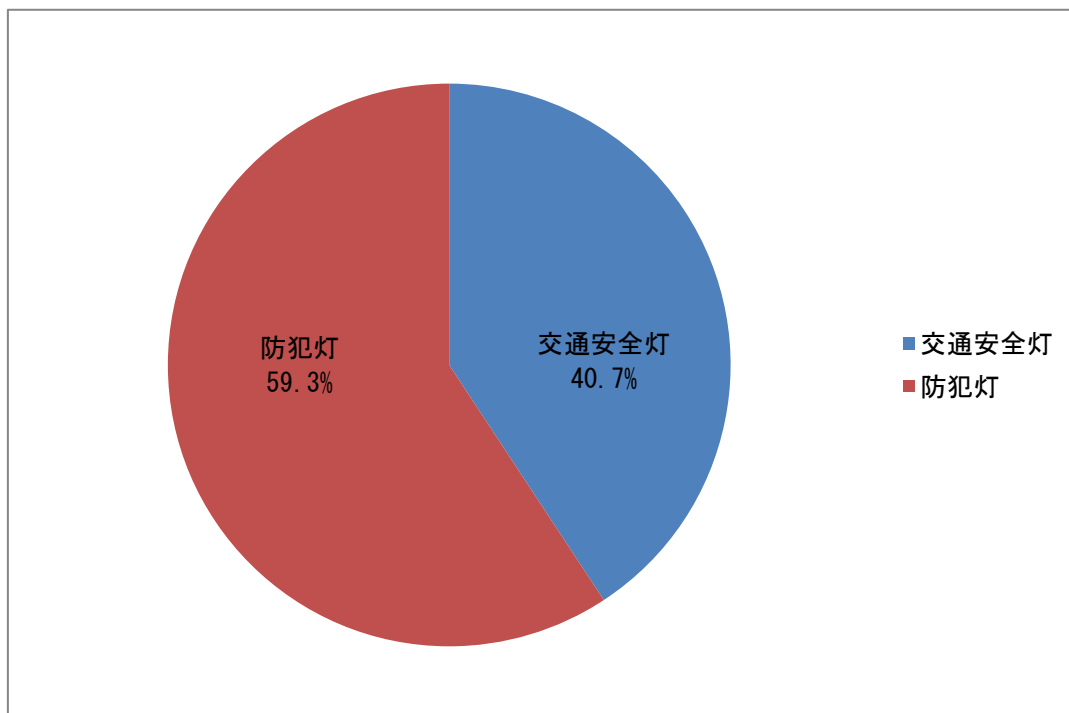


図 3-2-7-1 街路灯の照明区分の内訳

(2) 灯種形式

街路灯は、東京電力や電話の電柱などに共架している「共架柱」と、独立した柱に設置している「独立柱」があります。

なお、灯具の設置は、第1地域と第2地域でそれぞれ全体の17%を占めます。

表 3-2-7-2 地域ごとの灯種形式の内訳

地域区分	共架柱(基)	独立柱(基)	合計	割合
第1地域	2,152	703	2,855	17.01%
第2地域	2,211	688	2,899	17.27%
第3地域	1,933	597	2,530	15.07%
第4地域	1,159	725	1,884	11.22%
第5地域	983	229	1,212	7.22%
第6地域	1,357	402	1,759	10.48%
第7地域	1,796	440	2,236	13.32%
第8地域	1,254	160	1,414	8.42%
全 体	12,845	3,944	16,789	100.00%

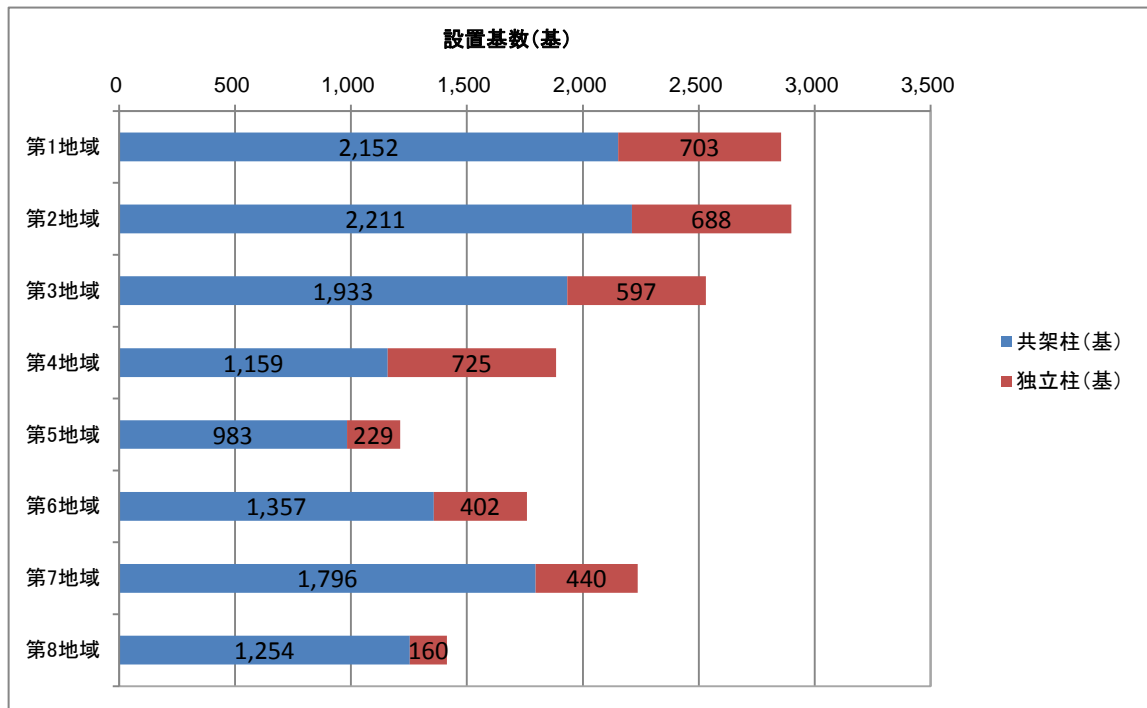


図 3-2-7-3 地域ごとの灯種形式の内訳

(3) 灯柱形式

街路灯の灯柱形式は、鉄柱が全体の7%（1,196基）を占めています。また、コンクリート柱は全体の4%（728基）あります。ただし、灯柱形式が不明の灯柱が88%（14,658基）あります。

表 3-2-7-3 灯種形式の内訳

地域区分	灯種形式	合計	コンクリート柱 (基)	鉄柱(基)	木柱(基)	不明(基)
全 体	共架柱	12,845	724	1,015	207	10,899
	独立柱	3,944	4	181	0	3,759
	合計	16,789	728	1,196	207	14,658

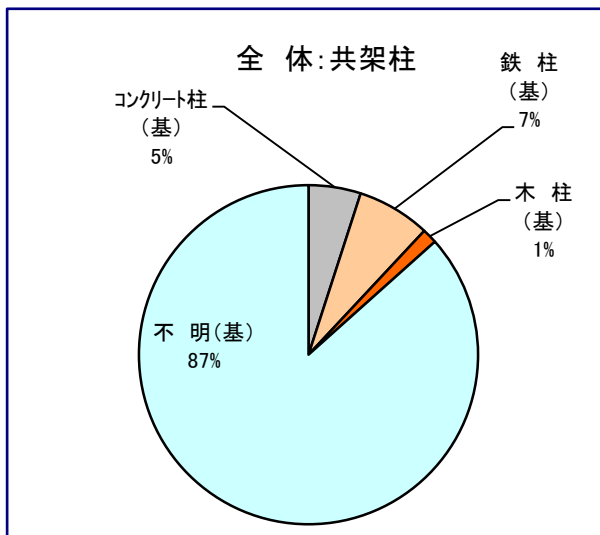


図 3-2-7-4 灯柱形式 (全体:共架柱)

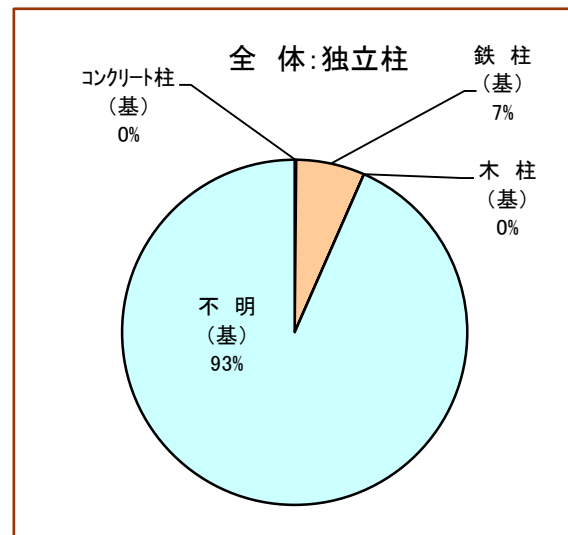


図 3-2-7-5 灯柱形式 (全体:独立柱)

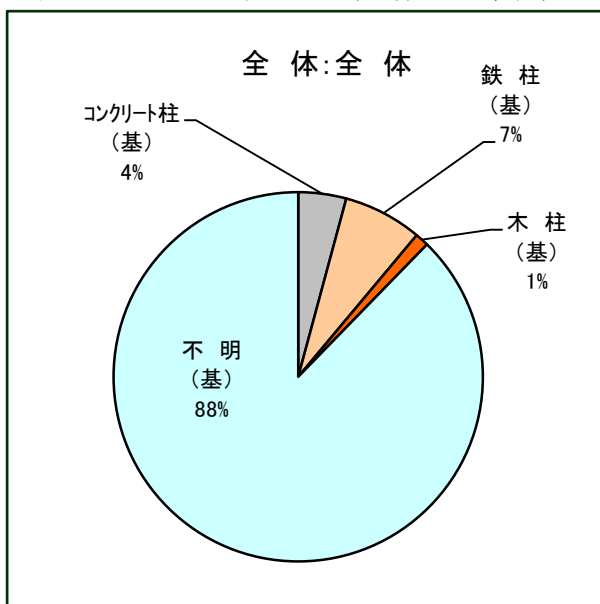


図 3-2-7-6 灯柱形式 (全体:全体)

3.2.7.2. 街路灯の整備状況

- 街路灯の設置年に関する資料は保管されていません。しかし、照明などの交換記録（昭和 49 年以降）によると、昭和 58 年～昭和 60 年の 3 年間に、全体の 36%の照明が交換されています。
- 平成 24 年度から、年平均 4,003 基の照明を交換しています。

3.2.7.3. 街路灯の整備状況

(1) 照明の交換実績

照明の交換実績は、平成 24 年度からの 4 年間を次に示します。

表 3-2-7-4 街路灯 照明の交換実績

年 度	交通安全灯		防犯灯		合 計 (基)
	個 数	割 合	個 数	割 合	
平成 24 年度	798	20.34%	3,126	79.66%	3,924
平成 25 年度	1,030	25.63%	2,989	74.37%	4,019
平成 26 年度	859	19.73%	3,495	80.27%	4,354
平成 27 年度	783	21.09%	2,929	78.91%	3,712
年平均 交換個数	868	21.68%	3,135	78.32%	4,003
4 年間の合計個数	3,470	21.68%	12,539	78.32%	16,009

※ 出典 平成 27 年度 各事業の概要(管理課・決算資料) より

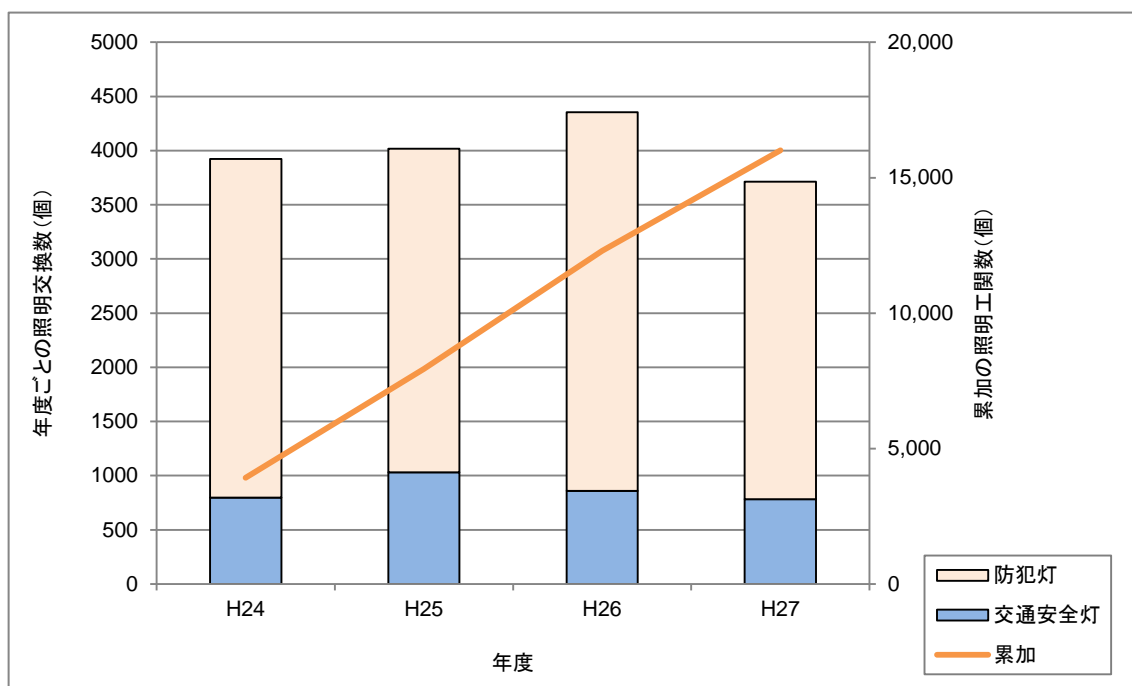


図 3-2-7-7 街路灯 照明の交換実績

(2) 照明形式

照明形式ごとの交換数と交換年数

照明形式ごとに交換数及び交換年数を、記載いたします。

i. 蛍光灯

蛍光灯は、2年～3年で交換しています。

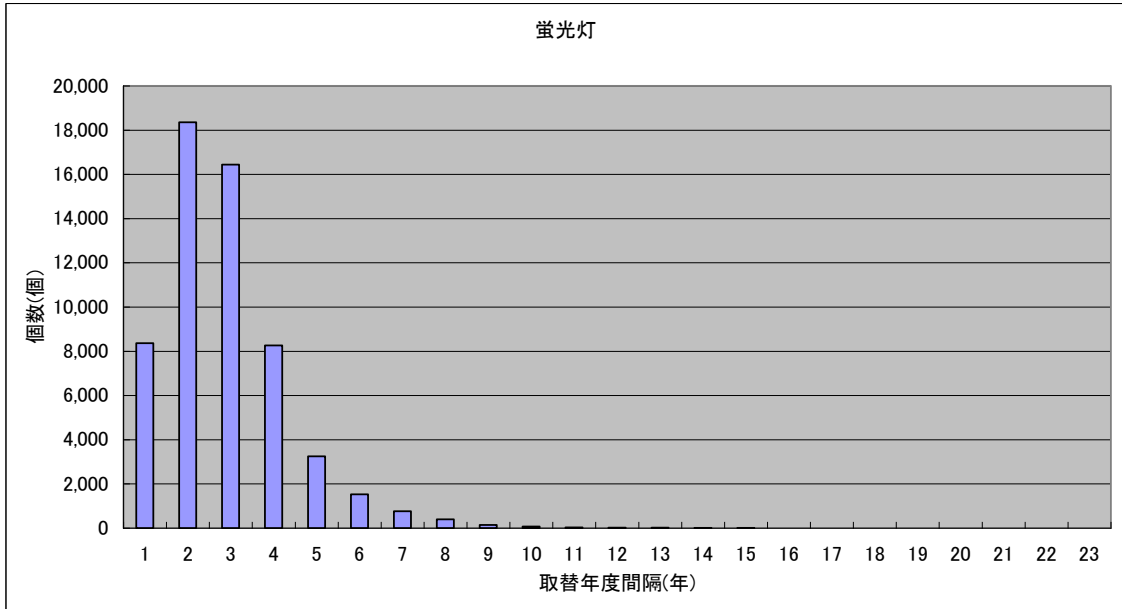


図 3-2-7-8 蛍光灯の取替え年度間隔

ii. 水銀灯

水銀灯は、1年～8年で交換しています。

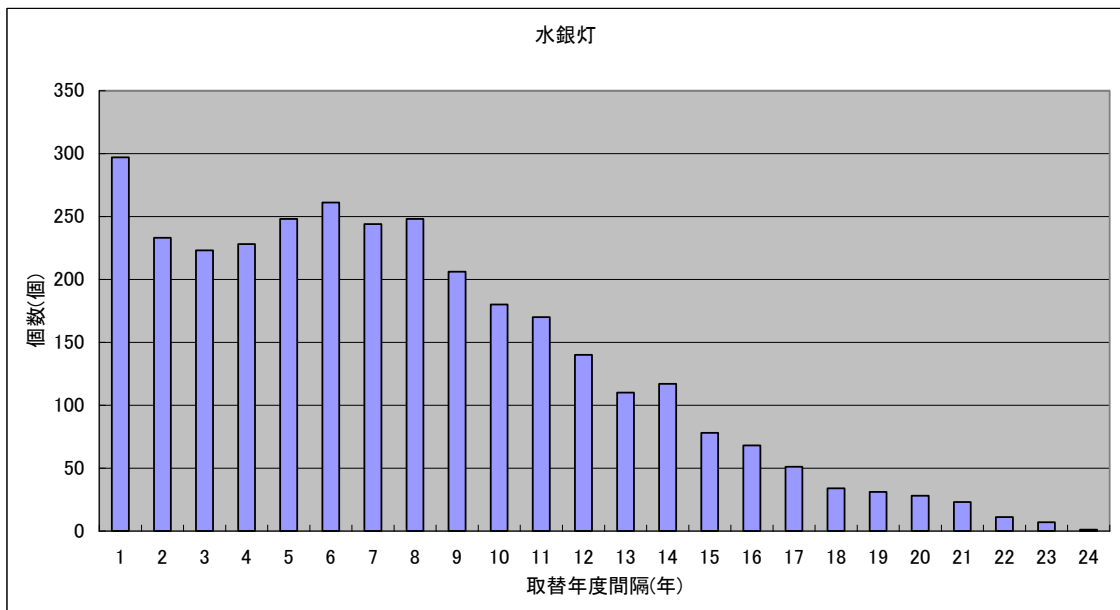


図 3-2-7-9 水銀灯の取替え年度間隔

iii. 白熱球

白熱球は該当機器が少なく、「その他」として分類しています。

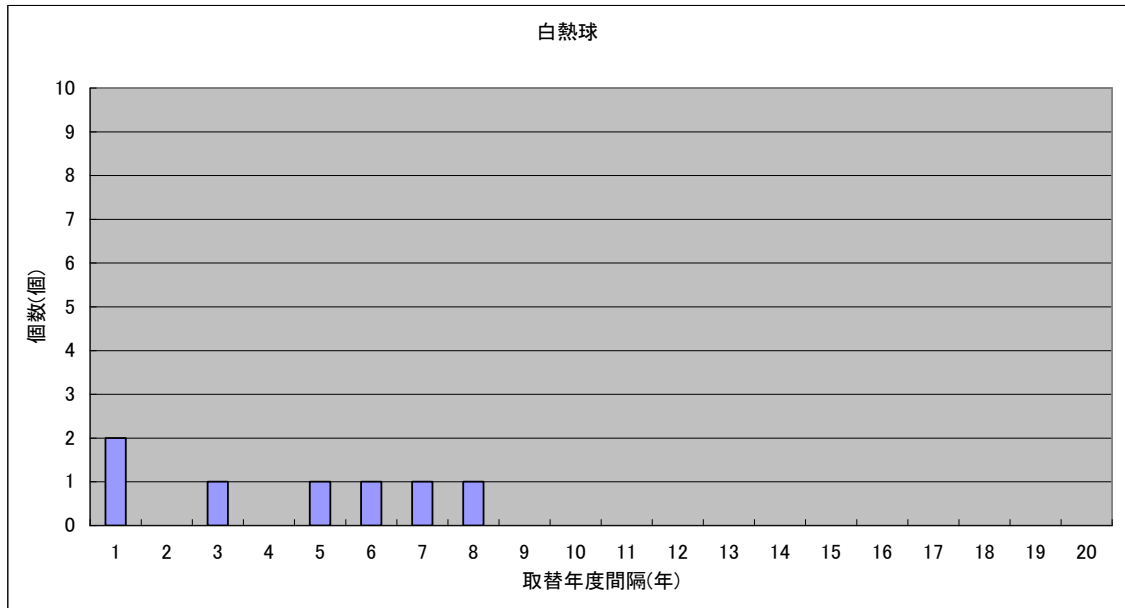


図 3-2-7-10 白熱球の取替年度間隔

iv. ナトリウムランプ

ナトリウムランプは、1年～5年で交換しています。

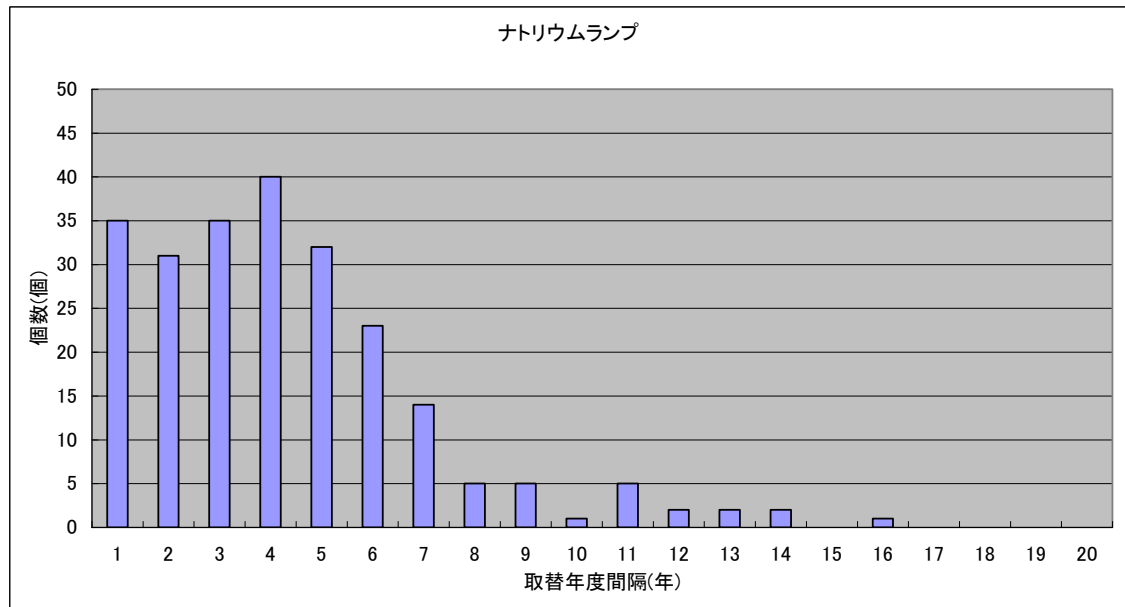


図 3-2-7-11 ナトリウムランプの取替年度間隔

v. メタルハライドランプ

メタルハライドランプは、1年～3年で交換しています。

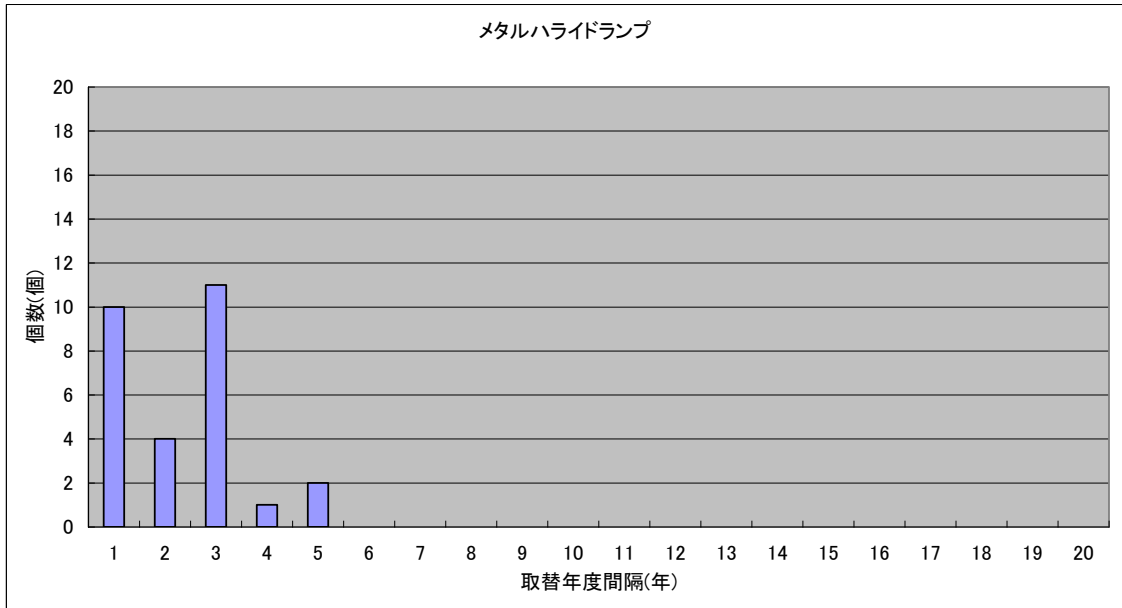


図 3-2-7-12 メタルハライドランプの取替年度間隔

vi. シールドビーム

シールドビームは、1年～3年で交換しています。

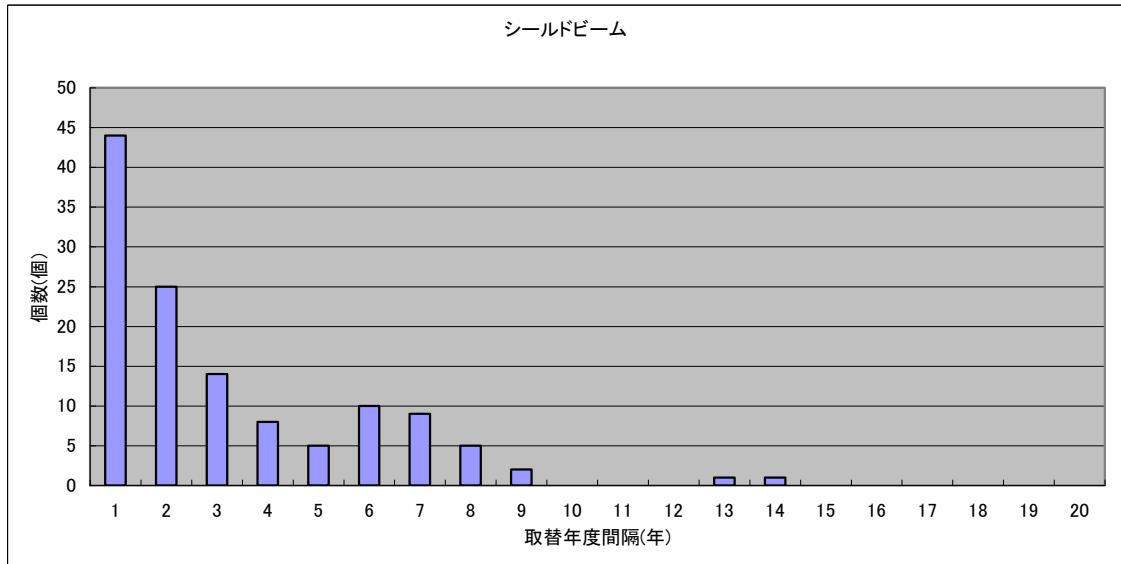


図 3-2-7-13 シールドビームの取替年度間隔

vii. 赤色回転灯

赤色回転灯は、1年～2年で交換しています。また、赤色回転灯は緊急時を知らせることを目的とし、道路を照らす役割とは異なります。

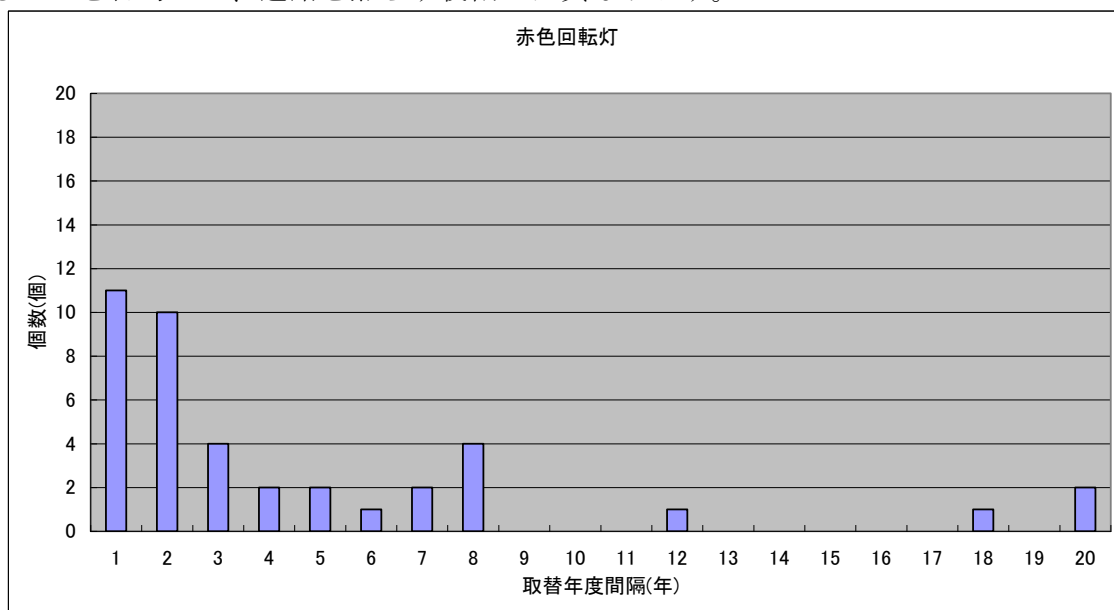


図 3-2-7-14 赤色回転灯の取替年度間隔

viii. 自動点滅器

自動点滅器は、3年～6年で交換しています。

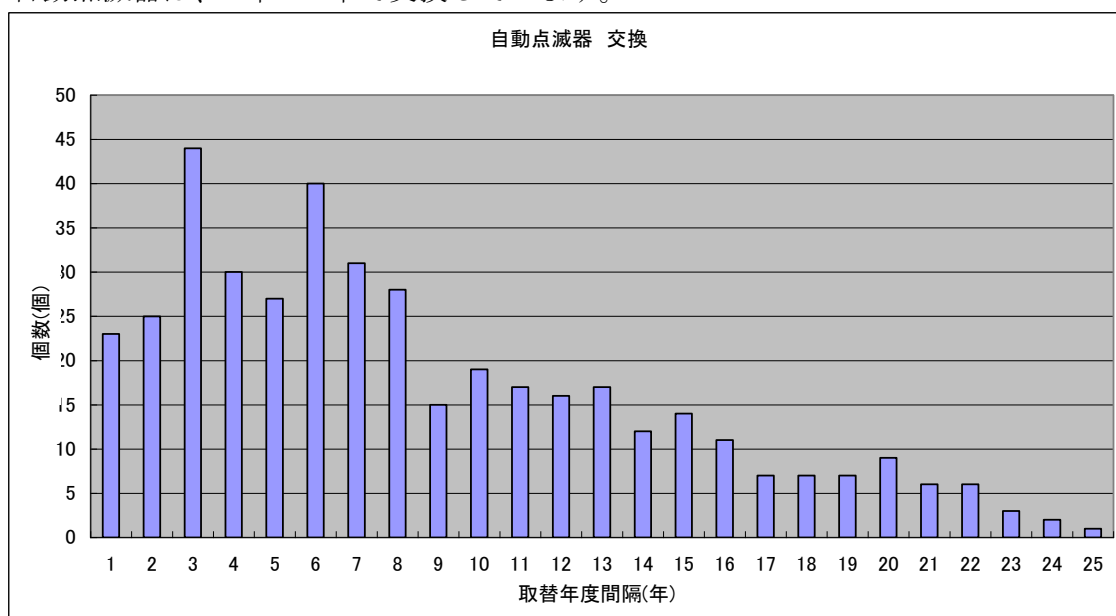


図 3-2-7-15 自動点滅器の取替年度間隔

3.2.7.4. 地域別集計

(1) 第1地域

第1地域の灯種形式は、「共架電柱」が2,152基(75%)を占めています。また、共架形式の中では、「鉄柱」が最も多く、144基で共架形式全体の6%を占めています。

表 3-2-7-6 第1地域の灯柱形式の内訳

地域区分	灯種形式	合計	コンクリート柱 (基)	鉄柱(基)	木柱(基)	不明(基)
第1地域	共架柱	2,152	90	144	28	1,890
	独立柱	703	2	80	0	621
	合計	2,855	92	224	28	2,511

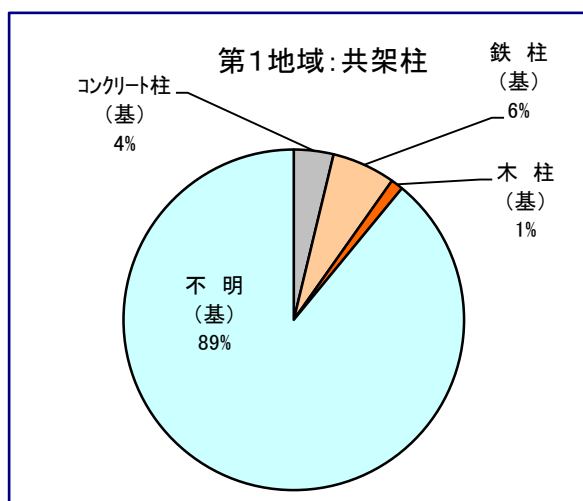


図 3-2-7-17 灯柱形式 (第1地域: 共架柱)

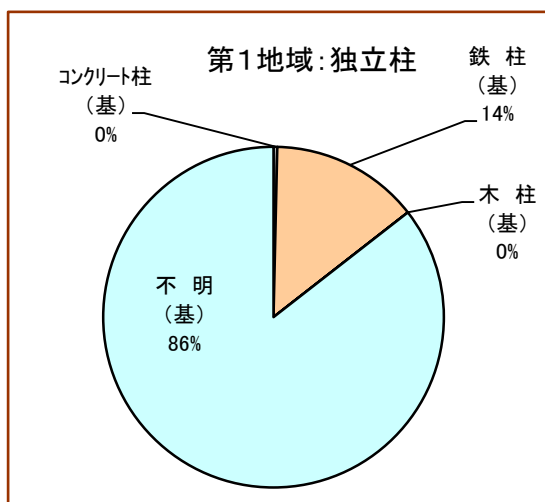


図 3-2-7-18 灯柱形式 (第1地域: 独立柱)

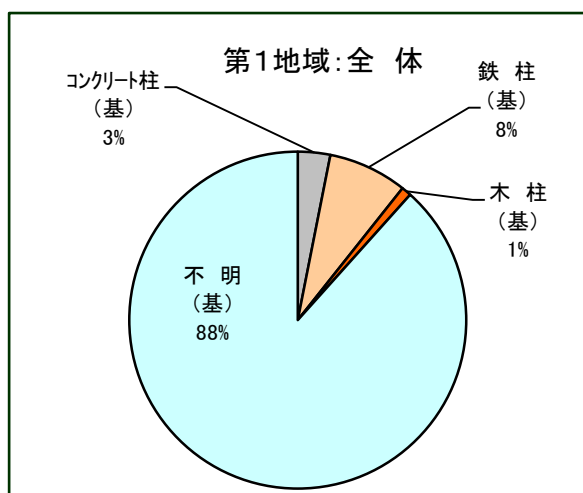


図 3-2-7-19 灯柱形式 (第1地域: 全体)

(2) 第2地域

第2地域の灯種形式は、「共架電柱」が2,211基(76%)を占めています。また、共架形式の中では、「鉄柱」が最も多く、228基で共架形式全体の10%を占めています。

表 3-2-7-7 第2地域の灯柱形式の内訳

地域区分	灯種形式	合計	コンクリート柱 (基)	鉄柱(基)	木柱(基)	不明(基)
第2地域	共架柱	2,211	106	228	27	1,850
	独立柱	688	0	30	0	658
	合計	2,899	106	258	27	2,508

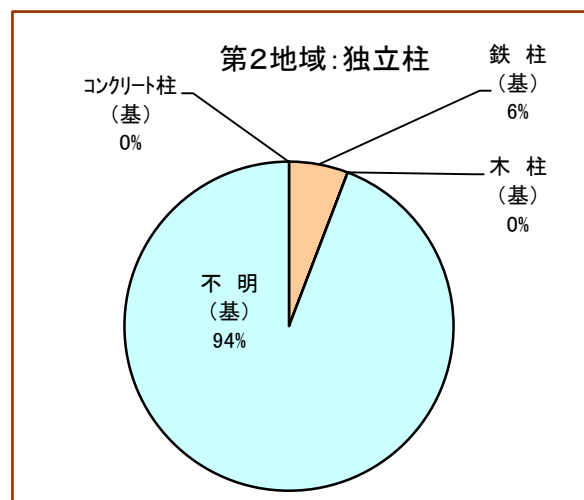
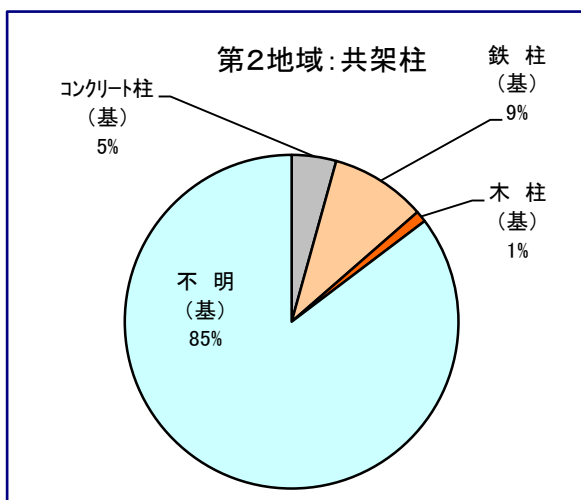


図 3-2-7-20 灯柱形式 (第2地域: 共架柱) 図 3-2-7-21 灯柱形式 (第2地域: 独立柱)

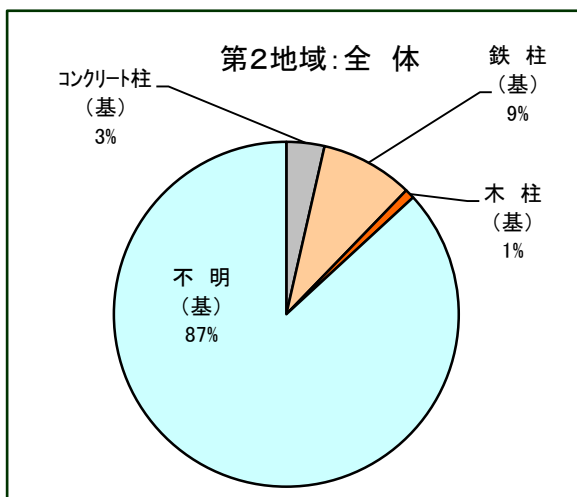


図 3-2-7-22 灯柱形式 (第2地域: 全体)

(3) 第3地域

第3地域の灯種形式は、「共架電柱」が1,933基(76%)を占めています。また、共架形式の中では、「鉄柱」が最も多く、176基で共架形式全体の9%を占めています。

表 3-2-7-8 第3地域の灯柱形式の内訳

地域区分	灯種形式	合計	コンクリート柱 (基)	鉄柱(基)	木柱(基)	不明(基)
第3地域	共架柱	1,933	144	176	67	1,546
	独立柱	597	1	20	0	576
	合計	2,530	145	196	67	2,122

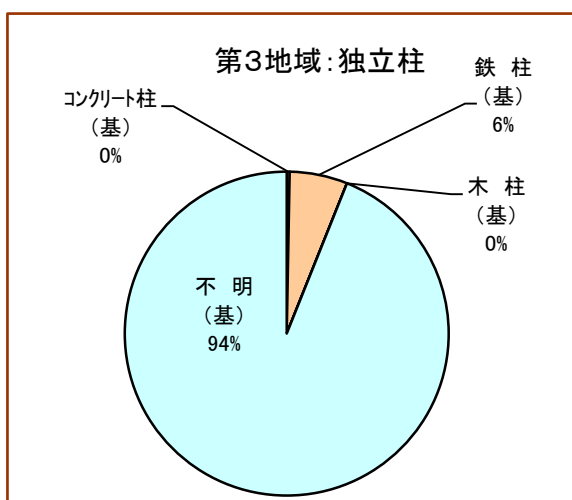
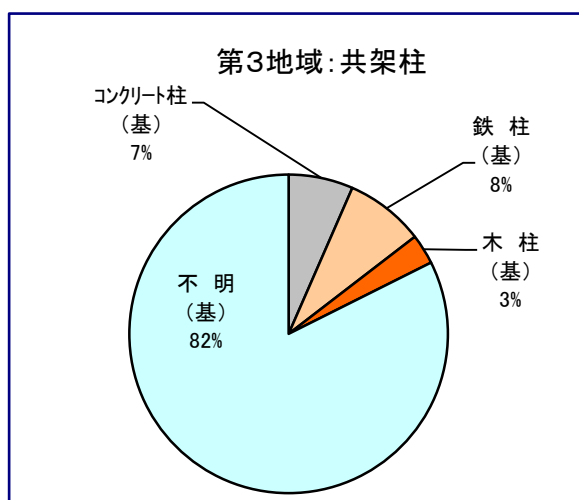


図 3-2-7-23 灯柱形式 (第3地域:共架柱) 図 3-2-7-24 灯柱形式 (第3地域:独立柱)

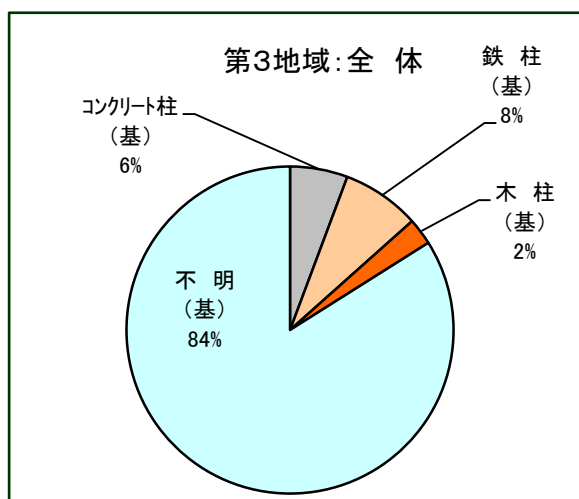


図 3-2-7-25 灯柱形式 (第3地域:全体)

(4) 第4地域

第4地域の灯種形式は、「共架電柱」が1,159基(62%)を占めています。また、共架形式の中では、「鉄柱」が最も多く、117基で共架形式全体の10%を占めています。

表 3-2-7-9 第4地域の灯柱形式の内訳

地域区分	灯種形式	合計	コンクリート柱 (基)	鉄柱(基)	木柱(基)	不明(基)
第4地域	共架柱	1,159	56	117	20	966
	独立柱	725	1	22	0	702
	合計	1,884	57	139	20	1,668

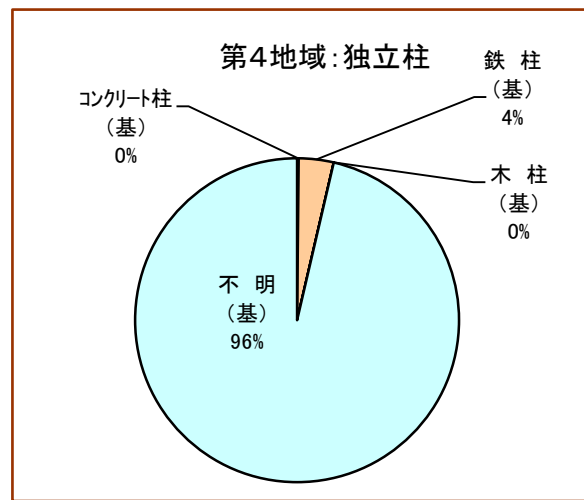
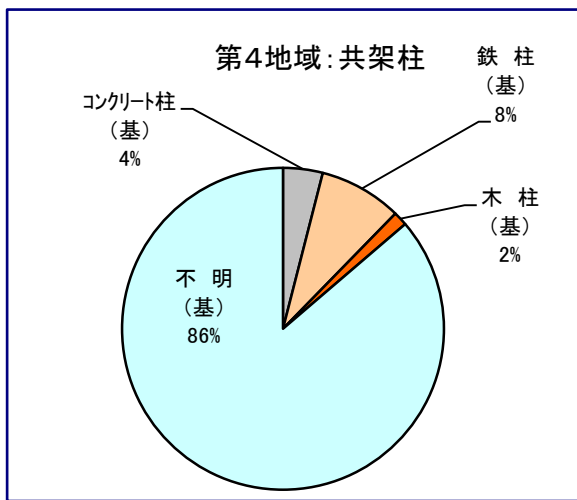


図 3-2-7-26 灯柱形式 (第4地域:共架柱) 図 3-2-7-27 灯柱形式 (第4地域:独立柱)

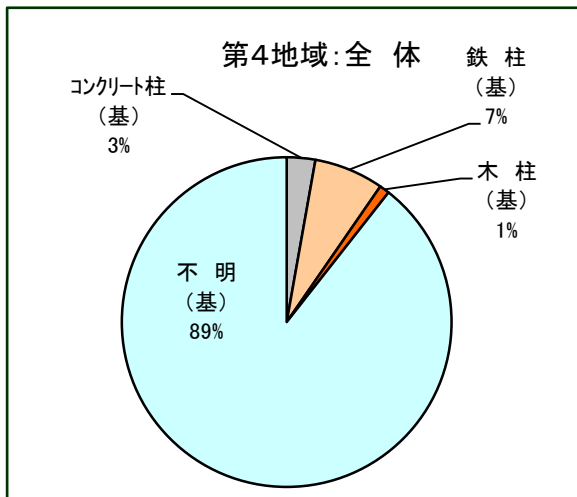


図 3-2-7-28 灯柱形式 (第4地域:全体)

(5) 第5地域

第5地域の灯種形式は、「共架電柱」が983基(81%)を占めています。また、共架形式の中では、「コンクリート柱」が最も多く、99基で共架形式全体の10%を占めています。

表 3-2-7-10 第5地域の灯柱形式の内訳

地域区分	灯種形式	合計	コンクリート柱 (基)	鉄柱(基)	木柱(基)	不明(基)
第5地域	共架柱	983	99	83	34	767
	独立柱	229	0	0	0	229
	合計	1,212	99	83	34	996

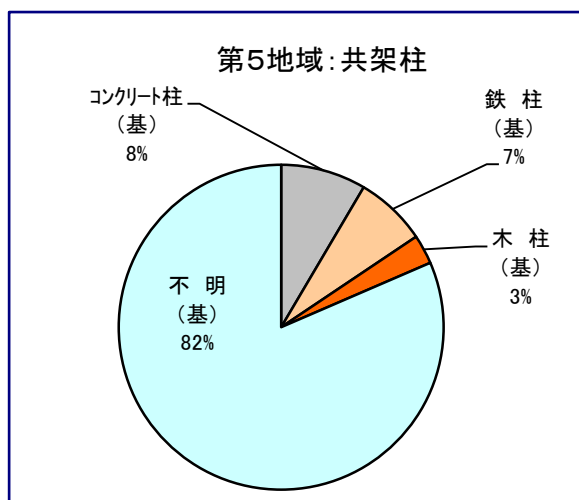


図 3-2-7-29 灯柱形式 (第5地域:共架柱)

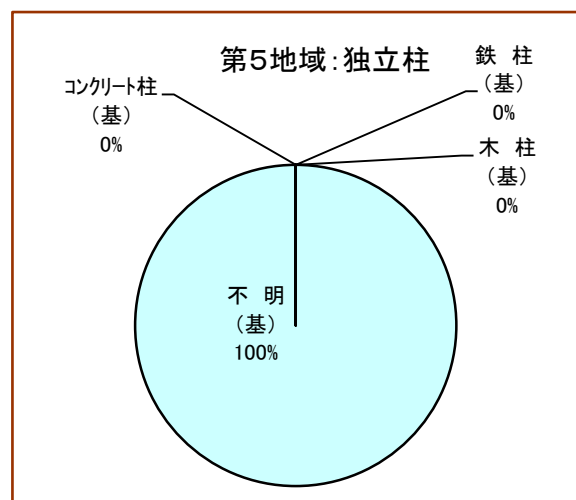


図 3-2-7-30 灯柱形式 (第5地域:独立柱)

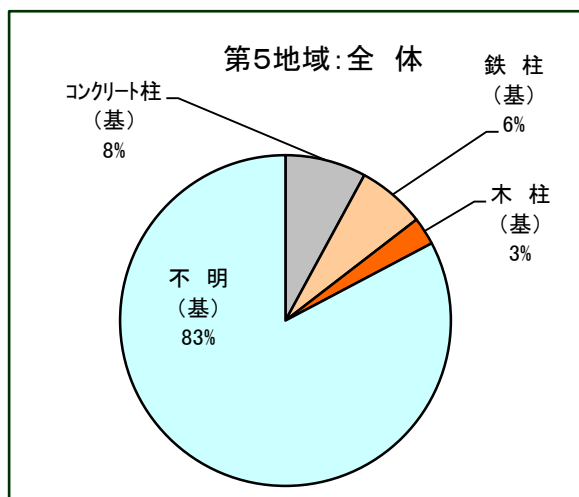


図 3-2-7-31 灯柱形式 (第5地域:全体)

(6) 第6地域

第6地域の灯種形式は、「共架電柱」が1,357基(77%)を占めています。また、共架形式の中では、「鉄柱」が最も多く、91基で共架形式全体の6%を占めています。

表 3-2-7-11 第6地域の灯柱形式の内訳

地域区分	灯種形式	合計	コンクリート柱 (基)	鉄柱(基)	木柱(基)	不明(基)
第6地域	共架柱	1,357	86	91	18	1,162
	独立柱	402	0	15	0	387
	合計	1,759	86	106	18	1,549

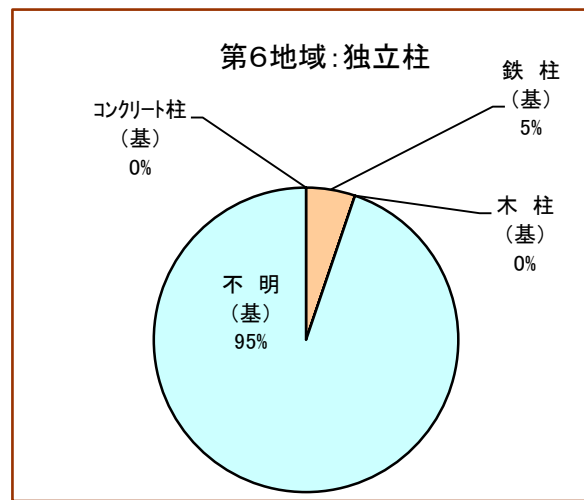
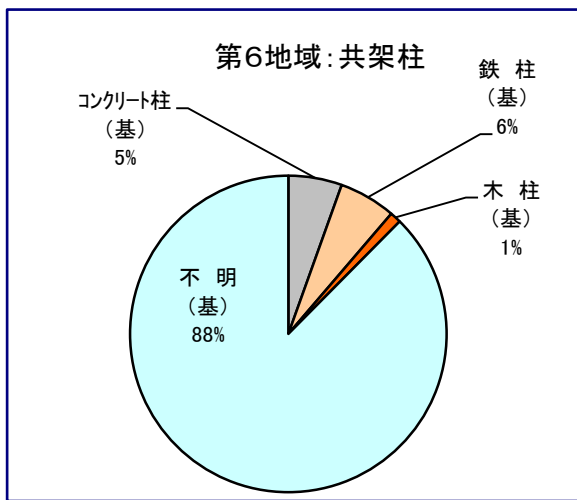


図 3-2-7-32 灯柱形式 (第6地域:共架柱) 図 3-2-7-33 灯柱形式 (第6地域:独立柱)

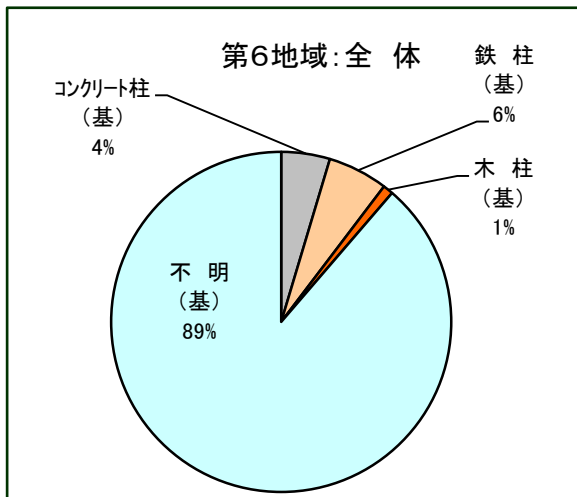


図 3-2-7-34 灯柱形式 (第6地域:全体)

(7) 第7地域

第7地域の灯種形式は、「共架電柱」が1,796基(80%)を占めています。また、共架形式の中では、「コンクリート柱」が多く、112基で共架形式全体の6%を占めています。

表 3-2-7-12 第7地域の灯柱形式の内訳

地域区分	灯種形式	合計	コンクリート柱 (基)	鉄柱(基)	木柱(基)	不明(基)
第7地域	共架柱	1,796	112	104	11	1,569
	独立柱	440	0	7	0	433
	合計	2,236	112	111	11	2,002

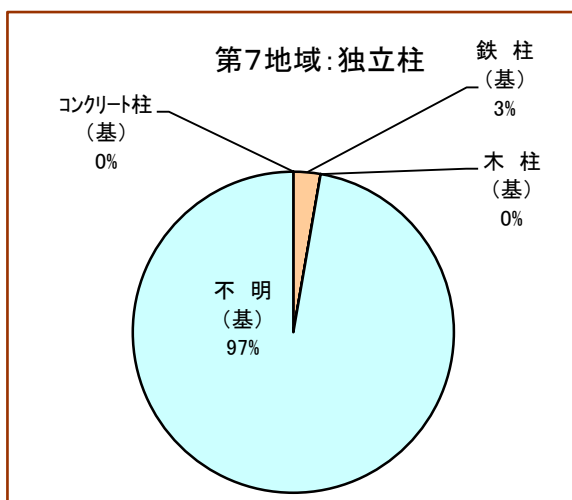
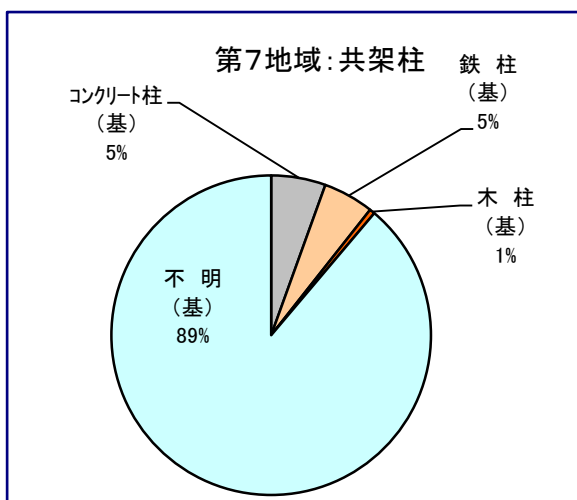


図 3-2-7-35 灯柱形式 (第7地域:共架柱)

図 3-2-7-36 灯柱形式 (第7地域:独立柱)

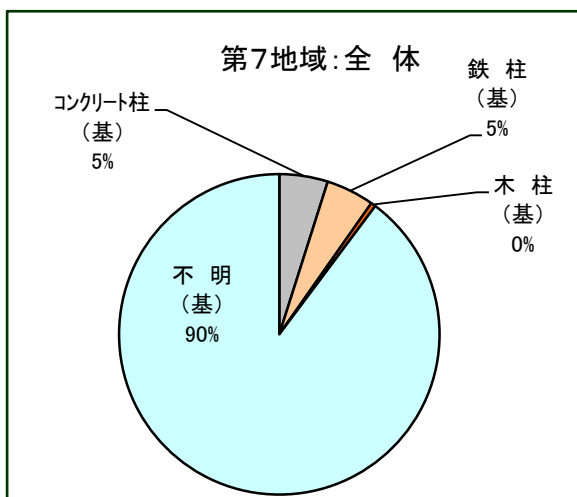


図 3-2-7-37 灯柱形式 (第7地域:全体)

(8) 第8地域

第8地域の灯種形式は、「共架電柱」が1,254基(89%)を占めています。また、共架形式の中では、「鉄柱」が最も多く、72基で共架形式全体の5%を占めています。

表 3-2-7-13 第8地域の灯柱形式の内訳

地域区分	灯種形式	合計	コンクリート柱 (基)	鉄柱(基)	木柱(基)	不明(基)
第8地域	共架柱	1,254	31	72	2	1,149
	独立柱	160	0	7	0	153
	合計	1,414	31	79	2	1,302

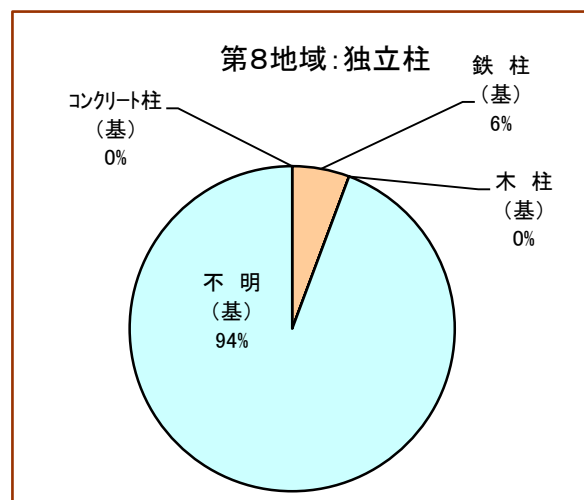
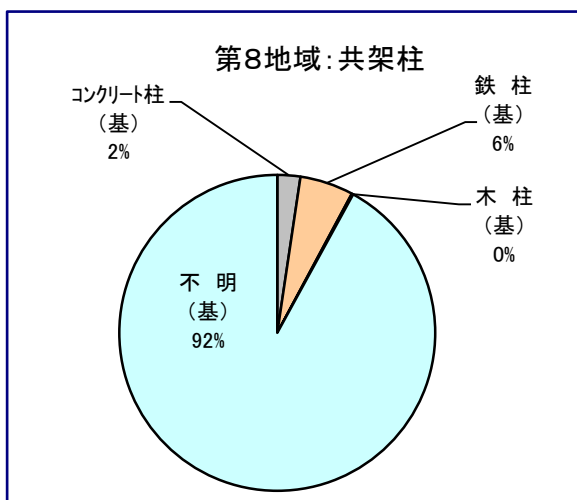


図 3-2-7-38 灯柱形式 (第8地域:共架柱) 図 3-2-7-39 灯柱形式 (第8地域:独立柱)

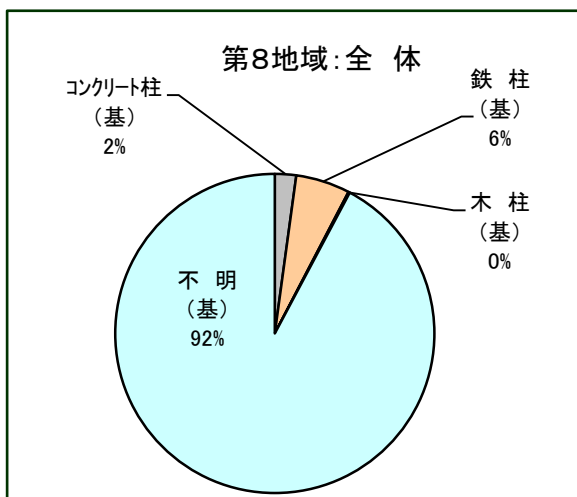


図 3-2-7-40 灯柱形式 (第8地域:全体)

3.2.8. 道路反射鏡

道路反射鏡は、「管理台帳」を基に整理しました。

3.2.8.1. 全体数量

市が管理する道路反射鏡は、3,113 基です。なお、過去 5 年間の年間平均では、17 基の新設（建替えを含む。）、114 基の修理を実施しています。

道路反射鏡は、市が所有している道路反射鏡管理台帳内に記録されています。

表 3-2-8-1 道路反射鏡全体数量

道路反射鏡 の形式	基 数(基)	全体に対する 割合(%)	備 考
独立柱	2,688	86.35%	
共架柱	425	13.65%	
合計	3,113	100.00%	

3.2.8.2. 道路反射鏡位置

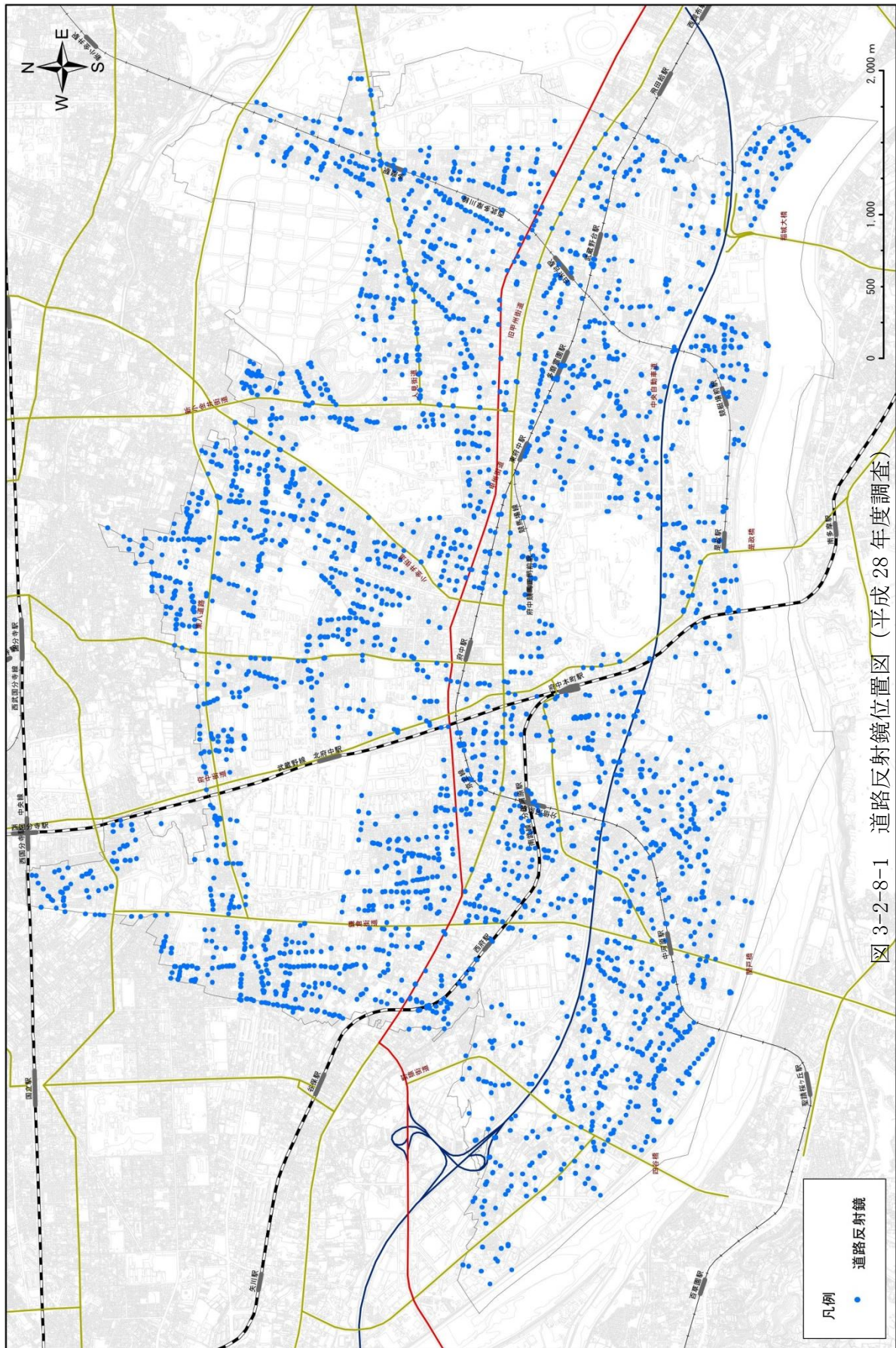


図 3-2-8-1 道路反射鏡位置図 (平成 28 年度調査)

3.2.8.3. 道路反射鏡の整備状況

- 道路反射鏡は年平均 17 基程度新設・建替しています。

表 3-2-8-2 年度別新設個数

年度	個数（建替含む）
平成 23 年度	18
平成 24 年度	21
平成 25 年度	16
平成 26 年度	16
平成 27 年度	13
平均	16.8

- 既存の道路反射鏡については、毎年 500 件 程度点検・清掃を実施しています。主な点検・清掃内容は、次のとおりです。
- 鏡面の清掃
 - 角度調整等の良好な状態に維持する軽作業
 - 不良なものの報告
 - 鏡面枚数の確認
 - 設置位置の確認
- 上記点検で修繕が必要な道路反射鏡について、年平均 114 件程度措置しています。

表 3-2-8-3 年度別修繕措置の内訳

年度	鏡面取替	支柱取替	その他	合計
平成 23 年度	56	11	74	141
平成 24 年度	71	4	84	159
平成 25 年度	53	7	32	92
平成 26 年度	38	10	43	91
平成 27 年度	45	5	39	89
合計	263	37	272	572
平均	53	7	54	114

3.2.8.4. 地域別集計

市で所有している道路反射鏡を地域別に集計し、次の図に示します。

表 3-2-8-4 地域ごとの道路反射鏡基数

地域区分	道路反射鏡（基）	
	独立	共架
第1地域	447	62
第2地域	402	77
第3地域	507	85
第4地域	213	28
第5地域	249	40
第6地域	327	40
第7地域	308	62
第8地域	235	31
全体	2,688	425

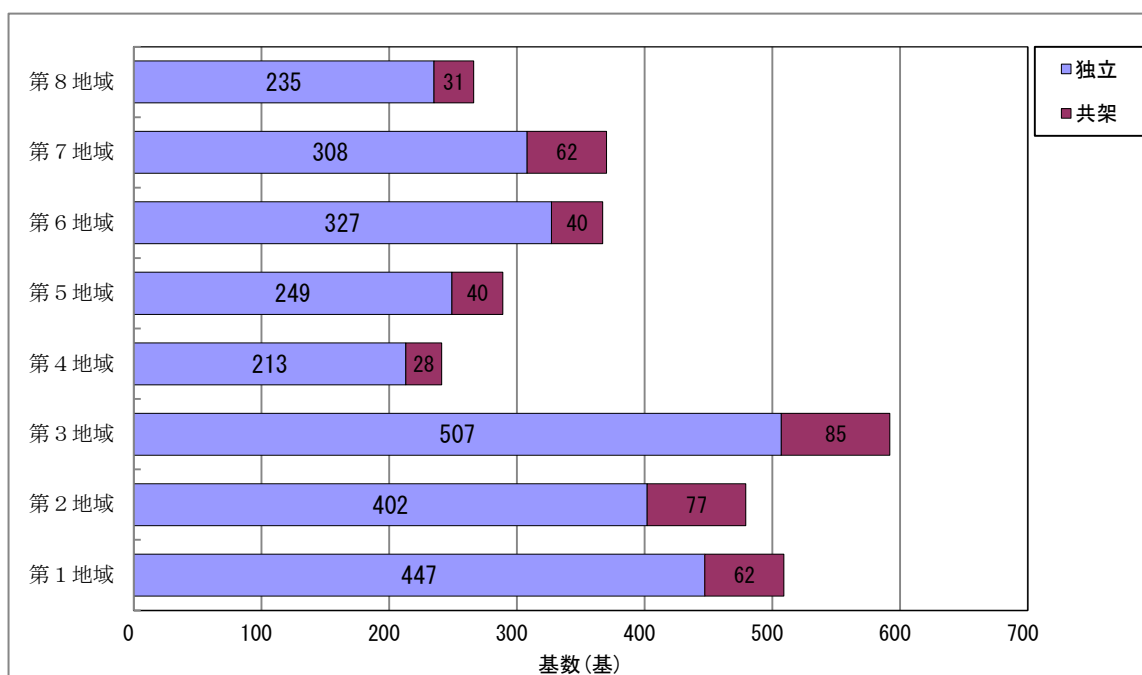


図 3-2-8-2 地域ごとの道路反射鏡基数

3.2.9. 街路樹

街路樹は、平成 27 年度に撮影した航空写真から、高さ、樹冠を調査しました。

3.2.9.1. 全体数量

(1) 高さ

府中市が管理する街路樹は、10,488 本です。このうち、約 65 パーセントは、高さ 4メートル以上 12メートル未満の高木です。

表 3-2-9-1 街路樹の内訳

街路樹の分類	区 分	本 数 (本)	全体に対する割合 (%)
低 木	2m未満	531	5.06%
中 木	2m以上 4m未満	1,783	17.00%
高 木	4m以上 12m未満	6,811	64.94%
高高木	12m以上	1,363	12.99%
合 計		10,488	100.00%

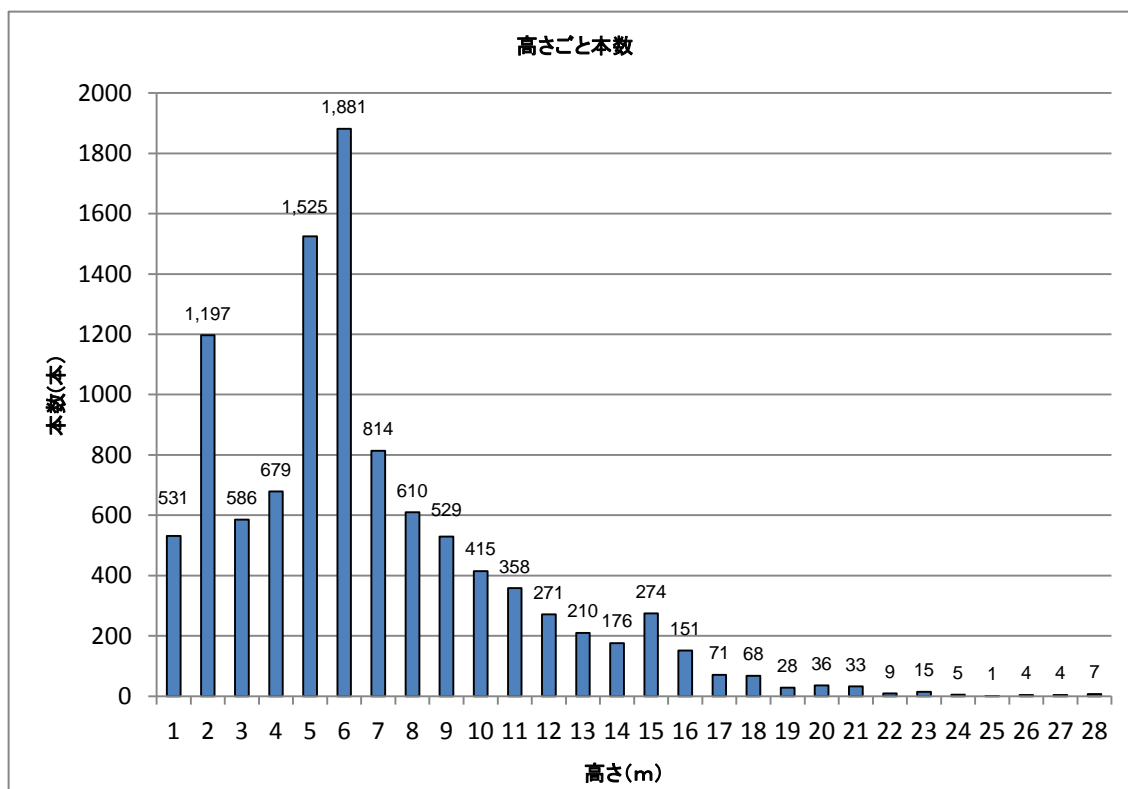


図 3-2-9-1 街路樹の高さ別本数分布図

(2) 樹冠

府中市が管理する街路樹の 78 パーセントが樹冠直径 5メートル程度の街路樹であった。

表 3-2-9-2 街路樹の樹冠内訳

樹冠の分類	区分 (樹冠直径)	本数(本)	全体に対する割合 (%)
小	5m程度	8,144	77.65%
中	10m程度	1,928	18.38%
大	15m程度	416	3.97%
合計		10,488	100.00%

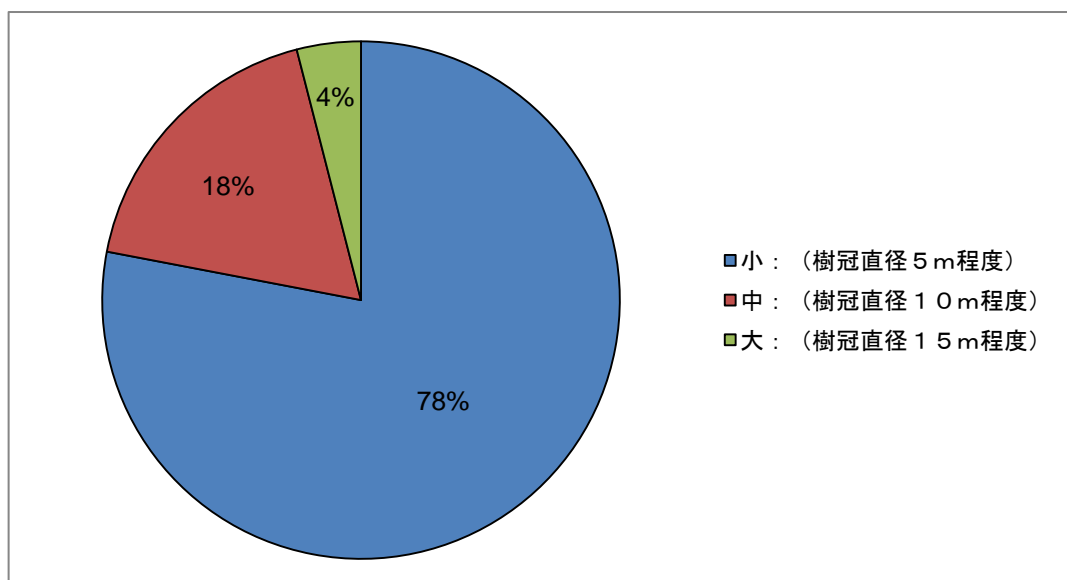


図 3-2-9-2 街路樹の樹冠別割合

3.2.9.2. 街路樹位置

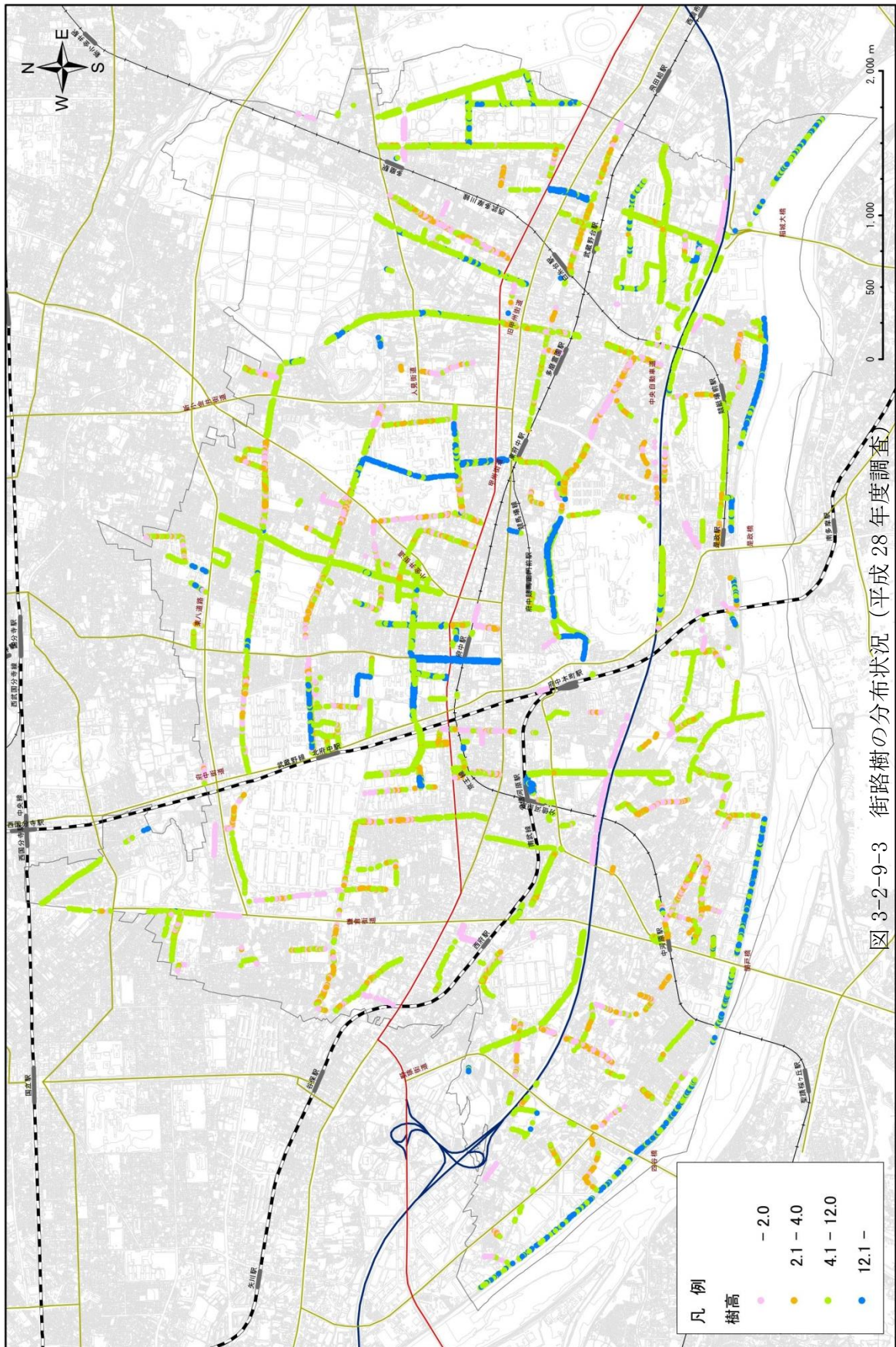


図 3-2-9-3 街路樹の分布状況 (平成 28 年度調査)

3.2.9.3. 街路樹の整備状況

- 市が管理する街路樹の高さは、平均 6.69m です。
- 樹冠（枝振りの範囲）の大きい街路樹が、特定の路線に片寄っている傾向があります。
- 樹高が高い街路樹が 50 本以上ある路線は、「多摩川通り」、「平和通り」、「競馬場通り」、「けやき並木通り」、「美術館通り」、「桜通り」の 6 路線です。

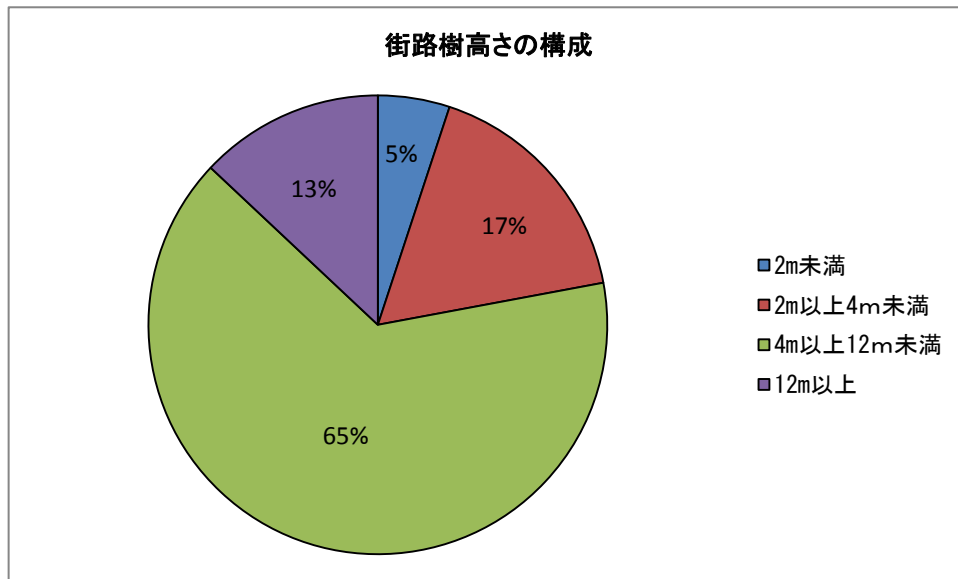


図 3-2-9-4 街路樹高さの構成

3.2.9.4. 地域別集計

(1) 地域別の街路樹本数

街路樹は、「けやき並木通り」、「桜通り」、「府中公園通り」、「競馬場通り」、「平和通り」、「多磨霊園南参道」に多く分布しています。地域では、第1地域、第2地域、第3地域と市の東部地域に多い傾向です。

表 3-2-9-3 地域別の高さごと街路樹本数

分類	低木 (本)	中木 (本)	高木 (本)	高高木 (本)	合計 (本)
区分	2m未満	2m以上 4m未満	4m以上 12m未満	12m以上	
第1地域	70	256	1,364	193	1,883
第2地域	135	272	1,360	278	2,045
第3地域	41	372	1,159	192	1,764
第4地域	70	149	697	350	1,266
第5地域	31	188	406	5	630
第6地域	60	114	558	48	780
第7地域	121	250	856	133	1,360
第8地域	3	182	411	164	760
全体	531	1,783	6,811	1,363	10,488

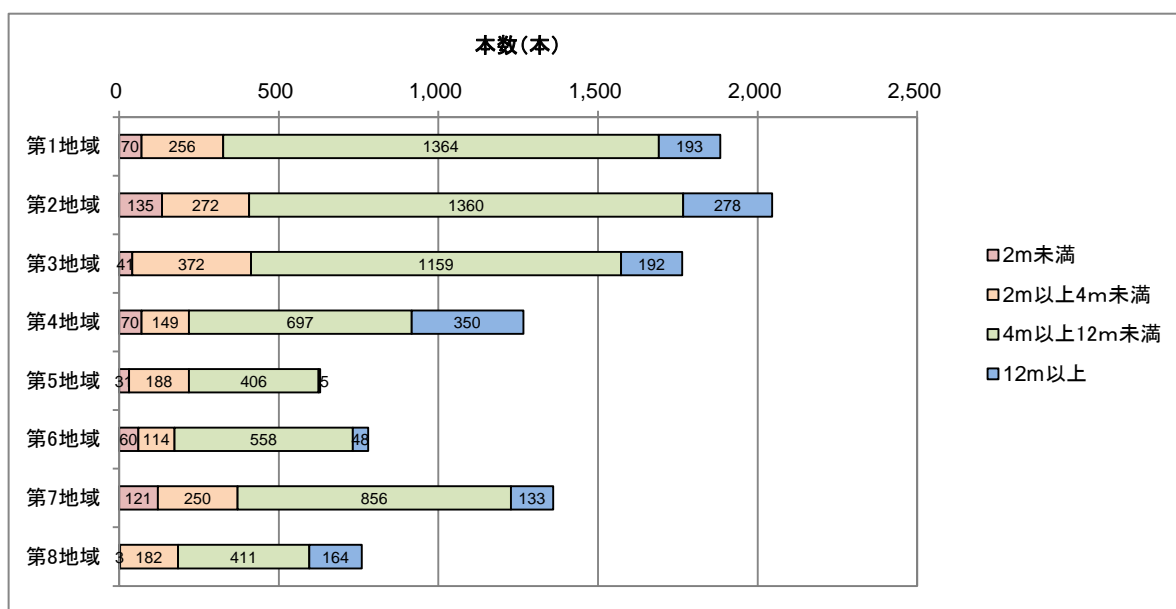


図 3-2-9-5 地域別の高さごと街路樹本数

(2) 路線ごとの街路樹本数

街路樹は、239 路線にあります。街路樹が最も多い路線は、「多摩川通り」(550 本)です。このほかに街路樹が多い市道は、「しみず下通り」(390 本)、「中央道側道」(387 本)、「美術館通り」(363 本)、「競馬場通り」(331 本)、「浅間山通り」(324 本)、「学園通り」(305 本)です。

なお、前回調査から精査して路線の見直しを行った結果、路線数は前回路線数(247 路線)より減少しています。

表 3-2-9-4 路線別の高さごと本数 (1/2)

連番	路線名称	低木 (本)	中木 (本)	高木 (本)	高高木 (本)	総計
		2m未満	2m以上 4m未満	4m以上 12m未満	12m以上	
1	あかしあ通り	1	32	29	1	63
2	あんず通り	0	99	73	0	172
3	いちょう通り	0	0	281	9	290
4	かえで通り	0	1	195	32	228
5	くずのき通り	0	3	202	0	205
6	けやき並木通り	0	0	0	85	85
7	しみず下通り	50	79	257	4	390
8	すずかけ通り-1	1	10	108	0	119
8	すずかけ通り-2	0	2	27	0	29
9	スタジアム通り	0	0	214	3	217
10	ふるさと通り	0	12	126	0	138
11	押立通り	0	1	3	1	5
12	横街道	0	14	47	0	61
13	下河原通り	0	30	31	0	61
14	学園通り	0	93	203	9	305
15	宮町中央通り	0	0	0	2	2
16	京所道	0	2	8	0	10
17	競艇場通り	0	14	98	0	112
18	競馬場正門通り	0	0	11	0	11
19	競馬場通り	11	6	192	122	331
20	九中通り	1	36	107	0	144
21	御狐場道	5	3	81	0	89
22	桜通り	0	1	126	58	185
23	三本木通り	0	17	68	0	85
24	七小通り	0	17	25	0	42
25	芝間通り	0	9	12	0	21
26	十中通り	0	14	56	0	70
27	新宿仲通り	0	26	11	0	37
28	是政通り	0	1	11	0	12
29	西府駅前通り	18	0	0	0	18
30	浅間山通り	0	1	293	30	324
31	多摩川通り	1	4	116	429	550
32	多磨駅東通り	43	0	1	1	45
33	多磨町通り	0	0	4	0	4
34	多磨雲園南参道	0	0	155	28	183
35	中央道側道	85	43	248	11	387
36	朝日町通り	7	22	203	1	233
37	東郷寺通り	0	1	13	0	14
38	東大山道	0	1	24	0	25
39	奈良橋通り	0	1	69	0	70
40	南通り	0	3	17	0	20
41	日新四谷通り	3	70	19	0	92
42	日新通り	0	59	61	0	120
43	白糸台通り	0	8	131	38	177
44	番場北裏通り	9	0	1	0	10
45	美好町通り	0	30	72	0	102
46	美術館通り	1	114	188	60	363
47	品川街道	1	63	101	0	165
48	富士見通り	0	66	132	1	199
49	府中駅前通り	0	0	3	0	3
50	府中公園通り	0	0	63	26	89
51	武蔵台通り	30	0	0	0	30
52	分梅通り	0	0	45	0	45
53	平和通り	0	0	31	142	173
54	本宿小通り	1	46	25	0	72
55	本宿南裏通り	16	0	18	0	34
56	六中通り	4	0	46	0	50

連番	路線名称	低木 (本)	中木 (本)	高木 (本)	高高木 (本)	総計
		2m未満	2m以上 4m未満	4m以上 12m未満	12m以上	
57	1-102	0	13	5	0	18
58	1-12	0	25	3	0	28
59	1-139	6	0	0	0	6
60	1-20	0	0	8	14	22
61	1-300	0	1	15	0	16
62	1-302	0	0	56	17	73
63	1-303	8	0	0	0	8
64	1-307	0	0	125	29	154
65	1-330	0	0	7	0	7
66	1-349	0	3	0	0	3
67	1-354	0	0	30	0	30
68	1-355	0	0	29	11	40
69	1-357	0	0	1	0	1
70	1-392	24	4	8	0	36
71	1-410	0	0	1	0	1
72	1-67	0	0	3	1	4
73	1-90	0	0	13	0	13
74	1-96	0	9	10	0	19
75	2-119	0	1	0	0	1
76	2-130	0	2	5	0	7
77	2-145	0	3	3	0	6
78	2-148	0	0	16	0	16
79	2-149	0	0	22	0	22
80	2-160	0	32	42	0	74
81	2-174	0	7	1	1	9
82	2-179	0	0	0	1	1
83	2-189	0	2	15	0	17
84	2-206	0	0	1	0	1
85	2-208	0	3	11	0	14
86	2-227	2	2	15	16	35
87	2-230	0	0	5	1	6
88	2-231	0	12	8	0	20
89	2-234	0	0	32	0	32
90	2-243	38	1	0	0	39
91	2-250	0	1	1	0	2
92	2-279	0	0	17	5	22
93	2-280	0	0	41	3	44
94	2-281	0	0	8	17	25
95	2-288	0	0	10	0	10
96	2-302	0	6	2	0	8
97	2-311	0	0	1	0	1
98	2-312	0	0	3	3	6
99	2-317	0	0	9	0	9
100	2-318	0	2	2	0	4
101	2-319	0	0	2	0	2
102	2-59	0	8	3	0	11
103	2-74	0	5	12	0	17
104	2-93	0	0	27	0	27
105	3-100	14	23	1	0	38
106	3-131	0	9	2	0	11
107	3-133	0	1	13	5	19
108	3-134	0	1	19	6	26
109	3-144	0	0	3	3	6
110	3-148	0	1	17	2	20
111	3-15	0	0	0	18	18
112	3-150	0	2	3	0	5
113	3-17	0	10	22	0	32
114	3-172	0	9	16	0	25
115	3-173	0	7	20	0	27
116	3-187	0	8	25	0	33
117	3-188	0	0	19	0	19
118	3-2	0	0	18	25	43
119	3-211	0	0	1	0	1
120	3-25	0	0	4	0	4
121	3-255	0	0	12	0	12
122	3-257	0	0	26	0	26
123	3-284	0	0	5	0	5
124	3-285	0	0	3	0	3
125	3-286	0	3	9	0	12
126	3-288	0	0	35	2	37
127	3-29	0	5	10	3	18

表 3-2-9-4 路線別の高さごと本数 (2/2)

連番	路線名称	低木 (本)	中木 (本)	高木 (本)	高高木 (本)	総計
		2m未満	2m以上 4m未満	4m以上 12m未満	12m以上	
128	3-4	0	0	14	3	17
129	3-405	0	30	18	0	48
130	3-427	1	5	5	0	11
131	3-430	1	5	34	0	40
132	3-431	0	0	12	0	12
133	3-432	0	3	33	0	36
134	3-445	0	0	8	1	9
135	3-446	0	0	11	0	11
136	3-451	0	0	3	0	3
137	3-58	1	3	15	0	19
138	3-79	0	4	3	0	7
139	3-83	0	0	4	0	4
140	3-94	0	32	79	19	130
141	3-95	0	4	28	0	32
142	4-112	0	0	1	5	6
143	4-117	0	9	9	0	18
144	4-121	0	0	13	11	24
145	4-124	6	0	0	0	6
146	4-132	1	0	3	0	4
147	4-154	0	3	10	0	13
148	4-159	0	0	4	0	4
149	4-162	0	0	4	0	4
150	4-186	3	0	11	2	16
151	4-202	15	1	49	0	65
152	4-207	0	2	11	0	13
153	4-21	0	0	2	0	2
154	4-213	0	0	11	0	11
155	4-22	0	5	16	2	23
156	4-228	0	16	28	0	44
157	4-229	0	3	2	0	5
158	4-23	0	0	7	0	7
159	4-24	0	1	15	0	16
160	4-245	0	22	3	0	25
161	4-25	0	5	2	0	7
162	4-251	0	0	26	0	26
163	4-258	0	62	20	1	83
164	4-267	0	6	7	1	14
165	4-272	0	8	0	0	8
166	4-280	0	2	1	0	3
167	4-281	3	0	1	0	4
168	4-284	0	0	2	0	2
169	4-288	0	0	4	0	4
170	4-318	29	2	0	0	31
171	4-320	0	1	23	0	24
172	4-325	0	6	17	0	23
173	4-338	0	11	4	0	15
174	4-343	0	3	17	2	22
175	4-345	0	0	13	6	19
176	4-352	0	3	11	0	14
177	4-354	0	0	4	7	11
178	4-36	25	0	2	2	29
179	4-38	0	0	3	0	3
180	4-383	0	2	13	0	15
181	4-384	0	0	17	0	17
182	4-388	16	2	2	0	20
183	4-390	0	5	6	0	11
184	4-392	0	0	9	0	9
185	4-393	3	0	0	0	3
186	4-394	0	1	5	0	6
187	4-398	0	0	5	0	5

連番	路線名称	低木 (本)	中木 (本)	高木 (本)	高高木 (本)	総計
		2m未満	2m以上 4m未満	4m以上 12m未満	12m以上	
188	4-41	0	5	4	0	9
189	4-424	0	7	3	0	10
190	4-443	1	1	33	0	35
191	4-474	0	0	3	0	3
192	4-482	0	13	0	0	13
193	4-66	8	6	3	0	17
194	4-67	0	10	3	0	13
195	4-74	0	13	11	0	24
196	4-90	4	5	6	0	15
197	4-95	8	0	0	0	8
198	5-101	0	2	3	0	5
199	5-103	0	0	1	0	1
200	5-131	0	44	59	2	105
201	5-136	0	15	86	0	101
202	5-141	0	3	17	0	20
203	5-167	0	1	6	3	10
204	5-188	0	4	22	0	26
205	5-200	0	2	4	0	6
206	5-201	0	13	13	0	26
207	5-228	0	0	16	13	29
208	5-231	0	5	1	0	6
209	5-4	8	1	10	0	19
210	5-48	0	0	13	0	13
211	5-50	0	2	9	0	11
212	5-80	16	0	0	0	16
213	5-93	0	4	2	0	6
214	6-136	0	8	3	0	11
215	6-140	0	11	7	0	18
216	6-165	2	0	0	0	2
217	6-195	0	2	7	0	9
218	6-203	0	2	11	0	13
219	6-217	0	7	8	0	15
220	6-218	0	12	25	0	37
221	6-229	0	0	19	0	19
222	6-235	0	1	3	0	4
223	6-246	0	0	3	0	3
224	6-258	0	1	4	0	5
225	6-263	0	3	12	0	15
226	6-264	0	0	14	0	14
227	6-265	0	0	15	3	18
228	6-27	0	2	2	0	4
229	6-279	0	2	6	0	8
230	6-281	0	2	9	0	11
231	6-294	0	0	9	0	9
232	6-31	0	0	2	0	2
233	6-319	0	6	5	0	11
234	6-320	0	0	24	1	25
235	6-325	0	15	6	0	21
236	6-326	0	10	3	0	13
237	6-35	0	0	10	0	10
238	6-59	0	1	3	0	4
239	6-62	0	0	1	3	4

3.2.10. 橋りょう

橋りょうは、市が管理する橋りょう台帳及び現地確認、目視点検により現状を確認しました。

3.2.10.1. 全体数量

(1) 橋りょう数

市が管理する橋りょうは、道路橋が21橋、歩道橋が15橋の合計36橋です。

橋りょう数は表3-2-10-1のとおりです。また、市が管理する橋りょう一覧表を表3-2-10-2、表3-2-10-3に示します。

表3-2-10-1 橋りょう数

橋種	橋りょう数	路線数
道路橋	21橋	19路線
歩道橋	15橋	9路線
合計	36橋	28路線

(2) 橋りょうリスト

橋りょう台帳を基に現地を確認した市が管理する橋りょうについて、次のとおり示します。

表 3-2-10-2 市が管理する道路橋

No	橋梁名	路線名	所在地	橋長 (m)	架設年度	橋種
1	鶴代橋	しみず下通り	小柳町 2-45 ~ 小柳町 3-19	213	1990	PC 橋
2	富士見通り立体橋	富士見通り	晴見町 2-24-14	35.4	1973	鋼橋
3	白糸橋 1 号	白糸台通り	白糸台 5-18-2	10.94	1976	RC 橋
4	白糸橋 2 号	白糸台通り	白糸台 5-19-5	10.5	1976	RC 橋
5	白糸橋 3 号	市道 2-221 号	白糸台 5-5-10	15	1976	RC 橋
6	小柳橋	市道 2-107 号	小柳町 1-143	14.7	1984	RC 橋
7	みょうらい橋	市道 4-90 号	本町 2-10-13	16.64	1977	PC 橋
8	中央道側道 1 号	中央道側道	是政 3-64-5	7.5	1965	RC 橋
9	矢崎排水第三号橋	市道 4-280 号	是政 3-47-1	4.7	1962	RC 橋
10	256 号	市道 4-276 号	是政 3-60-4	4.5	1967	RC 橋
11	雑田橋	市道 4-173 号	本町 3-31-34	4.5	1972	RC 橋
12	261 号	市道 6-117 号	住吉町 1-32	2.5	1972	RC 橋
13	262 号	市道 6-121 号	住吉町 4-26	2.4	1965	RC 橋
14	大山橋	大山道	日新町 2-23	5.8	1963	RC 橋
15	相模橋	大山道	日新町 2-39-26	4	1966	RC 橋
16	264 号	市道 6-67 号	日新町 4-40	2.9	1965	RC 橋
17	208 号	東大山道	四谷 4-8-1	3.7	1964	RC 橋
18	265 号	市道 6-263 号	四谷 5-29	2.36	1966	RC 橋
19	火の見橋	市道 6-176 号	四谷 2-64	2.7	1965	RC 橋
20	267 号	三屋通り	四谷 4-53	2.99	1970	RC 橋
21	270 号	市道 6-269 号	日新町 4-46	2.4	1967	RC 橋

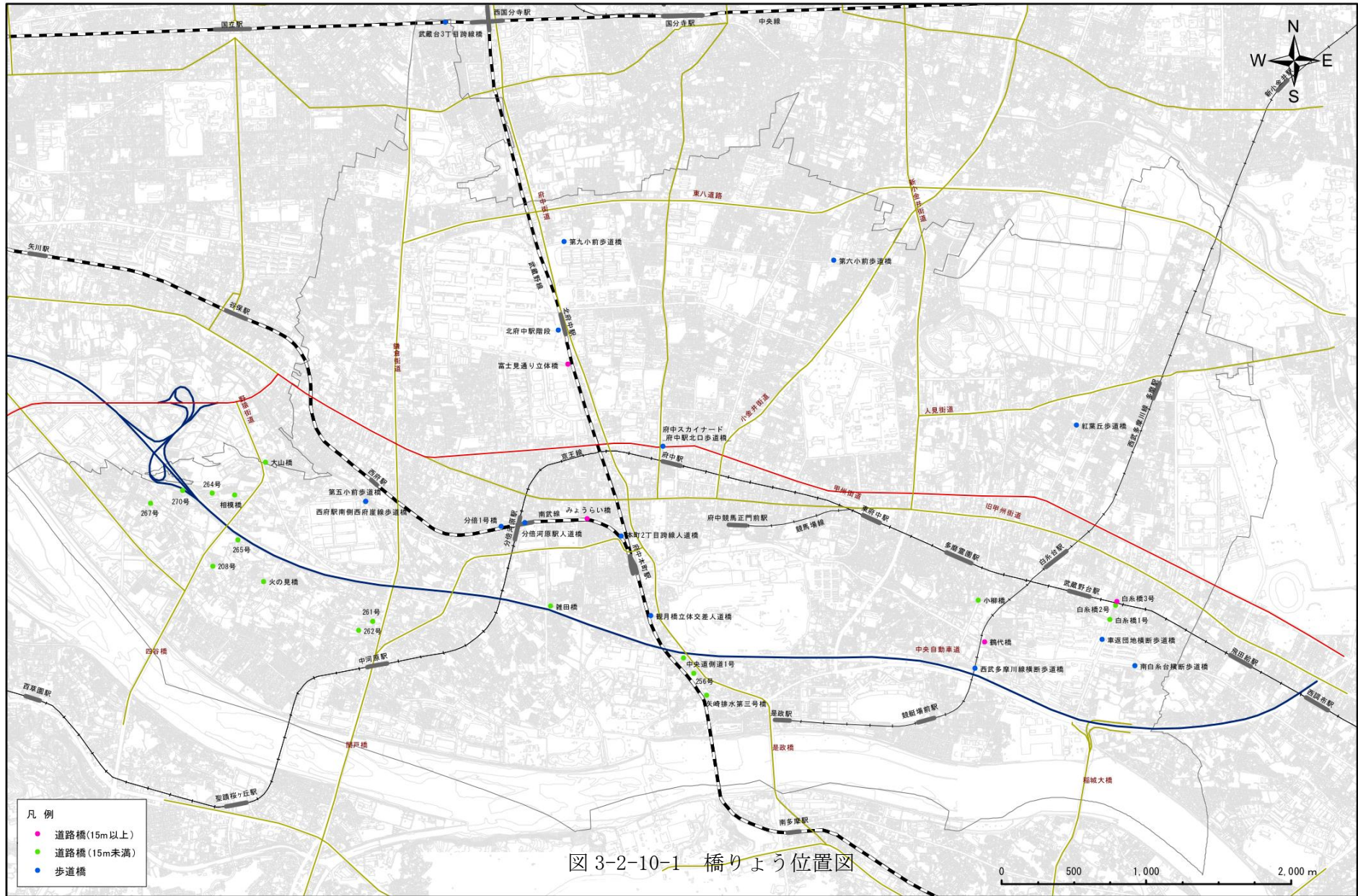
表 3-2-10-3 市が管理する歩道橋

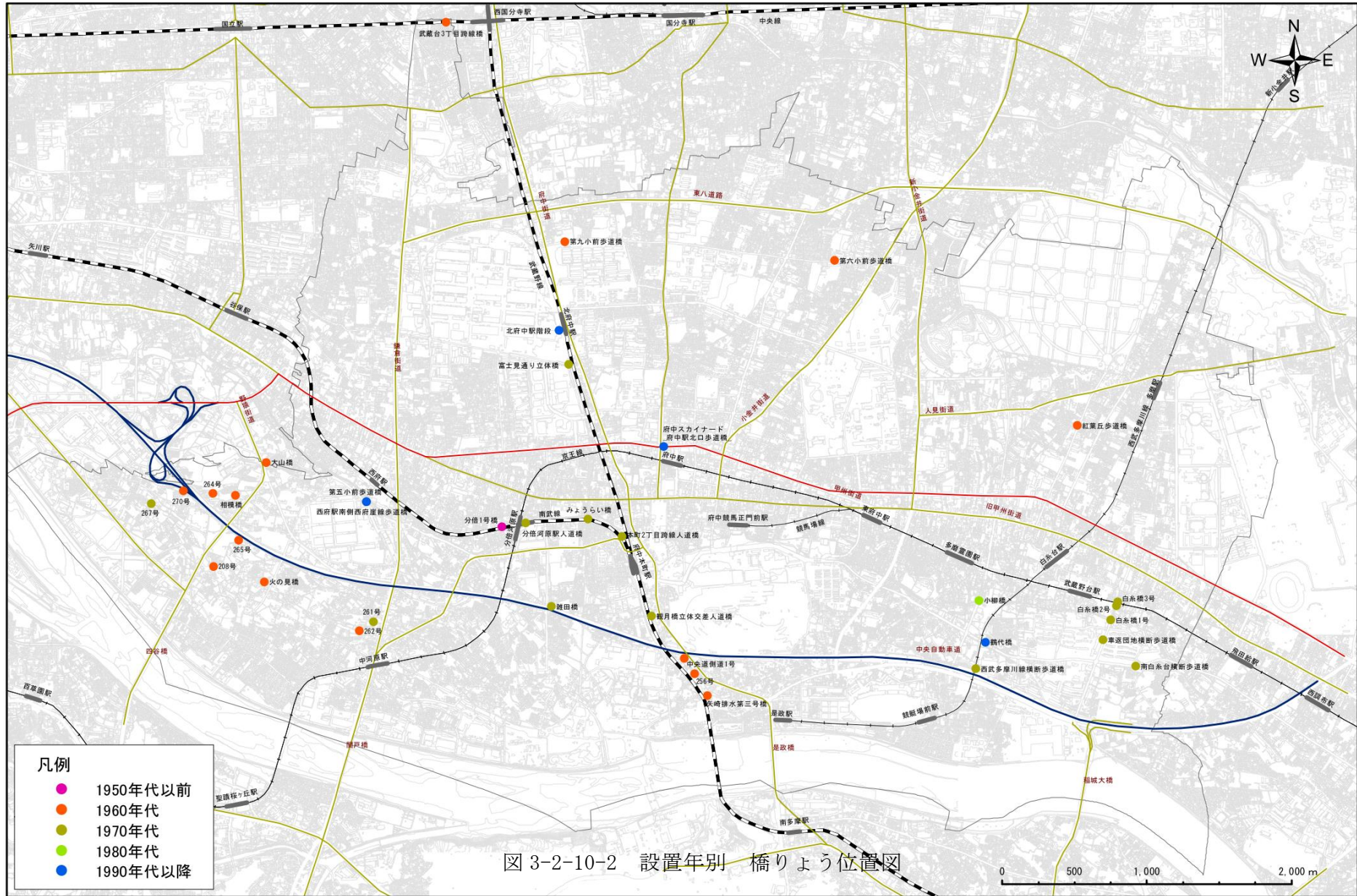
No	橋梁名	路線名	所在地	橋長 (m)	架設年度	橋種
1	分倍 1 号橋	市道 4-158 号	分梅町 1-7	19.53	1929	鋼橋
2	武蔵台 3 丁目跨線橋	市道 5-174 号	武蔵台 3-52-9	30.5	1960	鋼橋
3	第六小前歩道橋	学園通り	天神 4-14	11.4	1968	鋼橋
4	第九小前歩道橋	学園通り	栄町 3-7	12.65	1968	鋼橋
5	紅葉丘歩道橋	多摩霊園南参道	紅葉丘 1-30	10.5	1968	鋼橋
6	第五小前歩道橋	市道 6-441 号	日新町 1-7	32.86	1992	鋼橋
7	西府駅南側西府崖線歩道橋	市道 6-441 号	日新町 1-6	47.77	2010	鋼橋
8	西武多摩川線横断歩道橋	市道 2-130 号	小柳町 2-46	16.6	1973	鋼橋
9	本町 2 丁目跨線人道橋	市道 4-122 号	本町 1-6-1	55.8	1974	鋼橋
10	車返団地横断歩道橋	白糸台通り	白糸台 5-31	31.3	1975	RC 橋
11	南白糸台横断歩道橋	しみず下通り	押立町 2-30	24.47	1975	鋼橋
12	分倍河原駅人道橋	かえで通り	片町 2-38	53.77	1978	鋼橋
13	府中スカイナード (府中駅北口歩道橋)	府中駅前通り (及び国道 20 号)	府中町 1-14	34.5	1994	鋼橋
14	観月橋立体交差人道橋	市道 4-138 号	矢崎町 1-32-2	8.11	1972	RC 橋
15	北府中駅階段	市道 5-281 号	晴見町 2-27	20.4	2014	鋼橋

3.2.10.2. 橋りょう位置

次頁より市が管理する道路橋と歩道橋の位置を、指標ごとに位置図で示します。

- 1) 橋りょう施設 (図 3-2-10-1)
- 2) 設置年別 (図 3-2-10-2)
- 3) 橋種別 (図 3-2-10-3)
- 4) 建設年代と橋長別 (図 3-2-10-4)





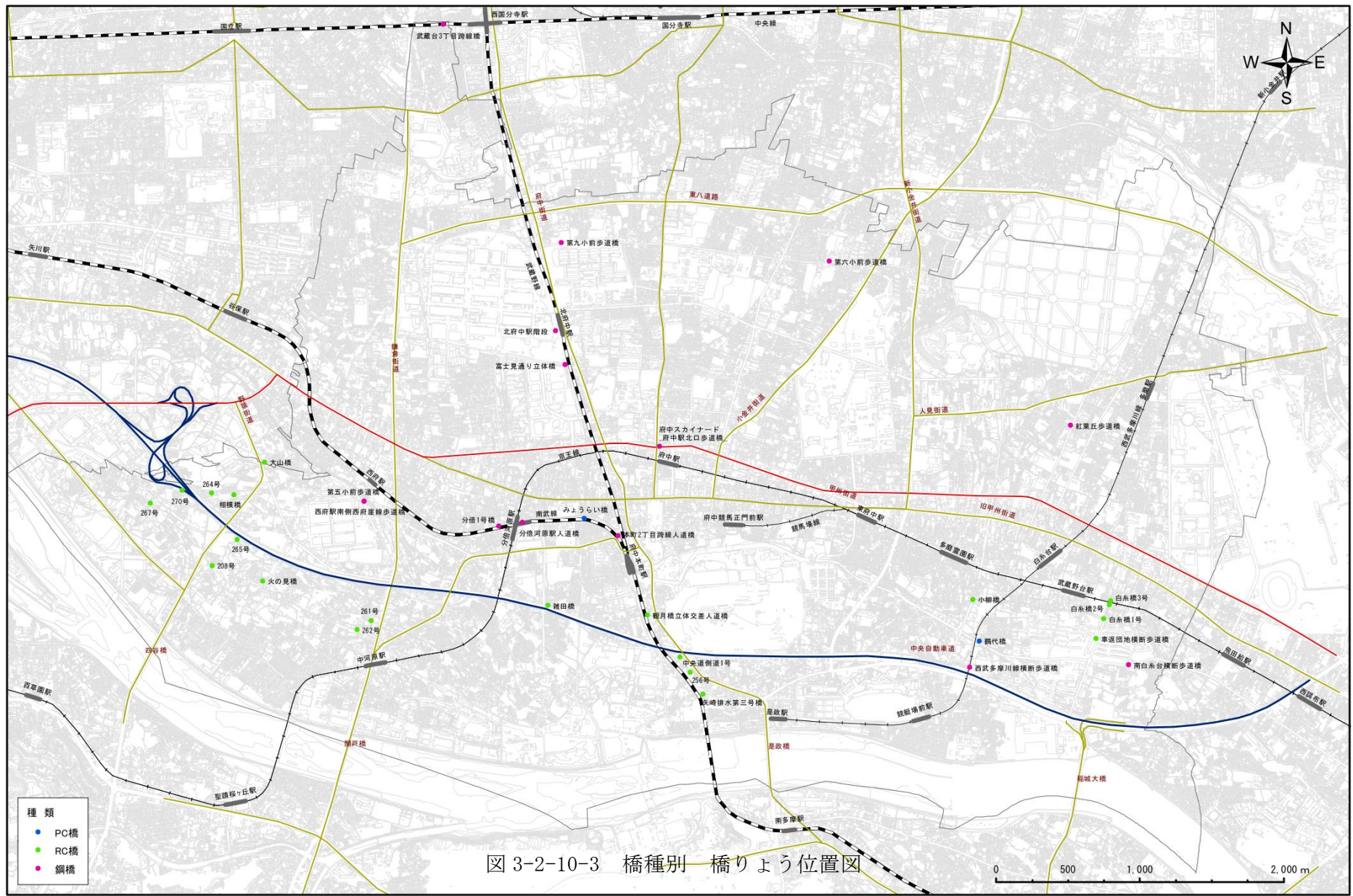


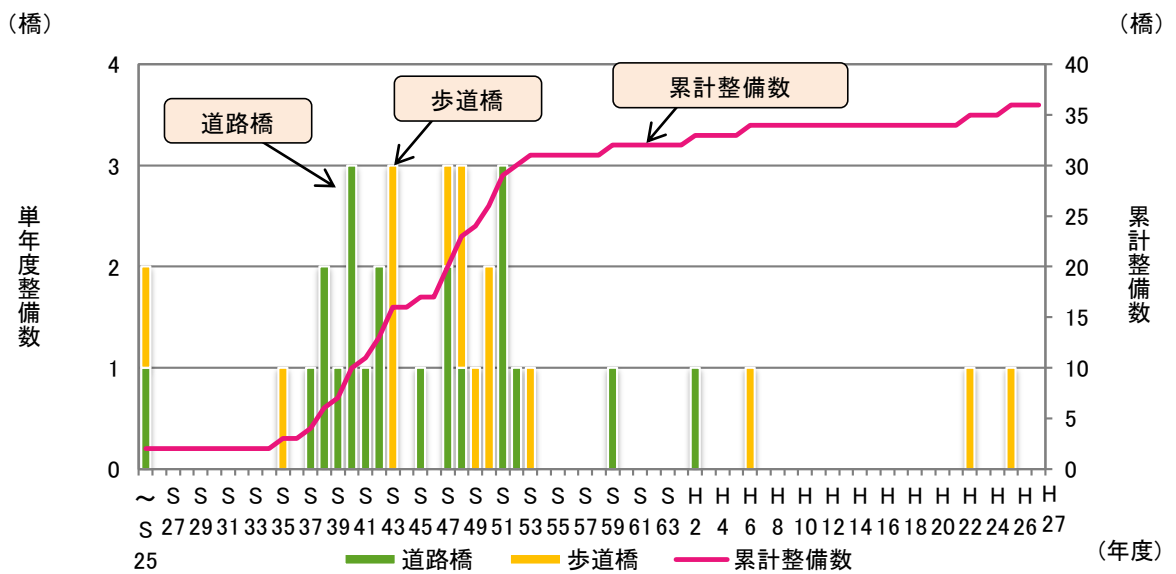
図 3-2-10-3 橋種別一橋りょう位置図



3.2.10.3. 橋りょうの整備状況

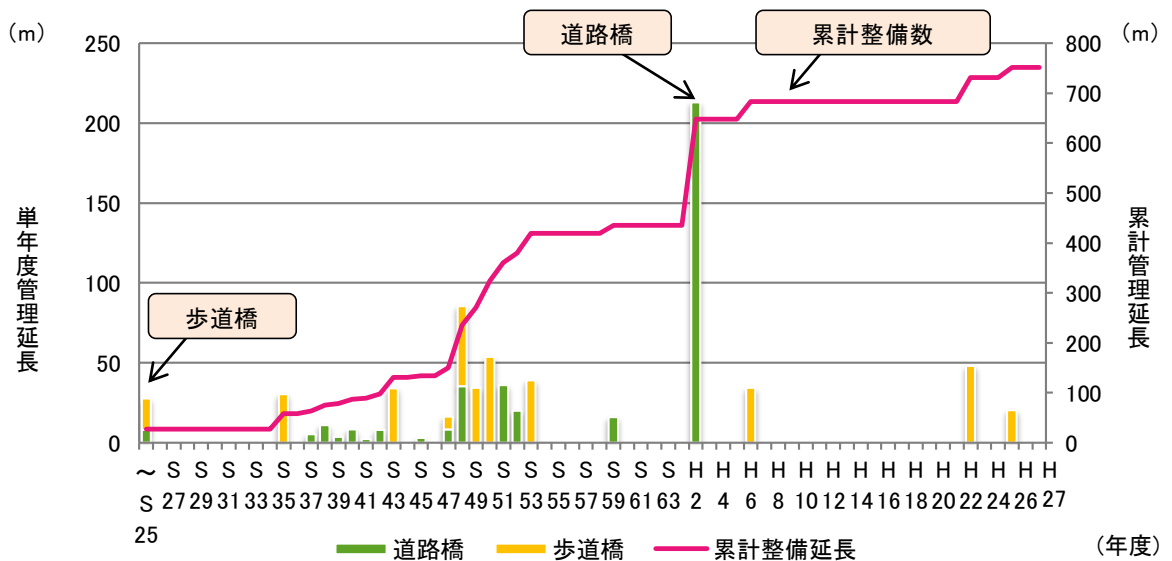
(1) 橋りょう数の推移

府中市が管理する橋りょうは、道路橋が21橋、歩道橋が15橋の合計36橋です。なお、橋りょうの数は、昭和35年度から昭和44年度にかけて急増しており、橋りょうの管理延長は、昭和47年度から昭和54年度にかけて増加しています。これは、建設技術の向上等により、昭和45年度以前に整備された橋りょうに比べ、1橋当たりの規模が大きくなったことによります。



※出典 「府中市公共施設等総合管理計画」より抜粋

図 3-2-10-5 橋りょうの建設年度分布



※出典 「府中市公共施設等総合管理計画」より抜粋

図 3-2-10-6 橋りょうの管理延長の推移

(2) 橋りょうの建設年度

市で管理する橋りょう 36 橋について建設年を 10 年単位で整理した図を示します。平成 28 年度現在、建設から 50 年以上を経過した橋りょうは 36.1% (13 橋) で、国土交通白書で示される全国の平均的割合 (約 20% : 平成 28 年度実績) と比べ多い傾向です。また、40 年以上 49 年以下の橋りょうも 44.4% と高く、今後は耐用年数が近い高齢化橋りょうとして維持していくことになります。

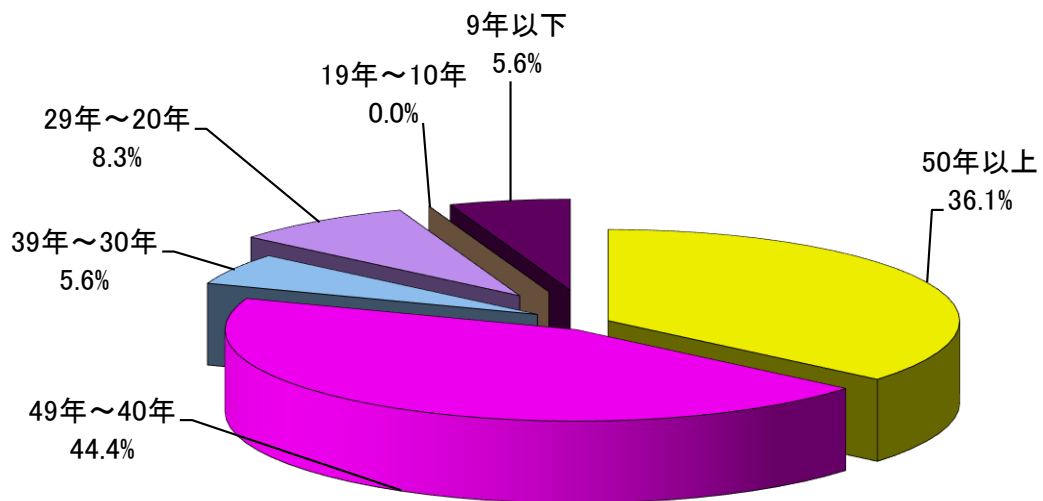


図 3-2-10-7 管理橋りょうの供用年数区分

表 3-2-10-4 府中市の道路橋の供用年数区分内訳 一覧表

供用年数の分類	合 計
供用後 50 年以上が経過している橋りょう (昭和 42 年以前に供用開始)	13 橋 (36.1%)
供用後 49 年～40 年が経過している橋りょう (昭和 52 年以前に供用開始)	16 橋 (44.4%)
供用後 39 年～30 年が経過している橋りょう (昭和 62 年以前に供用開始)	2 橋 (5.6%)
供用後 29 年～20 年が経過している橋りょう (平成 9 年以前に供用開始)	3 橋 (8.3%)
供用後 19 年～10 年が経過している橋りょう (平成 19 年以前に供用開始)	0 橋 (0.0%)
供用後 9 年以内の橋りょう (平成 20 年以降に供用開始)	2 橋 (5.6%)
合 計	36 橋

橋りょうを今後も供用し続ける条件のもとで将来の推計を行うと、平成 28 年度を基準として建設後 50 年以上と 50 年未満で整理した場合、平成 38 年に 83.3%、平成 68 年に約 94.4%の橋りょうが 50 年以上となります。(図 3-2-10-8)

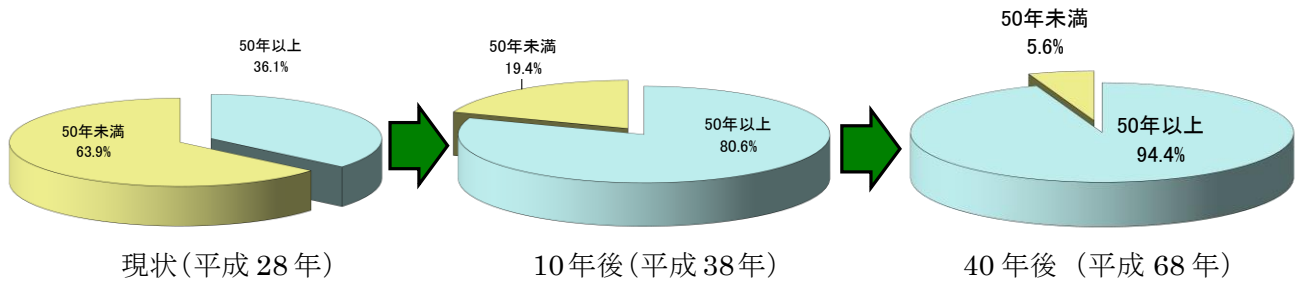


図 3-2-10-8 建設後 50 年以上を経過する道路橋の割合

(3) 橋りょうの種類

市が管理する道路橋の材質を、「橋りょう数単位」と「橋りょう延長単位」で整理します。「橋りょう数単位」で集計すると、RC 橋の占める割合が 55.6%と多い傾向です。また、「橋りょう延長単位」で比較すると、52.1%で鋼橋が多くなります。

なお、市の PC 橋は、鶴代橋とみょうらい橋の二橋です。このことから、小規模橋りょうは RC 橋（現場打ち鉄筋コンクリート橋）や鋼橋としていることが確認できます。

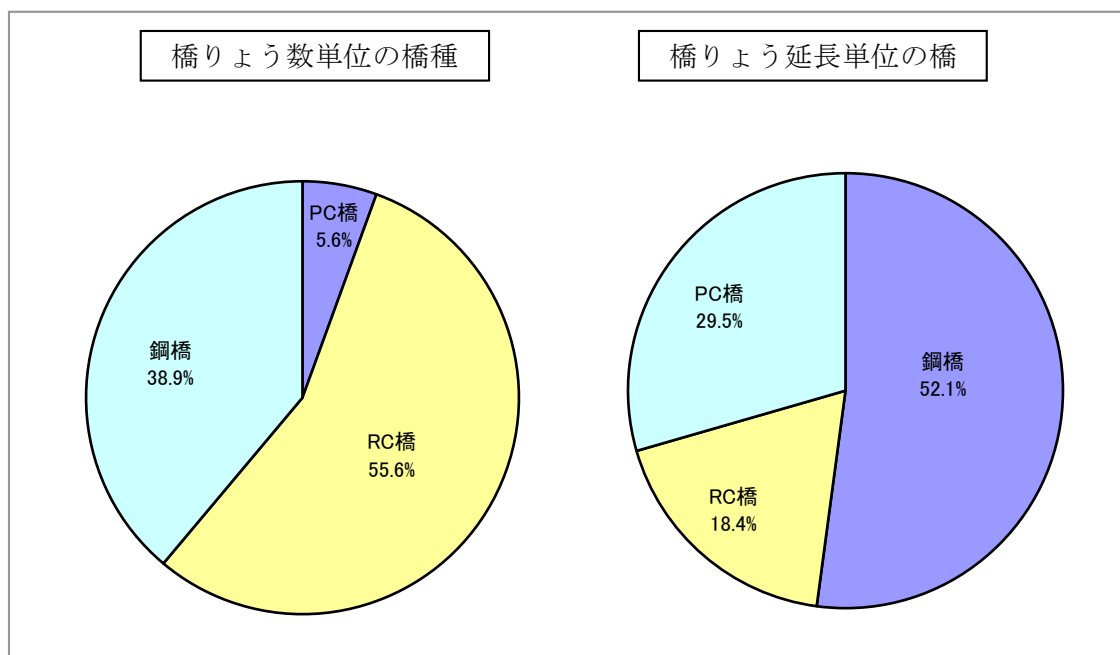


図 3-2-10-9 橋りょう種類の内訳

(4) 橋長分類

橋長別に分類すると、橋長が5m以下のものが最も多くあります。また、鶴代橋は市で唯一の100mを越える大型道路橋（鶴代橋）であり、その橋長は213mです。

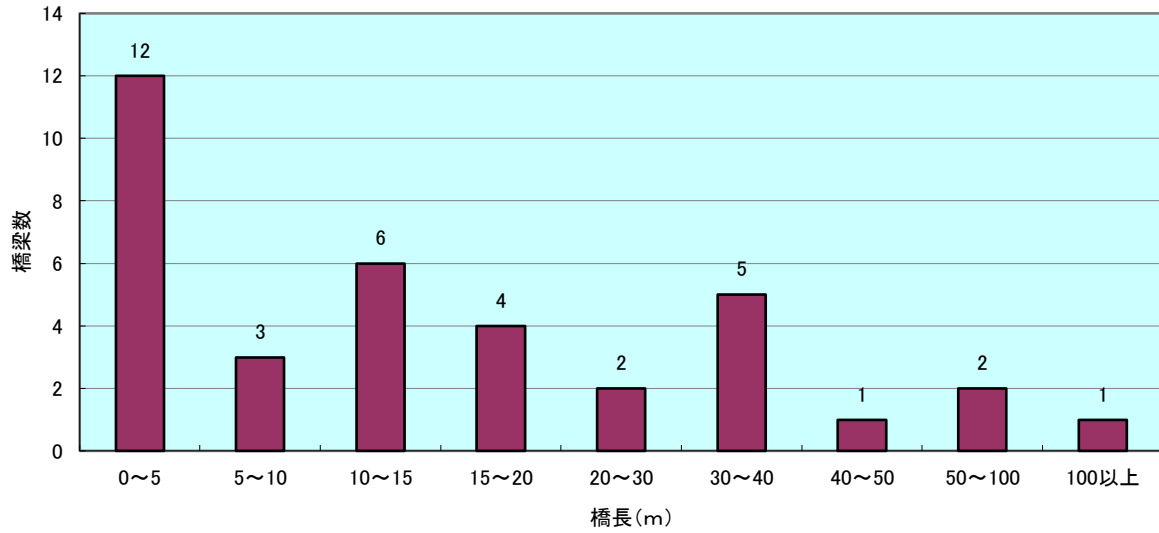


図 3-2-10-10 橋長ごとの橋りょう数

3.2.10.4. 橋りょうの劣化状況

(1) 目視点検

平成 25 年の道路法等の改正により、道路橋等について、五年に一回の頻度を基本として定期的に点検し、健全性を把握しつつ道路の効率的な維持及び修繕が図られるように必要な措置を講ずるように規定されました。本市における道路橋 36 橋のうち、平成 25 年度に架設された「北府中駅階段」を除く 35 橋について目視点検を行いました。橋りょう点検は、「道路橋定期点検要領」：平成 26 年 6 月 国土交通省 道路局（以下「点検要領」という。）に基づいて実施しています。

表 3-2-10-5 点検対象橋りょう数

橋 長	平成 27-28 年度 実施橋りょう数 (橋)	橋 種 (橋)	
		コンクリート橋	鋼 橋
橋長 15m以上の道路橋	4	3	1
橋長 15m未満の道路橋	17	17	0
歩道橋	14	2	12
合 計	35	22	13

※「北府中駅階段」は、平成 25 年度架設のため 5 年経過していません。
そのため、現時点では点検の対象外です。

表 3-2-10-6 損傷程度の判定区分

判定区分		状 態
I	健 全	構造物の機能に支障が生じていない状態。
II	予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
III	早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
IV	緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。

※「道路橋定期点検要領」：平成 26 年 6 月 国土交通省 道路局によります

(2) 目視点検結果

目視点検をした 35 橋の損傷状況は、次のとおりです。目視点検の結果では、緊急に補修が必要な (IV 判定) の橋りょうはありません。

① 目視点検結果の概要

- 全ての対象橋りょうに、大小を問わず損傷があります。
- 損傷は、主に上部工と下部工のコンクリートひび割れ、腐食です。
- 目視点検は、点検要領によります。

② 橋りょうごとの損傷程度

目視点検した橋りょうごとの損傷程度を、表 3-2-10-7 に示します。

表 3-2-10-7 目視点検した橋りょうの損傷程度

NO	橋梁名	橋種	評価区分	結果概要
1	鶴代橋	PC橋	II	・2径間地覆下面に鉄筋露出、うきが広範囲にみられる。 ・埋設伸縮の舗装ひびわれから桁下橋脚上面に流水し公園、管理施設へと滴下している
2	富士見通り立体橋	鋼橋	III	・防護柵（内側）、地覆（3径間外側）に鉄筋露出、うきが多数みられる。第三者予防措置として叩き落としをした。 ・伸縮装置に排水工がなく、下面に著しい腐食がみられる。
3	白糸橋1号	RC橋	III	・上部構造の主桁、横桁、床版に多くの鉄筋露出、剥離があり、主桁には一定間隔（50cm以下）にひびわれ（0.2mm程度）が発生している。 ・階段主桁にも多くの剥離、ひびわれが見られる。
4	白糸橋2号	RC橋	III	・上部構造の横桁、床版に多くの鉄筋露出、剥離がある。 ・主桁には一定間隔（50cm以下）にひびわれ（0.2mm程度）が発生している。
5	白糸橋3号	RC橋	III	・主桁の剥離はわずかであるが、床版（張出端部）の鉄筋露出が多くある。 ・主桁には一定間隔（50cm以下）にひびわれ（0.2mm程度）が発生している。
6	小柳橋	RC橋	III	・上部構造の主桁、横桁、床版に多くの鉄筋露出、剥離があり、主桁には一定間隔（50cm以下）にひびわれ（0.2mm程度）が発生している。 ・階段主桁にも多くの剥離、ひびわれが見られる。
7	みょうらい橋	PC橋	II	・橋台前面にひびわれが見られる。前回点検よりひび幅が0.2mm→0.7mmへの拡大が見られる。 ・地覆下面に鉄筋露出がみられる。 ・第三者予防措置で叩き落としを施した
8	中央道側道1号	RC橋	II	・主桁間詰め部（床版）に軽微な遊離石灰が見られる。また、橋台前面に影響の少ない縦ひびわれが見られる。 ・高欄の腐食が広がっている。
9	矢崎排水第三号橋	RC橋	II	・橋台前面に影響の少ない縦ひびわれが見られる。
10	256号	RC橋	II	・主桁間詰め部（床版）に軽微な遊離石灰が見られる。 ・防護柵に鉄筋露出が広がっている。
11	雑田橋	RC橋	II	・上流側に添架された歩道橋の主桁、横桁に軽微な腐食が見られる。 ・径間中央の橋脚（水路壁）にうき、剥離が生じている。
12	261号	RC橋	I	・主要な部材は健全であるが、地覆の一部が欠損している。
13	262号	RC橋	I	・主要な部材は健全、防護柵に腐食が見られる。
14	大山橋	RC橋	I	・支承のエラストイトが一部はみ出しているが、支承機能障害とはならない。
15	相模橋	RC橋	I	・主要な部材は健全であるが、防護柵に腐食が見られる。
16	264号	RC橋	II	・主桁中間部に直角方向のひびわれが数本見られる。 ・防護柵の栈材に欠損が見られる。
17	208号	RC橋	II	・主桁端部に部分的な剥離、鉄筋露出が見られる。 ・地覆、防護柵支柱に剥離、鉄筋露出が見られる。
18	265号	RC橋	I	・主要な部材は健全だが、防護柵が腐食し欠損が生じている。
19	火の見橋	RC橋	II	・主桁端部に部分的な剥離、鉄筋露出が見られる。 ・防護柵散在に腐食が見られる。
20	267号	RC橋	I	・主要な部材は健全、防護柵に腐食が見られる。 ・舗装面にひびわれが見られる。
21	270号	RC橋	II	・主桁（BOX頂版）、橋脚（BOX中央側壁）に剥離、鉄筋露出が見られる。 ・その他、袖擁壁にひびわれが見られる。

22	分倍1号橋	鋼橋	II	・橋脚下部に板厚減少をともなう腐食がみられる。 ・床版間詰め部からの遊離石灰が広範囲にみられる
23	武蔵台3丁目跨線橋	鋼橋	III	・床版に部分的に板厚減少をともなう腐食がみられる。 ・支承（102）著しい腐食により支承の機能障害が発生している。
24	第六小前歩道橋	鋼橋	III	・主桁、横桁は防食機能劣化の段階であるが、床版、階段部職上・踏板及び橋脚基部の腐食が進行している。
25	第九小前歩道橋	鋼橋	III	・上部構造の腐食は軽微であるが、階段部各部、その他で排水設備（排水樋）の腐食が進行している。
26	紅葉丘歩道橋	鋼橋	III	・端横桁、階段部職上、橋脚基部の損傷が進行している。
27	第五小前歩道橋	鋼橋	III	・路面からの雨水が箱桁内部に主桁添接部より浸入しており、主桁添接部の腐食が顕著である。 ・階段部主桁も部分的に腐食が進行している。 ・伸縮装置のシールゴムに劣化が見られる。
28	西府駅南側西府崖線歩道橋	鋼橋	II	・主桁のごく一部に点錆が見られるが、主要な部材は健全である。 ・A1橋台伸縮装置のシールゴムに劣化が見られる。
29	西武多摩川線横断歩道橋	鋼橋	II	・鋼材全体的に広範囲な腐食がみられる。 ・3径間、4径間は主桁、床版に板厚減少、膨張をともなう著しい腐食がみられる。
30	本町2丁目跨線人道橋	鋼橋	III	・5径間、6径間主桁、床版、職上げに板厚減少をともなう著しい腐食がみられる。 ・橋脚下部には孔食をともなう腐食がみられる。
31	車返団地横断歩道橋	RC橋	III	・跨道部桁、斜路部桁は概ね健全であるが、橋脚躯体の一部に剥離、鉄筋露出、橋脚梁付け根にひびわれが見られる。 ・階段主桁中間部に多くのひびわれ（幅0.2m以上、間隔0.5m未満）が見られる。
32	南白糸台横断歩道橋	鋼橋	III	・上部構造各部材、下部構造、階段部とも腐食が進行している。 ・路面の排水溝には土砂詰まりが生じている。
33	分倍河原駅人道橋	鋼橋	III	・階段地覆（5～6径間）に広範囲で鉄筋露出がみられる。 ・橋台側面にうき（800mm×300mm）がみられる。
34	府中スカイナード （府中駅北口歩道橋）	鋼橋	I	・主桁を覆う化粧板内部に雨水の漏水が部分的に見られ、床版に軽微な腐食の発生が認められたが、概ね健全の状態にある。
35	観月橋立体交差人道橋	RC橋	III	・主桁には多数のひびわれ（幅0.2m程度、間隔0.5m未満）、部分的な剥離、鉄筋露出が見られた。 ・A1橋台伸縮装置近傍に路面の凹凸（3cm）が見られた。

※「北府中駅階段」は平成25年度架設のため5年経過していません。そのため、現時点では点検の対象外です。

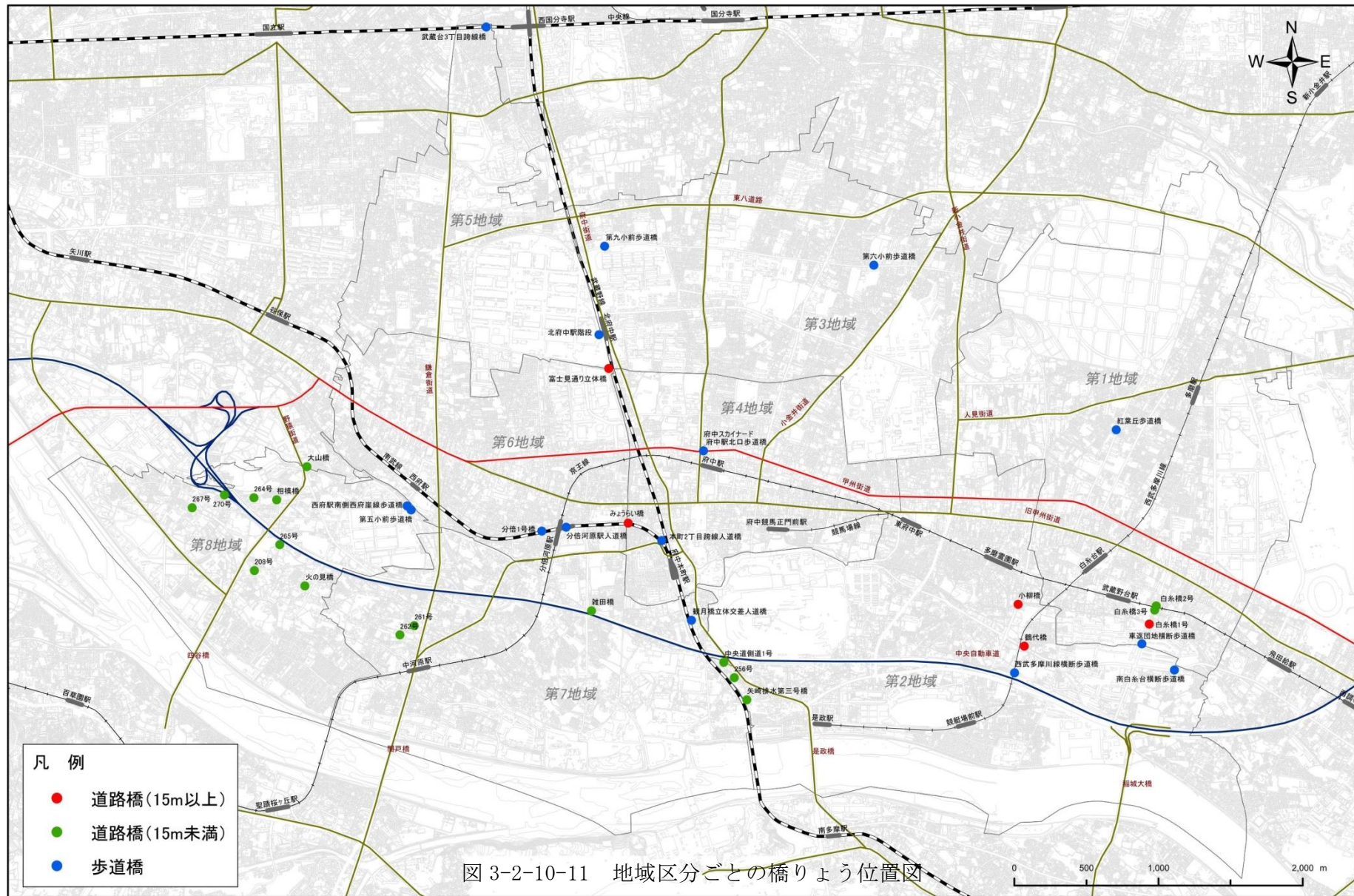
3.2.10.5. 地域別集計

市が管理する道路橋と市内に架かる歩道橋を、地域別に集計して下表に示します。また、地域区分と橋りょう位置を示した位置図を示します。

表 3-2-10-8 地域区分と該当区分内の橋りょう

地域区分	橋梁種別	橋梁名
第1地域	道路橋	白糸橋1号
		白糸橋2号
		白糸橋3号
	歩道橋	紅葉丘歩道橋
第2地域	道路橋	鶴代橋
		小柳橋
		中央道側道1号
		矢崎排水第三号橋
		256号
	歩道橋	西武多摩川線横断歩道橋
		車返団地横断歩道橋
		南白糸台横断歩道橋
第3地域	道路橋	なし
	歩道橋	第六小前歩道橋
		第九小前歩道橋
		みょうらい橋
第4地域	道路橋	本町2丁目跨線人道橋
	歩道橋	府中スカイナード 府中駅北口歩道橋

地域区分	橋梁種別	橋梁名
第5地域	道路橋	なし
	歩道橋	武蔵台3丁目跨線橋 北府中駅階段
第6地域	道路橋	富士見通り立体橋
	歩道橋	分倍1号橋 分倍河原駅人道橋
第7地域	道路橋	雑田橋
		261号 262号
	歩道橋	観月橋立体交差人道橋
第8地域	道路橋	大山橋
		相模橋
		208号
		264号
		火の見橋
		265号
		270号
	267号	
歩道橋	第五小前歩道橋 西府駅南側西府崖線歩道橋	



3.2.11. 立体横断施設等

立体横断施設等は、市管理のエレベーター、エスカレーター、ペDESTリアンデッキを対象とし、決算資料や現地確認等より箇所を確認しました。

3.2.11.1. 全体数量

府中市が管理する立体横断施設等は、ペDESTリアンデッキ、エレベーター及びエスカレーターの3種類です。その内訳は、ペDESTリアンデッキが府中駅付近に2橋、エレベーターが府中駅、府中本町駅、西府駅及び分倍河原駅付近に7基、エスカレーターが西府駅付近に4基となっています。

表 3-2-11-1 立体横断施設等全体数量

No	分類	名称	名称2	設置駅	設置年度
1	ペDESTリアン デッキ	府中駅北口	—	府中駅	1994
2		府中駅南口	—	府中駅	1995
3	エレベーター	府中駅北口歩道橋 エレベーター	—	府中駅	1994
4		府中本町駅構外北側 エレベーター	—	府中本町駅	2003
5		府中本町駅構外西側 エレベーター	—	府中本町駅	1998
6		西府駅自由通路 エレベーター	駅北側	西府駅	2009
7		西府駅自由通路 エレベーター	駅南側	西府駅	2009
8		西府駅南側歩道橋 エレベーター	—	—	2009
9		分倍河原駅南側 エレベーター	—	分倍河原駅	2012
10	エスカレーター	西府駅自由通路 エスカレーター	駅北側上り	西府駅	2009
11		西府駅自由通路 エスカレーター	駅北側下り	西府駅	2009
12		西府駅自由通路 エスカレーター	駅南側上り	西府駅	2009
13		西府駅自由通路 エスカレーター	駅南側下り	西府駅	2009

3.2.11.2. 立体横断施設等位置

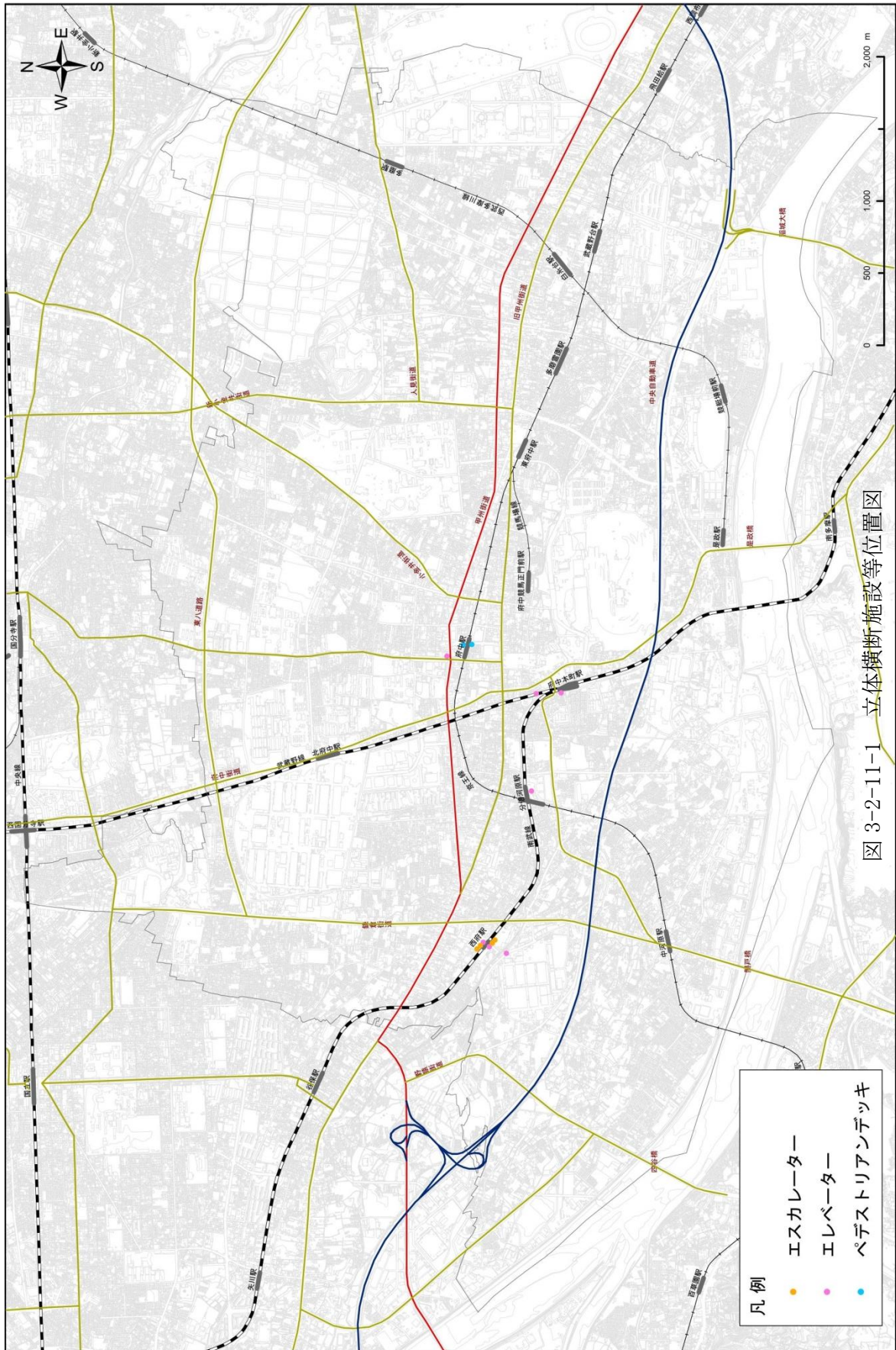


図 3-2-11-1 立体横断施設等位置図

3.2.11.3. 立体横断施設等の整備状況

- 全てのエレベーター、エスカレーターについて、定期的な点検（毎月 1 回）を行っています。また、全てのエレベーターは遠隔保守監視サービスを実施しており、機器を良好な状態に保つようになっています。
- 過去 2 年間で分倍河原駅南側エレベーターでは乗り場液晶表示板修繕やメインロープ修繕、エレベーターカゴドア修繕を実施しております。また、府中本町駅構外西側エレベーターでは、乗り場操作盤表面板の交換やかご床タイルの修理を実施しています。
- ペDESTリアンデッキの点検については今後予定しておりますが、簡易な補修について、平成 26 年度に 21 回、平成 27 年度に 30 回実施しています。

3.2.12. 大型構造物

大型構造物は、市管理の擁壁やボックスカルバート、その他構造物（西府駅自由通路）を対象としています。

3.2.12.1. 全体数量

府中市が管理する大型構造物は、26 か所です。なお、大型構造物は、主に鉄道や道路部との交差箇所、アンダーパスや地下通路部として、ボックスカルバートや地下道の擁壁などを設置しています。

表 3-2-12-1 大型構造物全体数量

名称	名称2	市道名	市道番号	構造	交差物	車両通行の有無	車線数	ポンプの有無	冠水表示板の有無
武蔵台通りアンダーパス	横街道第一	武蔵台通り		擁壁	鉄道	○	2	○	
横街道アンダーパス	横街道第二	横街道		擁壁	鉄道	○	2	○	○
西府駅地下通路-1				ボックスカルバート	鉄道	—	—	○	
西府駅地下通路-2				ボックスカルバート	鉄道	—	—	○	
西府駅自由通路				建築物	鉄道	—	—		
矢崎町3丁目歩道アンダー	是政第二架道橋		4-198	擁壁 ボックスカルバート	鉄道 /高速道路	—	—	○	○
矢崎地下道			4-132	擁壁	鉄道	—	—	○	
観月橋立体	矢崎架道橋		4-507	擁壁 ボックスカルバート	鉄道	○	1	○	○
村雨BV			4-280	擁壁	鉄道	○	1	○	○
小柳散歩道				擁壁	鉄道	—	—	○	
白糸台地下道				ボックスカルバート	鉄道	—	—		
多磨駅前地下通学路			1-88	ボックスカルバート	鉄道	—	—		
多磨霊園駅ポンプ			2-310	ボックスカルバート	鉄道	—	—	○	
白糸台通りアンダーパス		白糸台通り		擁壁	市道	○	2		
白糸台4丁目擁壁			2-204	擁壁	市道	○	1		
九中通りアンダーパス		九中通り		擁壁	市道	○	2		
新田川緑道				擁壁 ボックスカルバート	鉄道	—	—		
亀里橋アンダー			4-320	擁壁 ボックスカルバート	都道	—	—	○	
二ヶ村緑道		是政通り		擁壁 ボックスカルバート	市道	—	—	○	
富士見通り立体		富士見通り		擁壁	鉄道	—	—		

3.2.12.2. 大型構造物位置

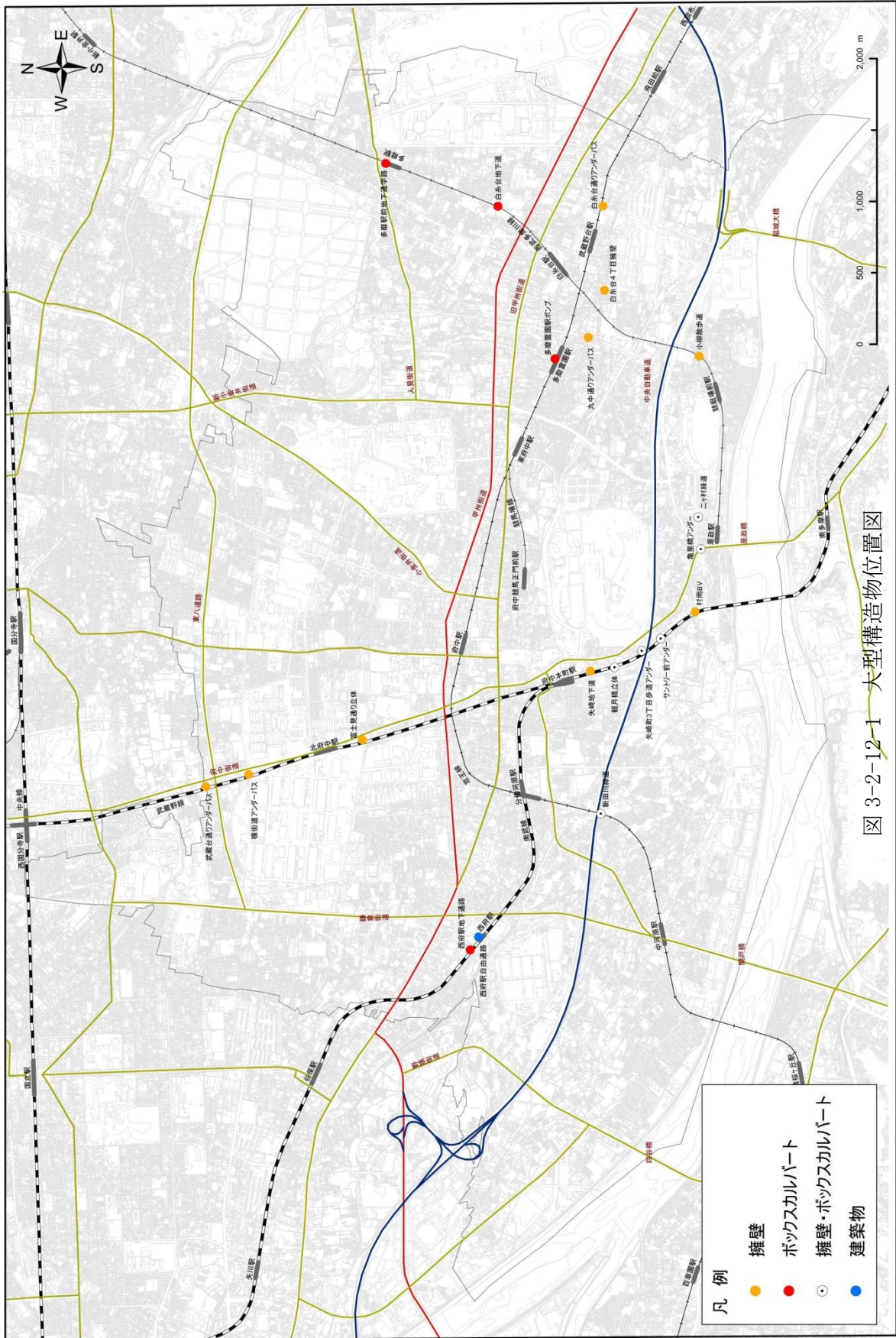


図 3-2-12-1 大型構造物位置図

3.2.12.3. 大型構造物の整備状況

- 全ての大型構造物に付帯する排水ポンプや冠水表示板について、定期的な点検（年1回）を行っています。